

PeopleSoft®

EnterpriseOne 8.9
エンジニアリング・プロジェクト管理
PeopleBook

2003 年 9 月

PeopleSoft EnterpriseOne 8.9
エンジニアリング・プロジェクト管理 PeopleBook
SKU SCM89JEP0309

Copyright 2003 PeopleSoft, Inc. All rights reserved.

本書に含まれるすべての内容は、PeopleSoft, Inc. (以下、「ピープルソフト」) が財産権を有する機密情報です。すべての内容は著作権法により保護されており、該当するピープルソフトとの機密保持契約の対象となります。本書のいかなる部分も、ピープルソフトの書面による事前の許可なく複製、コピー、転載することを禁じます。これには電子媒体、画像、複写物、その他あらゆる記録手段を含みます。

本書の内容は予告なく変更される場合があります。ピープルソフトは本書の内容の正確性について責任を負いません。本書で見つかった誤りは書面にてピープルソフトまでお知らせください。

本書に記載されているソフトウェアは著作権によって保護されており、このソフトウェアの使用許諾契約書に基づいてのみ使用が許諾されます。この使用許諾契約書には、開示情報を含むソフトウェアと本書の使用条件が記載されていますのでよくお読みください。

PeopleSoft、PeopleTools、PS/nVision、PeopleCode、PeopleBooks、PeopleTalk、Vantiveはピープルソフトの登録商標です。Pure Internet Architecture、Intelligent Context Manager、The Real-Time Enterpriseはピープルソフトの商標です。その他すべての会社名および製品名は、それぞれの所有者の商標である場合があります。ここに含まれている内容は予告なく変更されることがあります。

オープンソースの開示

この製品には、Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>) が開発したソフトウェアが含まれています。Copyright (c) 1999–2000 The Apache Software Foundation. All rights reserved. このソフトウェアは「現状のまま」提供されるものとし、特定の目的に対する商品性および適格性の黙示保証を含む、いかなる明示または黙示の保証も行いません。Apache Software Foundationおよびその供給業者は、損害の発生原因を問わず、責任の根拠が契約、厳格責任、不法行為（過失および故意を含む）のいずれであっても、また損害の可能性が事前に知らされていたとしても、このソフトウェアの使用によって生じたいかなる直接的損害、間接的損害、付随的損害、特別損害、懲罰的損害、結果的損害に関しても一切責任を負いません。これらの損害には、商品またはサービスの代用調達、使用機会の喪失、データまたは利益の損失、事業の中断が含まれますがこれらに限らないものとします。

ピープルソフトは、いかなるオープンソースまたはシェアウェアのソフトウェアおよび文書の使用または頒布に関しても一切責任を負わず、これらのソフトウェアや文書の使用によって生じたいかなる損害についても保証しません。

目次

エンジニアリング・プロジェクト管理	1
プロジェクトのライフサイクル	2
エンジニアリング・プロジェクト管理システムの機能	3
システム・インテグレーション	3
エンジニアリング・プロジェクト管理のテーブル	5
エンジニアリング・プロジェクト管理の設定	5
作業オーダーの伝票タイプ固定情報の定義	6
エンジニアリング・プロジェクトのタスク・タイプ	15
プロジェクト固有の資材の定義	15
EPM の行タイプと行タイプ固定情報の設定	15
EPM プロジェクト・ワークベンチの原価分類の設定	16
エンジニアリング・プロジェクト管理のユーザー定義コード	19
作業原価インテグレーションの設定	21
Microsoft®Project とのインテグレーション	22
プロジェクトの立上げ	25
プロジェクトの作成	25
プロジェクトの処理	44
プロジェクト・タスクの追加	44
プロジェクト・タスクのスケジューリング	50
タスクへのリソースの割当て	54
見積費用および計画費用の割当て	54
見積りおよび提案の生成	57
見積りの処理	58
オンライン提案の処理	65
プロジェクト・プランニング	66
プロジェクト見積りの作業原価予算へのアップロード	67
プロジェクト所要量計画(PRP)	68
プロジェクト所要量のセットアップの考慮事項	69
プロジェクト所要量計画の生成	69
プロジェクト所要量計画の出力データ	70
計画およびスケジューリング	71
プロジェクトのオーダーの作成	71
プロジェクトの資材の購買	71
再販するプロジェクト品目の購買	74
既存の作業オーダーのプロジェクトへの添付	79
プロジェクトのコミットメント	80

在庫管理コミットメントの作成	80
会計のコミットメントの作成	82
プロジェクトの実行および統制	85
プロジェクト作業オーダーの出庫および完了	85
正味変更	86
プロジェクトの会計に関する考慮事項	87
仕掛品の再評価	88
実際原価の EPM ワークベンチへの積上げ	91
プロジェクトのレポートとアラート	92
プロジェクト・スケジュール・レポート	92
プロジェクト原価レポート	95
プロジェクト在庫レポート	97
プロジェクト完了	100
プロジェクト締切りアナライザ	100

エンジニアリング・プロジェクト管理

J.D. Edwards のエンジニアリング・プロジェクト管理 (EPM) により、受注設計生産、受注生産を行う企業は収益性、生産性を向上させ、所有済関連データを有効活用することができます。EPM システムでは、次の項目を実行していくことで、目標を達成します。

- プロジェクトの詳細情報を検討しトラッキングする
- プロジェクトのタスクのスケジュールを立てる
- 最新の原価情報を検討する

さらに、EPM をサプライチェーンのアプリケーションと完全に統合させて、プロジェクトの効率化を推進します。

EPM は、一般的に受け入れられているプロジェクト管理の実践と戦略に沿って機能します。次の 4 つの段階をプロジェクトが進行していくように、情報とメカニズムを提供します。

- プロジェクト立上げ
- プロジェクト・プランニング
- プロジェクト実行
- プロジェクト完了

立上げ段階では、顧客からの見積要求の分析、プロジェクトのスコープの見積り、プロジェクト情報の定義を行います。これには、見積提出に必要となる作業階層構造 (WBS)、タスクのスケジュール、原価見積りなどが含まれます。

見積りが顧客に承認され、プロジェクトのスコープ、タスク、スケジュール、リソース、財務情報の検討が完了したら、プロジェクト・プランニング段階に移ります。タスクにリソースを割り当て、作業オーダーの条件を満たすための財務処理や在庫引当などを行います。プロジェクトのベースラインの完成が、プランニングの最終段階になります。これ移行のプロジェクトへの変更は、すべて変更管理を使用します。

プランニングが完了し、作業階層構造、予算金額が固定されたら、プロジェクトは実行および管理の段階に移ります。この段階では、スケジュールリングされたプロジェクト・タスクを実行し、進捗、実行内容を確認し計画通りに進んでいなければ補整措置を取れるようにします。

プロジェクトの完了段階には、タスク、製品の出荷、資産の資本化、財務報告に関連した完了処置があります。

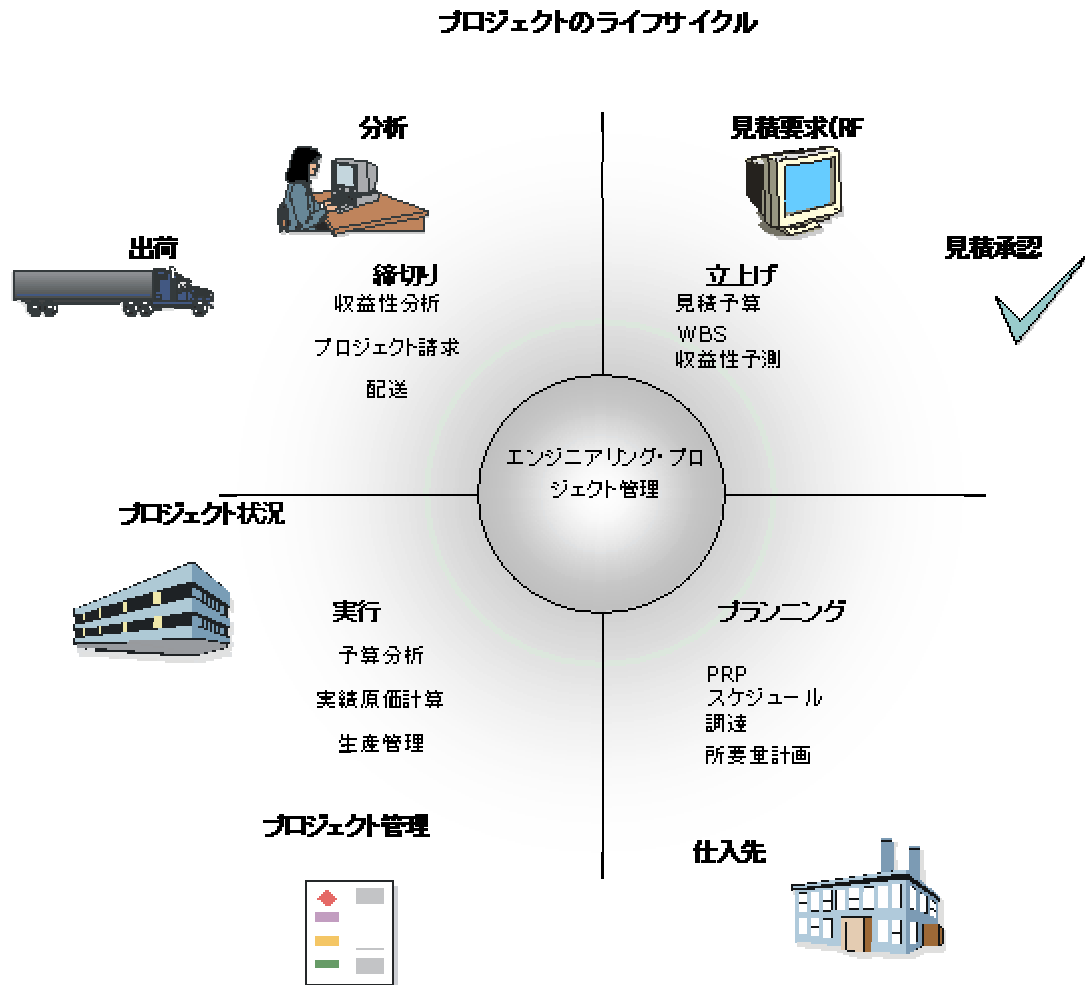
受注生産や受注設計生産プロジェクトに関連したタスク、アクティビティのすべてを完了するには、こうしたアクティビティを実行、管理する J.D. Edwards 製品と EPM システムを統合します。

注:

EPM システムと統合する J.D. Edwards のシステムについては、製造現場管理システム、製造原価計算、製造会計、および作業原価などのガイドをご覧ください。

プロジェクトのライフサイクル

次の図は、プロジェクトの典型的な進行について概説しています。



エンジニアリング・プロジェクト管理システムの機能

大規模プロジェクトの作成、実行をサポートするために、エンジニアリング・プロジェクト管理システムは次の機能を提供し、プロジェクト管理に含まれる様々なタスクを遂行できるようにします。

原価計算と予算作成	作成、開始されたプロジェクトの原価を作成、管理できます。原価見積りは、見積りが承認されるとプロジェクト予算にアップロードされます。プロジェクト予算を設定して原価の対予算実績も管理できます。
見積り	見積りを作成して見込客が希望する品目の見積価格の提供できます。
提案	希望を受けた製品に付随する資料を作成し、顧客がその資料を検討できるようにします。
資材調達計画	プロジェクトに必要な資材のオーダー所要量を提案し、プロジェクトのアクティビティによって生じた需要/供給を明確にします。
スケジュールとレポート	スケジュールを作成、管理してすべてのプロジェクト・アクティビティがプロジェクトの最終品目に向けて計画どおり進んでいるかトラッキングできます。
警告	スケジュールどおりにプロジェクトが進行していない場合、プロジェクト管理者に警告を出すことができます。

システム・インテグレーション

次の表は、エンジニアリング・プロジェクト管理をサポートする J.D. Edwards のシステムの特徴をまとめたものです。

在庫管理	在庫品目を定義する在庫管理システムを使用します。このシステムにより、サプライチェーン全体を通して在庫を処理できます。プロジェクト固有の品目を定義し、一般在庫と区別できます。
製造データ管理	<p>製造データ管理システムを使用して、製造プロジェクト・タスクを実行するために必要な製造情報を設定します。次のような情報がここに含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none">• 部品表• 作業場• 作業工程• 製造原価計算情報• 設計変更管理 <p>このシステムは工程能力や資材所要量計画に関するクリティカルな情報を管理するためにも使用されます。</p>
製造現場管理	製造現場管理システムを使用してプロジェクト用に作成された製造作業オーダーの処理、資材出庫、作業オーダーの実行、プロジェクト品目の作成に必要な時間と労力の報告を行います。

所要量計画

システムを使用して、現行の手持在庫数量と需要についての情報を検討し、次の情報を予測します。

- 製品の販売または交換部品
- 事業所間の在庫ニーズ
- 設備/工場の保全に必要な部品所要量
- 購買オーダーまたは製造現場生産から発生する入庫品目の引当可能数量

作業原価

作業原価システムを使用してプロジェクト、作業を管理し、原価、収益をモニタできます。このシステムを使用して次のような処理が可能です。

- 作業について原価コード構造を作成し管理する
- 原価内訳構成(CBS)を作成して、作業階層構造(WBS)と付き合わせる
- 作業予算を設定する
- 作業の各タスクに対するスケジュールを設定する
- プロジェクトや作業に関連する費用および収益をトラッキングし管理する
- 収益性を分析する
- サービス請求/契約請求システムを使用する
- 変更管理を使用する

保有資産管理

保有資産管理システムを使用して、設備の保守、サービスを行います。このシステムはダウンタイムや修理費の削減、生産性と品質向上に役立ちます。収益、原価、資産運用をトラッキングでき、事態がひっ迫する前に問題に対応、解決するためのワークフロー・アラートを使用できます。

品質管理

品質管理システムを使用して、プロジェクトの一部として生産する品目の資材の品質に関連したデータを入力、管理します。管理のゆきとどいた一貫性のある方法で品質試験の結果を記録し、高品質の製品を製造するためにモニタリングできます。

受注管理

受注管理システムを使用して、次の情報をトラッキングできます。

- 多様なユーザー定義情報
- 定期的なオーダーやオーダー・テンプレート
- 顧客および品目優先プロファイル
- オンライン在庫照会および約束可能数量情報
- オーダーと行状況に関する包括的トラッキング情報

調達管理

調達管理システムを使用して次のような多様な購買アクティビティをトラッキングします。

- 在庫の補充
- プロジェクト用の資材購入
- 特定の部署、作業、またはビジネスユニットに対する、購入した部材やサービスの費用配賦

契約請求、サービス請求

エンジニアリング・プロジェクト管理に作業原価システムを使用した場合、プロジェクトの一部として生み出された商品とサービスの顧客への請求に契約請求/サービス請求システムを使用できます。両システム共に、部門間振替、対顧客請求に利用できる特徴を備えています。

契約請求/サービス請求システムを使用して次の処理を行います。

- 商品やサービスの原価の計上
- 収益計上のための原価の精算
- 提供した商品とサービスの料金請求

- 費用の請求事由を示す証明書の提供
- 商品とサービスの仕訳作成

注:

エンジニアリング・プロジェクト管理を有効活用するために、前述の表に示したシステムの機能についてよく理解するようにしてください。

エンジニアリング・プロジェクト管理のテーブル

エンジニアリング・プロジェクト管理は、他の J.D. Edwards システムと統合されているため、エンジニアリング・プロジェクト管理でプロジェクトを作成、処理する際、他のシステムのテーブルを使用します。たとえば、作業オーダー・マスター(F4801)を使用してプロジェクト見出しやタスク情報を保存します。さらに、次のテーブルにもエンジニアリング・プロジェクト管理システム固有のプロジェクト情報を保存します。

MPM プロジェクト属性(F31P01)	このテーブルでは、状況情報やプロジェクトに設定できる処理フラグのようなプロジェクト見出しに入力される情報が保存されます。
プロジェクト見積見出し(F31P10)	このテーブルでは、見積りバージョンや見積り作成先の顧客番号などのプロジェクトの見出し情報が保存されます。
プロジェクト見積明細(F31P11)	このテーブルでは、各行の粗利益率と見積額を共に見積りに含めるために選択する作業階層構造からの明細行が保存されます。
タスク従属関係(F31P12)	このテーブルでは、タスク間遅延時間などの作業階層構造のタスク間に設定したタスク従属関係が保存されます。
原価分類テーブル(F31P21)	このテーブルでは、正しくプロジェクトの原価情報を積み上げるために必要な原価タイプと勘定科目マッピングが保存されます。
プロジェクト引当明細テーブル(F410211)	このテーブルにはプロジェクト固有の在庫引当が保存されます。引当がリリースされた時点で、このレコードは削除されます。
関連オーダー相互参照テーブル(F4080)	プロジェクトの記述タスクを関連オーダーにリンクするために使用されるオーダー情報が保存されます。このテーブルには、記述タスクのオーダー番号とオーダー・タイプ、および伝票タイプ、合計原価、オーダー状況などの関連オーダーからの明細情報が含まれます。

エンジニアリング・プロジェクト管理の設定

エンジニアリング・プロジェクト管理(EPM)システムを使用するには、さまざまなプロジェクト・コンポーネントを適切に処理するために必要な情報を設定する必要があります。エンジニアリング・プロジェクト管理の設定には、ユーザー定義コード、伝票タイプ固定情報などその他の必要な情報が含まれます。さらに、プロジェクトの費用を正しく積み上げるための費用の分類体系やプロジェクト固有項目の設定も必要になります。

プロジェクトで作業原価システムの機能を使用する場合、プロジェクトの作業マスターと勘定科目表を定義する必要があります。

〈EPM プロジェクト・ワークベンチ〉プログラム(P31P011)にアクセスを持たない社員とプロジェクトに関する連絡を円滑にするために、Microsoft Project にプロジェクト情報をエクスポートするプロセスを設定できます。

作業オーダーの伝票タイプ固定情報の定義

J.D. Edwards のソフトウェアでは、特定のトランザクション・タイプを指定するために伝票タイプが使用されます。〈伝票タイプの保守管理〉プログラム(P40040)で伝票タイプの特性を定義します。このプログラムで定義される伝票タイプ固定情報は、すべてのソフトウェア・トランザクションに影響します。各伝票タイプのオーダー・タイプは、そのためのアクティビティの処理方法をシステムが認識できるよう定義する必要があります。たとえば、製造作業オーダーの伝票タイプは、製造作業オーダーの処理に関連する適切なトランザクションに対し WO に設定できます。

さまざまな作業オーダーの伝票タイプを区別するには、それぞれの作業オーダー伝票タイプに特定のオーダー・タイプを割り当てます。たとえば、製造作業オーダーには、オーダー・タイプ 02 を関連付けます。

作業オーダーの処理に関する次のオーダー・タイプの値は、ユーザー定義コード・テーブル 48/OT (オーダー・タイプ)に保存され、ハードコード化されます。

伝票タイプ	オーダー・タイプ
製造作業オーダー	02
製造再作業オーダー	03
設備作業オーダー	04
サービス・オーダー	05
保証請求オーダー	06
仕入先回収オーダー	07
設計変更オーダー	08
設計変更要求オーダー	09
不動産管理	10
エンジニアリング・プロジェクト管理の集計オーダー	11
レート・スケジュール	12

参照

- 『在庫管理』ガイドの「伝票タイプ情報の設定」

既存の伝票タイプの変換

〈アップグレード変換〉メニュー(GH9619A)から〈F40039 から ERP9.0 への変換〉を選択します。

J.D. Edwards ERP9.0 ソフトウェアでは、各作業オーダー・タイプは特定の作業オーダー・タイプ(A201)ごとに指定されています。伝票タイプ・マスター(F40039)に既存のレコードがある場合、レコードの[作業オーダー・タイプ]フィールド(A201)には特定の値が必要です。〈F40039 から ERP9.0 への変換〉プログラム(R31P40039)を一度だけ実行し、このフィールドに希望する値を入力します。処理オプションに入力する値を決定します。使用システムに応じて、該当タブのフィールドに値を入力します。たとえば、製造作業オーダーでは製造タブでフィールドに値を入力します。このプログラムは、テスト・モードと最終モードのどちらでも実行できます。

処理オプション:伝票タイプ・マスター(F40039)の変換(R31P0039)

処理タブ

この処理オプションでは、テスト・モードと最終モードのどちらで変換プログラムを実行するかを指定します。

1. モード

blank = テスト

1 = 最終

テスト・モードと最終モードのどちらで実行するかを指定します。

有効な値は次のとおりです。

1 テスト・モード(デフォルト)

2 最終モード

製造タブ

これらの処理オプションは、変換中に製造オーダーに割り当てられるオーダー・タイプを指定します。

1. 製造オーダーのオーダー・タイプ値 01

製造作業オーダーのオーダー・タイプを指定します。

2. 製造オーダーのオーダー・タイプ値 02

製造作業オーダーのオーダー・タイプを指定します。

3. 製造オーダーのオーダー・タイプ値 03

製造作業オーダーのオーダー・タイプを指定します。

4. 製造オーダーのオーダー・タイプ値 04

製造作業オーダーのオーダー・タイプを指定します。

5. 製造オーダーのオーダー・タイプ値 05

製造作業オーダーのオーダー・タイプを指定します。

製造再作業タブ

これらの処理オプションは、変換中に製造再作業オーダーに割り当てられるオーダー・タイプを指定します。

1. 設計変更要求オーダーのオーダー・タイプ値 01

製造再作業オーダーのオーダー・タイプを指定します。

2. 設計変更要求オーダーのオーダー・タイプ値 02

製造再作業オーダーのオーダー・タイプを指定します。

3. 設計変更要求オーダーのオーダー・タイプ値 03

製造再作業オーダーのオーダー・タイプを指定します。

4. 設計変更要求オーダーのオーダー・タイプ値 04

製造再作業オーダーのオーダー・タイプを指定します。

5. 設計変更要求オーダーのオーダー・タイプ値 05

製造再作業オーダーのオーダー・タイプを指定します。

設備タブ

これらの処理オプションは、変換中に設備オーダーに割り当てられるオーダー・タイプを指定します。

1. 設備オーダーのオーダー・タイプ 01

サービス作業オーダーのオーダー・タイプを指定します。

2. 設備オーダーのオーダー・タイプ 02

サービス作業オーダーのオーダー・タイプを指定します。

3. 設備オーダーのオーダー・タイプ 03

サービス作業オーダーのオーダー・タイプを指定します。

4. 設備オーダーのオーダー・タイプ 04

サービス作業オーダーのオーダー・タイプを指定します。

5. 設備オーダーのオーダー・タイプ 05

サービス作業オーダーのオーダー・タイプを指定します。

サービス/ワランティ管理タブ

これらの処理オプションは、変換中にサービスに割り当てられるオーダー・タイプを指定します。

1. サービス・オーダーのオーダー・タイプ値 01

サービス作業オーダーのオーダー・タイプを指定します。

2. サービス・オーダーのオーダー・タイプ値 02

サービス作業オーダーのオーダー・タイプを指定します。

3. サービス・オーダーのオーダー・タイプ値 03

サービス作業オーダーのオーダー・タイプを指定します。

4. サービス・オーダーのオーダー・タイプ値 04

サービス作業オーダーのオーダー・タイプを指定します。

5. サービス・オーダーのオーダー・タイプ値 05

サービス作業オーダーのオーダー・タイプを指定します。

保証請求タブ

これらの処理オプションは、変換中に保証請求オーダーに割り当てられるオーダー・タイプを指定します。

1. ワランティ請求オーダーのオーダー・タイプ値 01

保証請求オーダーのオーダー・タイプを指定します。

2. ワランティ請求オーダーのオーダー・タイプ値 02

保証請求オーダーのオーダー・タイプを指定します。

3. ワランティ請求オーダーのオーダー・タイプ値 03

保証請求オーダーのオーダー・タイプを指定します。

4. ワランティ請求オーダーのオーダー・タイプ値 04

保証請求オーダーのオーダー・タイプを指定します。

5. ワランティ請求オーダーのオーダー・タイプ値 05

保証請求オーダーのオーダー・タイプを指定します。

仕入先回収タブ

これらの処理オプションは、変換中に仕入先回収オーダーに割り当てられるオーダー・タイプを指定します。

1. 仕入先回収オーダーのオーダー・タイプ値 01

仕入先回収オーダーのオーダー・タイプを指定します。

2. 仕入先回収オーダーのオーダー・タイプ値 02

3. 仕入先回収オーダーのオーダー・タイプ値 03

仕入先回収オーダーのオーダー・タイプを指定します。

4. 仕入先回収オーダーのオーダー・タイプ値 04

仕入先回収オーダーのオーダー・タイプを指定します。

5. 仕入先回収オーダーのオーダー・タイプ値 05

仕入先回収オーダーのオーダー・タイプを指定します。

ECO タブ

これらの処理オプションは、変換中に設計変更オーダーに割り当てられるオーダー・タイプを指定します。

1. ECO 用オーダー・タイプ値 01

ECO(設計変更オーダー)のオーダー・タイプを指定します。

2. ECO 用オーダー・タイプ値 02

ECO(設計変更オーダー)のオーダー・タイプを指定します。

3. ECO 用オーダー・タイプ値 03

ECO(設計変更オーダー)のオーダー・タイプを指定します。

4. ECO 用オーダー・タイプ値 04

ECO(設計変更オーダー)のオーダー・タイプを指定します。

5. ECO 用オーダー・タイプ値 05

ECO(設計変更オーダー)のオーダー・タイプを指定します。

ECO 要求タブ

これらの処理オプションは、変換中に設計変更要求オーダーに割り当てられるオーダー・タイプを指定します。

1. 設計変更要求オーダーのオーダー・タイプ値 01

設計変更要求オーダーのオーダー・タイプを指定します。

2. 設計変更要求オーダーのオーダー・タイプ値 02

設計変更要求オーダーのオーダー・タイプを指定します。

3. 設計変更要求オーダーのオーダー・タイプ値 03

設計変更要求オーダーのオーダー・タイプを指定します。

4. 設計変更要求オーダーのオーダー・タイプ値 04

設計変更要求オーダーのオーダー・タイプを指定します。

5. 設計変更要求オーダーのオーダー・タイプ値 05

設計変更要求オーダーのオーダー・タイプを指定します。

不動産管理タブ

これらの処理オプションは、変換中に不動産管理オーダーに割り当てられるオーダー・タイプを指定します。

1. 不動産管理オーダーのオーダー・タイプ値 01

資産管理オーダーのオーダー・タイプを指定します。

2. 不動産管理オーダーのオーダー・タイプ値 02

資産管理オーダーのオーダー・タイプを指定します。

3. 不動産管理オーダーのオーダー・タイプ値 03

資産管理オーダーのオーダー・タイプを指定します。

4. 不動産管理オーダー用のオーダー・タイプ値 04

資産管理オーダーのオーダー・タイプを指定します。

5. 不動産管理オーダー用のオーダー・タイプ値 05

資産管理オーダーのオーダー・タイプを指定します。

レート・スケジュールタブ

これらの処理オプションは、変換中にレート・スケジュールに割り当てられるオーダー・タイプを指定します。

1. レート・スケジュール用のオーダー・タイプ値 01

レート・スケジュールのオーダー・タイプを指定します。

2. レート・スケジュール用のオーダー・タイプ値 02

レート・スケジュールのオーダー・タイプを指定します。

3. レート・スケジュール用のオーダー・タイプ値 03

レート・スケジュールのオーダー・タイプを指定します。

4. レート・スケジュール用のオーダー・タイプ値 04

レート・スケジュールのオーダー・タイプを指定します。

5. レート・スケジュール用のオーダー・タイプ値 05

レート・スケジュールのオーダー・タイプを指定します。

EPM 集計オーダータブ

これらの処理オプションは、変換中に EPM 集計オーダーに割り当てられるオーダー・タイプを指定します。

1. EPM 集計オーダー用のオーダー・タイプ値 01

2. EPM 集計オーダー用のオーダー・タイプ値 02

3. EPM 集計オーダー用のオーダー・タイプ値 03

4. EPM 集計オーダー用のオーダー・タイプ値 04

5. EPM 集計オーダー用のオーダー・タイプ値 05

オーダー・タイプの変換

Windows 環境の J.D. Edwards では、〈システム管理ツール〉メニュー(GH9011)から〈バッチ・バージョン〉を選択します。

J.D. Edwards ERP9.0 ソフトウェアでは、各作業オーダーは伝票タイプ別に指定されている必要があります。たとえば、製造作業オーダーが伝票タイプ WO の場合、設備オーダーには別の伝票タイプが割り当てられなければなりません。各作業オーダーがそれぞれ別の伝票タイプを持つようにするには、〈オーダー・タイプ変換〉プログラム(R31P802)を実行します。このプログラムは、処理オプションの定義を基に作業オーダーに新しい伝票タイプを割り当てます。

処理オプション:オーダー・タイプ変換(R31P802)

デフォルト・タブ

この処理オプションは、選択された作業オーダーが変換される新しいオーダー・タイプを定義します。

1. 変換先のオーダー・タイプ

新規のオーダー・タイプを指定します。オーダーはこのオーダー・タイプに変換されます。ここで指定したオーダー・タイプが、選択したレコードのデフォルトのオーダー・タイプになります。

処理タブ

この処理オプションでは、テスト・モードと最終モードのどちらで変換プログラムを実行するかを指定します。

1. モード

ブランク = テスト

1 = 最終

プログラムを最終モードで実行するか、テスト・モードで実行するかを指定します。プログラムをテスト・モードで実行すると、レポートが生成されますがデータは更新されません。最終モードで実行すると、作業オーダー・マスター(F4801)のオーダー・タイプが更新されます。有効な値は次のとおりです。

blank = テスト・モード

1 = 最終モード

エンジニアリング・プロジェクトのタスク・タイプ

エンジニアリング・プロジェクト管理により、WBS の一部としていくつもの異なるタスク・タイプを使用できます。各タスク・タイプは、プロジェクト管理者やプロジェクト責任者のさまざまな任務まで含む場合もあるプロジェクトに関連したアクティビティの各タイプを示します。〈伝票タイプ保守管理〉(P40040)で設定されたタスク・タイプのみが使用できます。

エンジニアリング・プロジェクト管理には、製造タスクと非製造タスクの 2 つのカテゴリがあります。非製造タスクには、集計/明細タスク、設備オーダー、サービス・オーダーなどがあります。製造タスクには、作成、サービス、管理に使用する製造作業オーダーがあります。製造タスクが常に品目と関連している一方、非製造タスクでは品目番号は任意です。WBS のすべてのタスクは、作業オーダー・マスター(F4801)に保存されている作業オーダー・マスター・レコードです。

また、タスク・タイプによって、原価の積上げの設定や実行方法が決まります。製造タスクでは、原価は原価タイプ別にマッピングされ、製造原価テーブル(F3102)に保存されます。非製造タスクでは、原価は金額別にマッピングされ、取引明細テーブル(F0911)に保存されます。

プロジェクト固有の資材の定義

EPM プロジェクトを処理する際、購入するまたは一般在庫からプロジェクト用に製造する資材を区別する必要があります。プロジェクト固有としてプロジェクトで使用する品目を定義しない場合、プロジェクト供給という面で問題が発生する場合があります。プロジェクト固有の資材を定義することで、次の処理を実行できます。

- プロジェクト固有の在庫引当を管理する
- 完了時点でプロジェクト固有としての最終品目を認識する
- プロジェクト固有の会計上のコミットメントを実行する

〈事業所品目〉プログラム(P41026)で品目を設定する際、在庫タイプ・コードUDCテーブル(41/1)から 2 つのコードのうちいずれかを割り当てることで、プロジェクト固有品目を定義します。現在 2 つの事前に定義されたコードがあります。G(プロジェクト用製造品目)と H(プロジェクト用購入品目)です。両コード共、特殊取扱コード P を含んでおり、2 つの在庫タイプが設定された品目はプロジェクト固有として処理されることを示します。計画作成のため、[記述 2]フィールドには、品目が購入されるのか製造されるのかを示すコードが含まれます。

EPM の行タイプと行タイプ固定情報の設定

特定の在庫タイプを割り当ててプロジェクト固有として品目を定義することに加え、プロジェクトで使用する品目の会計上のコミットメントを管理できる行タイプを使用してプロジェクト固有品目を設定します。〈事業所品目〉プログラム(P41026)でプロジェクト固有品目を設定する際、在庫インターフェイス C で定義される行タイプを割り当てます。在庫インターフェイスは、〈行タイプ固定情報〉プログラム(P40205)の行タイプのその他の行タイプ固定情報に沿って設定します。

この在庫インターフェイスにより、在庫品目の会計上のコミットメントを作成できます。在庫インターフェイス C は、在庫インターフェイス Y(在庫)の機能と A(勘定科目)と B(勘定科目と非在庫)を結合します。会計上のコミットメントを作成できるので、プロジェクト管理者は作業原価システムを使用して最終予測原価を算出できます。

注:

会計上のコミットメントを作成するには、コミットメント伝票タイプ UDC テーブル(40/CT)にコミットメント伝票タイプを定義する必要があります。

行タイプの[資材出庫の呼出し]オプションを有効にして、資材が入荷したら作業オーダー用に購買された資材が自動的に出庫されるようにもできます。

参照

- 行タイプ固定情報の設定については、『調達管理』ガイドの「オーダー行タイプの設定」

EPM プロジェクト・ワークベンチの原価分類の設定

プロジェクト関連の原価管理は、プロジェクト管理者にとって最も重要な事項の 1 つです。予算を管理するために、プロジェクト管理者はプロジェクトのライフサイクルを通じてどの時点のどのプロジェクト・タスクについて報告された実際原価でも検討できる必要があります。プロジェクト管理者がプロジェクトのどの段階でも実際原価と見積原価、予算原価、計画原価を比較できるよう、見積原価に利用できる同じ原価バケットに実際原価を関連づける必要があります。さらに、正しい原価バケットに原価をマッピングすることで、WBS の各明細レベルから次の親レベルへ、さらにプロジェクト・レベルへと原価を積み上げることができます。EPM プロジェクト・ワークベンチ・プログラムで使用されている原価バケットの例としては、労務、資材、その他、特別があります。原価分類 UDC テーブル (31P/CC)でユーザー定義コードとしてこれらの原価バスケットを設定します。

〈原価分類〉プログラム(P31P301)により、原価を原価タイプ別、勘定科目コード別のどちらでも原価バケットにマッピングできます。これらのオプションにより、プロジェクトは、製造作業オーダーのような製造タスクと、プロジェクト管理タスク、出張などの非製造タスクの 2 つのタイプを持つことができます。原価タイプ別に保存されている製造原価テーブル(F3102)から製造タスクに関連する実際原価を取り込みます。非製造タスクに関連する原価は、取引明細テーブル(F0911)に保存されます。従って、非製造タスク原価をプロジェクト管理者が確認できようにし、プロジェクト構造の上位レベルまで原価を積み上げるために、該当勘定科目とユーザー定義の原価バケットを関連付ける必要があります。

次の組合せのいずれかに対して原価タイプ、勘定科目マッピングを定義できます。

- 特定プロジェクトの事業所とプロジェクト番号
- プロジェクト番号がブランクになっているプロジェクトの事業所
- すべての事業所とプロジェクト(両フィールド共ブランクのまま)

前のリストは、〈EPM プロジェクト・ワークベンチ〉プログラム(P31P001)で原価を表示し、実際原価を積み上げるために正しいカテゴリを取り込む際に使用される階層を定義します。この情報は原価分類テーブル(F31P21)に保存されています。

注:

〈原価分類〉プログラムの処理オプションを使用して、原価タイプと勘定科目コードのどちらのマッピングを行うかを指定します。

▶ 原価タイプの分類を設定するには

〈上級エンジニアリング・プロジェクト管理〉メニュー(G31P30)から、〈原価分類〉を選びます。

1. 〈原価タイプの処理〉で、次のフィールドに値を入力して[追加]をクリックします。
 - 事業所
 - プロジェクト No.
2. 〈原価タイプの改訂〉で、原価バケットへマッピングする各原価タイプのグリッドの次のフィールドに値を入力します。
 - 原価タイプ
 - 原価分類
3. すべての原価タイプの分類が完了したら、[OK]をクリックします。

▶ 勘定科目分類を設定するには

〈上級エンジニアリング・プロジェクト管理〉メニュー(G31P30)から〈原価分類〉を選びます。

1. 〈勘定科目コードの処理〉で、次のフィールドに値を入力して[追加]をクリックします。
 - 事業所
 - プロジェクト No.

注:

〈勘定科目コードの処理〉フォームを表示するには、処理オプションを設定して、コスト・タイプ別ではなく勘定科目別にプログラムを表示する必要があります。

2. 〈勘定科目コードの改訂〉で、原価バケットへマッピングする各勘定科目コードのグリッドの次のフィールドに値を入力します。
 - 勘定科目コード
 - 原価分類
3. すべての勘定科目の分類が完了したら、[OK]をクリックします。

フィールド記述

記述 事業所	<p>用語解説</p> <p>上位レベルのビジネスユニットを表すコード。下位レベルのビジネスユニットを表す部署または職務のある事業所を参照する際に使用します。たとえば、次のように設定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 事業所 (MMCU) ○ 部署 A (MCU) ○ 部署 B (MCU) ○ 職務 123 (MCU) <p>ビジネスユニットセキュリティは上位レベルのビジネスユニットに基づきます。</p>
プロジェクト No.	<p>システムにある EPM プロジェクトを識別する番号。プロジェクトがプロジェクトの追加/改訂プログラム(P31P011)で設定されている必要があります。</p>
原価タイプ	<p>原価の構成要素を指定するコード。次のようなものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> A1 購買原材料 B1 作業工程直接労務費積上げ B2 段取作業工程労務費積上げ C1 変動間接費積上げ C2 作業工程固定間接費積上げ DX 外注作業の作業工程積上げ XX 光熱費や水道代などその他費用 <p>通常、その他費用の計算にはタイプ XX を使用します。この原価構造により、原価要素を必要なだけ使って別の積上げを実行できます。これらの原価要素は、6 つの集計原価バケット(ユーザー定義)のうちの 1 つと関連付けられます。</p>
記述タイプ記述	<p>ユーザー定義名称または備考。</p>
勘定科目コード	<p>総勘定元帳の勘定科目を識別する値。勘定科目コードの入力に次のいずれかのフォーマットを使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 標準勘定科目コード(ビジネスユニット、主科目、補助科目または自由形式)。 ○ 第 3 総勘定元帳番号(最大 25 桁)。 ○ 勘定科目 ID 8 桁の ID。 ○ スピード・コード(AAI 項目 SP につける 2 文字のコード)。勘定科目の代わりにこのコードを入力できます。 <p>1 桁目に入力する識別記号により、使用する勘定科目コードの形式を指定します。この識別記号は、一般会計固定情報プログラムで定義します。</p>
勘定科目コード記述	<p>ユーザー定義名称または備考。</p>
原価分類	<p>原価タイプおよび勘定科目コードを、原価バケット、資材費、労務費、その他費用、特別費用に関連付けるときに使用するユーザー定義コード(31P/CC)。正しい原価分類を使用することにより、EPM プロジェクト・ワークベンチ・プログラム(P31P001)で原価が正しい原価バケットに積み上げられます。</p>

処理オプション:原価分類(P31P301)

デフォルト・タブ

この処理オプションは、このプログラムを使用する際、原価タイプまたは勘定科目コードのどちらを処理できるようにするかを制御します。

1. デフォルト表示

ブランク = 原価タイプ別に表示

1 = 原価タイプ別に表示

2 = 勘定科目別に表示

プログラムの表示方法を指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランクまたは 1
原価タイプ別に表示

2
勘定科目番号別に表示

エンジニアリング・プロジェクト管理のユーザー定義コード

J.D. Edwards では、次のユーザー定義コード・テーブルを提供し、ビジネス環境に応じた仕様に沿ってエンジニアリング・プロジェクト管理のプロセスを定義できるようにします。

オーダー・タイプ(48/OT)

作業オーダー・マスター(F4801)の各作業オーダー・レコードを他の作業オーダー・タイプのレコードと区別します。たとえば、同じ伝票タイプ、作業オーダー・タイプを使用して設備作業オーダーと製造作業オーダーを示すことはありません。

原価分類(31P/CC)

〈EPMワークベンチ〉プログラム(P31P001)で使用される原価バケットを一覧表示して、製造原価(F3102)と取引明細(F0911)の各テーブルに保存される原価を見やすくするためとプロジェクトの WBS での積上げのために分類します。

プロジェクト見積状況(31P/QP)

顧客への見積提出で作成される異なる見積バージョンの進行状況をトラッキングする際に使用される状況の定義を提供します。ハードコード化された 5 つの見積状況を提供します。

プロジェクト見積無効の理由コード(31P/RC)

見積りが無効状況に設定された理由を表示します。

タスクの依存性タイプ(31P/DT)

WBS のタスク間の依存性を設定する際使用する標準タスク依存性タイプを表示します。

在庫タイプ・コード(41/I)	〈品目マスター〉プログラム(P4101)で品目に割り当てられる在庫タイプを表示します。在庫タイプ・コードを使用してプロジェクト固有として品目を指定します。
コミットメント伝票タイプ(40/CT)	会計上のコミットメント用の伝票タイプを表示します。
EPM プロジェクトの会計処理(31P/AI)	プロジェクトの会計処理が使用できるよう設定されたAAIを表示します。
プロジェクト請求方法(31P/PB)	〈プロジェクトの追加/改訂〉フォームでプロジェクトに選択するプロジェクト請求方法を表示します。
DRP(流通所要量計画)(34/DR)	DRP 用のプロジェクト固有数量タイプを表示します。
DRP 未調整(34/DU)	未調整 DRP 用のプロジェクト固有数量タイプを表示します。
電子メールボックス(02/MB)	プロジェクトの通知用電子メールボックスが含まれます。
在庫インターフェイス(H40/IV)	作業原価インターフェイスのあるプロジェクトの会計上のコミットメントを使用可能にする在庫インターフェイス Cが含まれます。
MRP(資材所要量計画)管理(34/MM)	資材管理計画のプロジェクト固有数量タイプを表示します。
MPS(基準生産日程計画)(34/MS)	MPS 用のプロジェクト固有数量タイプを表示します。
工場保安全管理(34/PM)	工場保安全管理のプロジェクト固有数量タイプを表示します。
MRP(資材所要量計画)(34/MR)	このテーブルの MRP 用のプロジェクト固有数量タイプを表示します。
数量タイプ(34/QT)	このテーブルの需要/供給のプロジェクト固有数量タイプを表示します。
リソース割当レベル(48/RL)	作業オーダー伝票タイプに基づいてリソース割当てが作業オーダー・レベルか、または作業オーダー労務詳細レベルかを指定します。労務詳細レベルで割り当てるには、この UDC テーブルを使用して作業オーダー伝票タイプを指定する必要があります。
テーブルに基づいたテキスト代替品目(42/01)	〈生成伝票〉プログラム(P00391)に必要なユーザー定義コードを表示します。
テキスト代替品目コード(42/02)	〈生成伝票〉プログラム(P00391)に必要なユーザー定義コードを表示します。

作業原価インテグレーションの設定

ビジネス環境によって異なりますが、J.D. Edwards の作業原価システムを EPM と統合することができます。作業原価の機能を使用して、収益性を分析したり作業原価システムからアクセスできるサービス請求/契約請求システムの機能を使用できます。作業原価システムと EPM システムを共に使用すると、長期プロジェクトなどの複雑な製造環境に特に威力を発揮します。

製造作業オーダーの会計上のコミットメントを実行する場合、作業原価のインテグレーションが必要です。製造作業オーダーの会計上のコミットメントを実行するには、コミットメント伝票タイプ UDC テーブル(40/CT)で製造作業オーダー伝票タイプを設定する必要があります。

プロジェクト固有の会計を可能にするには、EPM プロジェクト会計 UDC テーブル(31P/AI)の[特殊取扱コード]フィールドを使用して、次の AAI を設定してプロジェクト固有の勘定科目を含めます。

- 3110(在庫/原材料)
- 3120(仕掛品)
- 3130(半組立品/完成品)
- 3140(プロジェクト相手科目)
- 4310(在庫)
- 4315(非在庫)

プロジェクトの属性を設定する際、作業原価システムを有効にします。作業原価システムの機能を使用するには、元帳クラス・コードを定義する必要があります。次に、追加作業マスター(F5108)にレコードを作成します。追加作業マスター・レコードのビジネスユニットはプロジェクト見出しとタスクのデフォルトのビジネスユニットになります。プロジェクトとタスクに割り当てる補助科目を提供する勘定科目表を追加する必要があります。作業原価インテグレーションが有効な場合、WBS の各タスクには補助科目が必要です。

追加作業マスター・レコードを作成するには、〈EPM プロジェクト・ワークベンチ〉プログラム(P31P001)の〈作業原価マスターの改訂〉プログラム(P51006)にアクセスします。

注:

作業マスター・レコードを作成する処理オプションを設定する場合、プロジェクトを追加、またはコピーする際に〈作業原価マスターの改訂〉プログラムが自動的に呼び出されます。

勘定科目表を追加するには、〈作業原価〉メニューまたは〈EPM プロジェクト・ワークベンチ〉プログラムから〈作業原価コード構造〉プログラム(P51091)にアクセスします。勘定科目表を対話形式で追加せず、処理オプションを設定して他のレコードから勘定科目表をコピーしてすることもできます。この場合、勘定科目表情報のコピー元ソースを指定する必要があります。

勘定科目表を追加したら、EPM プロジェクトとタスクに補助科目を割り当てます。[補助科目]フィールドを使用して、タスクの補助科目を入力できます。また、処理オプションを設定して親タスクからすべての子タスクに補助科目をコピーすることもできます。

はじめる前に

- 〈EPM プロジェクト・ワークベンチ〉プログラム(P31P001)の作業原価システムを必ず有効にしてください。

参照

- 作業マスター・レコードの設定については、『作業原価』ガイドの「作業原価情報の入力」

▶ プロジェクトの勘定科目表を追加するには

〈プロジェクト・ワークベンチ〉メニュー(G31P12)から〈EPM プロジェクト・ワークベンチ〉を選択します。

1. 〈プロジェクトの処理〉で、勘定科目表を追加するプロジェクトを選択して[ロー]メニューから[属性]を選びます。
2. 〈プロジェクトの追加/改訂〉フォームで、[フォーム]メニューから[勘定科目表のコピー]を選択します。
3. 〈原価コードのコピー〉で、次のフィールドに値を入力して、コピー元とコピー先の作業を決定します。
 - 作業

注:

処理オプションでコピー元が勘定科目表であることを指定する場合、作業の代わりに表タイプを入力します。

4. 次のフィールドに値を入力します。
 - 原価コード:開始
 - 原価タイプ:開始
 - 原価コード:終了
 - 原価タイプ:終了
 - 詳細レベル
5. [OK]をクリックします。

Microsoft®Project とのインテグレーション

〈MS Project インテグレーション〉メニュー(G31P13)から、〈MS Project へのエクスポートと MS Project からのインポート〉を選びます。

J.D. Edwards の EPM システムを処理する際、Microsoft Project を使用して EPM 機能を補足する Microsoft Project の機能を利用できます。〈EPM プロジェクト・ワークベンチ〉プログラム(P31P001)で作成した WBS を Microsoft Project ファイルにエクスポートします。WBS をエクスポートしたら、ガント図表、PERT 図などの Microsoft Project のイメージ機能を使用してよりビジュアルなフォーマットでプロジェクト情報を表示できます。Microsoft Project ファイルを変更して当初の WBS に影響を与えずに仮分析を実行できます。さらに、〈EPM プロジェクト・ワークベンチ〉プログラムのプロジェクト情報にアクセスできない従業員とエクスポートされたプロジェクト情報を共有することもできます。

プロジェクト情報をエクスポートする際、WBS のすべてのタスク・レコードに対する作業オーダー・マスター・テーブル(F4801)のすべてのフィールドを含むコンマ区切りフラット・ファイル(.csv)が作成され

まず、フラット・ファイルは〈MS Project へのエクスポート〉プログラム(R31P404)の処理オプションで指定したロケーションに保存されます。

Microsoft Project でフラット・ファイルを開くと、フラット・ファイルは作成する Project ファイルの対応フィールドにマッピングされます。インテグレーションが適切に行われるには、次のフィールドが対応する Microsoft Project フィールドにマッピングされる必要があります。

フラット・ファイル	Microsoft Project	コメント
SEQN	固有 ID	タスク順序フィールドを使用して Microsoft Project のタスク ID が決定されます。
DL01	名称	Microsoft Project で、すべてのタスクに名前が必要です。
STRT	開始	このフィールドは、ガント図表の作成に必要です。
DRQJ	終了	このフィールドは、ガント図表の作成に必要です。
Successors	後続タスク	このフィールドは、Microsoft Project でタスク・リンクを表示するために必要です。
OutlineLevel	アウトライン・レベル	このフィールドは、Microsoft Project で親子関係を表示するために必要です。

その他のすべてのフィールドは任意です。ただし〈EPM プロジェクト・ワークベンチ〉プログラムに Microsoft Project ファイルを再インポートできるようにするには、DOCO、DCTO、PARS フィールドを正しくマッピングしなければなりません。J.D. Edwards では、標準マッピングを含む OneWorld.mpt という Microsoft Project のテンプレートを提供しています。

Microsoft Project でプロジェクトを設定したら、必要なだけ変更を加えたり、情報をやり取りしたりできます。ファイルを保存する際は、.csv ファイルとして保存して、Microsoft Project にフラット・ファイルをインポートした際に使用したのと同じマッピングを選択します。結果として作成される.csv ファイルはマッピング仕様にあるすべてのフィールドが含まれます。

Microsoft Project でプロジェクトを処理する際は、〈EPM プロジェクト・ワークベンチ〉プログラムにプロジェクト・ファイルをインポートできるよう、次の規則を順守する必要があります。

- WBS にタスクを追加/削除しない。〈EPM プロジェクト・ワークベンチ〉プログラムに当初エクスポートしたレコードをインポートできます。
- 一部のフィールドは変更できない。たとえば、〈作業オーダー在庫完了〉プログラム(P31114)を実行しないと、作業オーダー・マスターの[数量完了]フィールドは更新できません。
- 依存関係の遅延時間は日数で表示する。

変更が終了したら、〈EPM プロジェクト・ワークベンチ〉プログラムに.csv ファイルをインポートできます。〈MS Project からのインポート〉プログラム(R31P801)の処理オプションを使用して、インポートするフラット・ファイルのロケーションを指定します。

注:

Microsoft Project で読み込まれるフラット・ファイルにプロジェクト情報をエクスポートする際、フラット・ファイルのロケーションを指定する必要があります。オペレーティング・システムとサーバーに応じて、さまざまな方法でファイルのロケーションを指定できます。たとえば、UNIX 環境の場合は、フラット・ファイルはバイナリ・ファイルで、ディレクトリ構造は Windows 環境の構造とは異なっています。スムーズなエクスポート/インポート処理のために、次のガイドラインを参考にしてください。

- 少なくともエクスポート/インポート処理を行うユーザーまたはユーザー・グループは、ビジネス関数 B31P0240、および B31P0250 をマッピングしてローカルで実行する。
- MS Project へのエクスポート、および MS Project からのインポートをローカルで実行する。OCM マッピングを通じて、もしくはジョブを投入した際のロケーションを一時変更することでこれらのプログラムを実行します。
- Windows ベースのファイル・システムを使用して、パスとファイル名を指定する(Microsoft Project は Windows 環境で最適に動作するので)。

その他の設定には、〈MS Project へのエクスポート〉と〈MS Project からのインポート〉の処理オプションで一貫性を保つためのワークステーション上のデータ・フォーマットの設定などがあります。

〈EPM プロジェクト・ワークベンチ〉プログラムにプロジェクト情報を再インポートしたら、必ず[OK]をクリックしてプロジェクトを閉じる前に変更を保存するようにしてください。

処理オプション:MS Project へのエクスポート(R31P404)と MS Project からのインポート(R31P801)

処理

1. フラットファイルの名前とパス
(C:\Project.csv など)

2. 日付形式

プロジェクトの立上げ

プロジェクトの立上げは、大規模な受注設計生産または受注生産のアクティビティの開始フェーズです。顧客の特殊な要件に応じて製品を生産する業種では、すべての顧客の要件が最終製品で満たされているように、プロジェクト管理の慣習に従います。こういうタイプのプロジェクトでは期間が1年以上に及ぶため、立上げフェーズでプロジェクトに必要な情報を分かりやすく正確に入力する必要があります。

受注設計生産を実行する環境の場合、通常は顧客から特定の製品の見積要求を受けたときにのみプロジェクトを立ち上げます。顧客が見積要求を送ってきたら、見積りに必要な情報を準備するために次のアクティビティを実行します。

- プロジェクトの作成
- フェーズおよびタスクの概要の定義
- 見積スケジュールの確定
- 見積費用の計算
- 価格の確定と提案の生成

これらのアクティビティの目的は、見積りを受け入れるか却下するかを決めるための十分な情報を顧客に提供することです。顧客からの質問や要件に応えるために、プロジェクト立上げのアクティビティには繰り返すものもあります。プロジェクト立上げフェーズでは、顧客が見積りを受け入れてから実際にプロジェクトのタスクを計画して作業を開始するタイミングを決定します。

プロジェクトの作成

生産を提示する製品の見積情報を顧客が要求したときは、第1ステップとしてプロジェクトを設定します。プロジェクトの作成にはいくつかの方法があります。〈プロジェクトの追加/改訂〉プログラム(P31P011)を使用して新規プロジェクトを作成するか、既存のプロジェクトをコピーして、プロジェクトの見出し情報を適宜変更することもできます。全般的なプロジェクト情報をすべて定義したら、タスクおよびスケジュール情報、金額の見積りを追加します。この重要な情報が、プロジェクトに必要なアクティビティや、実行した場合に発生する費用を把握する手がかりとなります。この情報がなくては、プロジェクトを問題なく完了させるための現実的な見積りを顧客に提供するのが困難となります。

注:

新規のプロジェクトを作成するためにプロジェクトをコピーすると、プロジェクトに関連付けられたタスクの情報もコピーされます。ただし、タスクの従属関係はコピーされません。

プロジェクトのレコードは、作業オーダー・マスター(F4801)に保管されます。新規のプロジェクトを設定する際は、次の必須情報を用意してください。

- プロジェクトの記述
- 事業所
- オーダー・タイプ

- 開始日付
- 終了日付

〈プロジェクトの追加/改訂〉フォームでは、ビジネスユニットや顧客番号などの補足情報を追加できます。事業所の値は、ビジネスユニットを入力しなかった場合のデフォルトとなります。エンジニアリング・プロジェクト管理を作業原価システムと併用する場合、事業所とは異なるビジネスユニットを入力できます。システムにないビジネスユニットを入力して作業原価インターフェイスのオプションをオンにした場合は、追加作業マスター(F5108)に新しいレコードを追加できます。〈プロジェクト見積り〉プログラム(P31P100)から販売見積りを生成するには、顧客番号が必要です。顧客番号を使用して、税率など費用情報を読み込むことも可能です。

プロジェクトを開始すると、実際の開始日付と終了日付が更新されます。管理者や監督者などプロジェクトに関わる人物の情報を入力し、状況の変更通知やプロジェクトの警告用に電子メール配布リストを指定することもできます。〈プロジェクトの追加/改訂〉フォームの[プロジェクト状況]タブには、プロジェクトの段階についての情報が表示されます。各段階を完了すると、[見積り承認済み]など対応するオプションがオンになります。このタブのオプションは参照用で、ユーザーが入力できないようにロックされています。

プロジェクト属性には重要な処理の情報が含まれます。プロジェクトの見積承認の前後どちらのタイミングで在庫を引き当てるかを確定できます。プロジェクトが実際に進行するまでは在庫を引き当てず、会計上のコミットメントも作成しないようにできます。またプロジェクト属性では、タスクに部品リストと作業工程指示を添付した後で、最初に入力した見積費用を計画費用で一時変更するかどうかも指定できます。

[見積り原価]タブでは、資材、労務、その他費用の見積りの概要を入力できます。エンジニアリング・プロジェクト管理の作業原価機能を使用する場合、作業原価インターフェイスのオプションをオンにして、プロジェクトに元帳クラス・コードを入力してください。最後に、プロジェクトの品目番号や数量、計量単位、請求方法などのオーダー情報を指定できます。このプログラムでは、レポート用のカテゴリ・コードも必要に応じて使用できます。

プロジェクト情報を保存する際の技術的考慮事項

EPM プロジェクト・ワークベンチ・プログラム(P31P001)を使用すると、プロジェクト情報の追加や変更ができます。[OK]をクリックせずに EPM プロジェクト・ワークベンチ・プログラムを閉じると、追加または変更した情報は保存されません。システムのパフォーマンスを向上させるために、情報はキャッシュに保存されます。データがキャッシュにある限り、該当するテーブルに情報は保存されません。プロジェクトの情報を保存するには、EPM プロジェクト・ワークベンチ・プログラムを閉じる前に[OK]をクリックしてください。

はじめる前に

- 作業原価システムとインテグレーションするには、処理オプションで追加作業マスター(F5108)にレコードが作成されるよう設定してください。
- 以前のプロジェクトをコピーしてプロジェクトを作成するには、費用情報が正しくコピーされるように処理オプションを設定してください。

▶ 新しいプロジェクトを追加するには

〈プロジェクト・ワークベンチ〉メニュー(G31P12)から〈EPM プロジェクト・ワークベンチ〉を選択します。

1. 〈プロジェクトの処理〉で、[追加]をクリックします。
2. 〈プロジェクトの追加/改訂〉で、次の見出しフィールドに情報を入力します。
 - 記述
3. [プロジェクト情報]タブを選択し、次の必須フィールドに値を入力します。
 - 事業所
 - ビジネスユニット
 - 顧客
 - 状況
 - オーダー・タイプ

注:

入力する事業所は、ビジネスユニットのデフォルト値となります。作業原価システムを使用する場合、[ビジネスユニット]フィールドに作業番号を入力します。

4. [日付]タブをクリックして、次のフィールドに値を入力します。
 - 計画開始
 - 計画終了

注:

[実際開始]と[実際終了]のフィールドは、後でプロジェクトの情報を基に更新されます。これはタスクの実際開始/終了日付が、プロジェクトの実際開始/終了日付とまとめられるためです。その他の日付フィールドはユーザー定義です。たとえば、プロジェクトのベースラインとなる日付を入力できます。

5. [担当者]タブをクリックして、次の任意フィールドに値を入力します。
 - 管理者
 - 監督者
 - 担当者
 - 配布リスト
 - 組織構造タイプ
6. [プロジェクト属性]タブを選択して、必要に応じて次のオプションをオンにします。
 - コミットメントのタイミング
 - 見積一時変更フラグ

7. [見積り原価]タブを選択し、次のフィールドに任意で原価情報を入力します。

- 資材
- 労務
- その他
- 特殊数量
- 特殊金額

これらのフィールドに入力した費用の合計が計算され、[合計]フィールドに保存されます。

注意:

プロジェクトに見積費用を入力すると、これらの費用はプロジェクトの見出しレコードに保存され、作業階層構造(WBS)の 1 行目に表示されます。〈プロジェクト・ワークベンチ〉フォームの下部にある集計フィールドを見ると、プロジェクト見出しで入力した費用が WBS からのその他プロジェクト費用に自動的に合算されたことがわかります。これらはその他プロジェクト費用がまとめられても一時変更されません。

8. 作業原価システムをエンジニアリング・プロジェクト管理と併用するには、[作業原価]タブで次のオプションをオンにします。

- 作業原価インターフェイス(Y/N)

9. このプロジェクトで作業原価計算を使用するには、次の任意フィールドに値を入力します。

- 活動コードの設定
- プロジェクト元帳クラス・コード
- 補助科目

10. [オーダー情報]タブをクリックして、次の任意フィールドに値を入力します。

- 品目 No.
- オーダー数量
- 計量単位
- 作業オーダー・タイプ
- 優先順位
- 凍結コード
- このフェーズを出荷

注:

[このフェーズを出荷]フィールドでは、受注オーダー行を自動生成するかどうかを指定します。ここに入力するコードは、プロジェクト所要量計画でプロジェクト固有の所要量を展開するときに使用します。

11. [カテゴリ]タブを選択し、プロジェクトのカテゴリ分類情報を入力します。

- フェーズ
- カテゴリ・コード 02
- カテゴリ・コード 03
- カテゴリ・コード 04
- カテゴリ・コード 05
- 状況
- サービス・タイプ
- スキル・タイプ
- 経験レベル
- カテゴリ・コード 10

12. [受注オーダー]タブをクリックして、次のフィールドに値を入力します。

- プロジェクト請求方法

注:

オーダー番号、オーダー・タイプ、オーダー会社の情報は、受注管理システムにより提供されます。

13. [OK]をクリックします。

〈プロジェクト・ワークベンチ〉フォームが表示されます。

14. 〈プロジェクト・ワークベンチ〉で、[OK]をクリックして新しいプロジェクトを保存します。

〈プロジェクト・ワークベンチ〉フォームを閉じる前であれば、このプロジェクトに新しいタスクを追加できます。

フィールド記述

記述	用語解説
ビジネスユニット	<p>会社の中で費用をトラッキングする単位を表す英数字のコード。組織の部署や課などの部門の他にも、倉庫、作業、プロジェクト、作業場、事業所、工場などをビジネスユニットとして設定できます。ビジネスユニットを伝票、会社、個人などに割り当てることにより、さまざまなレポートを作成できます。たとえば、ビジネスユニット別に未決済買掛金/売掛金レポートを作成して、管轄部門ごとの支払/入金予定を把握することができます。ビジネスユニットにセキュリティを設定することにより、ビジネスユニットに関する情報を、特定のユーザーからしか照会できないようにできます。</p>
事業所	<p>上位レベルのビジネスユニットを表すコード。下位レベルのビジネスユニットを表す部署または職務のある事業所を参照する際に使用します。たとえば、次のように設定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 事業所 (MMCU) ○ 部署 A (MCU) ○ 部署 B (MCU) ○ 職務 123 (MCU) <p>ビジネスユニットセキュリティは上位レベルのビジネスユニットに基づきます。</p>
顧客	<p>住所番号は、住所録システムのエントリを識別する番号です。従業員、応募者、参加者、顧客、仕入先、テナント、保管場所などを識別するために使用します。</p>
状況	<p>作業オーダー、レート・スケジュール、設計変更オーダー(ECO)の状況を表すユーザー定義コード(00/SS)。90 から 99 の状況コードに変更すると、完了日付が自動更新されます。</p>
オーダー・タイプ	<p>伝票タイプを識別するユーザー定義コード(00/DT)。また、このコードは取引(トランザクション)のタイプも示します。伝票、請求書、領収書、およびタイム・カード用に伝票タイプ・コードを予約しており、これらのタイプ・コードにより転記プログラムの実行時に自動仕訳が作成されます。これらの仕訳は、当初入力の際には残高自動計算は行われません。事前定義されている次の伝票タイプは、変更しないでください。</p> <ul style="list-style-type: none"> P 買掛金伝票 R 売掛金伝票 T 給与計算伝票 I 在庫伝票 O 購買伝票 J 一般会計／共有請求伝票 S 受注伝票
計画開始	<p>このフィールドは、作業オーダーまたは作業工程指示のどちらかの開始日付を示します。</p>
計画終了	<p>商品の納入予定日付または作業の完了予定日付。</p>
管理者	<p>管理者または計画担当者の住所番号。</p> <p>注: フォームによっては、カテゴリコード 1(フェーズ)、2、3 の値に基づいてこのフィールドにデフォルト値を入力できます。デフォルト値は〈デフォルト監督者／管理者〉フォームで設定します。デフォルト値と処理オプションを設定すると、作成する作業オーダーのうちカテゴリコード基準が一致するものにはデフォルトの情報が自動表示されます。デフォルトの値を使用するか、デフォルト値を一時変更します。</p>

監督者	<p>監督者の住所番号。</p> <p>一部のプログラムでは、処理オプションを使用してカテゴリ・コード(フェーズ) 1、2、および 3 の値に基づいてこのフィールドにデフォルト値を指定できます。デフォルト値は、〈作業オーダー・デフォルト・コードの処理〉プログラム (P48001)で設定できます。カテゴリ・コード基準に一致している場合、作成するすべての作業オーダーで指定した情報が自動的に表示されます。デフォルト値は一時変更できます。</p>
担当者	作業を割り当てられた担当者の住所番号
配布リスト	<p>親会社の住所番号。特定の住所を親会社または所在地と関連付けるために使用されます。ここに入力した値は、住所録組織構造マスター(F0150)で構造タイプがブランクのレコードを更新します。住所録マスター(F0101)にある番号を使用してください。親番号のある住所録レコードの例には次のようなものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 親会社のある子会社 ○ 本社のある支店 ○ 請負業者が働く作業現場
組織構造タイプ	電子メールなどのように、住所録システムに独自の階層がある組織構造のタイプを識別するユーザー定義コード(01/TS)。売掛管理システムに親子関係を作成する場合は、構造タイプをブランクにしてください。
コミットメントのタイミング	部品リストをプロジェクト作業オーダーに添付する際に、在庫を引き当てるプロジェクトの段階を指定します。このオプションを有効にすると、「見積り承認」の後で在庫が引き当てられます。有効にしない場合は「見積り承認」の前に在庫が引き当てられます。
見積一時変更フラグ	部品リストおよび作業工程をオーダーに添付する際に、見積り原価を計画原価によって一時変更するかどうかを指定しますこのフラグをオンにすると、見積り原価は計画原価によって一時変更されます。
資材	作業オーダーの見積材料費
労務	作業オーダーの見積労務費
その他	その他の見積金額。
特殊数量	見積りが承認される前にこのタスクについて見積もられる特殊数量。
特殊金額	見積りが承認される前にタスクについて見積もられる特別な金額。
作業原価インターフェイス(Y/N)	<p>製造プロジェクト管理システムと作業原価システムのインターフェイスをとるように指示するコード。</p> <p>0 インターフェイスしない</p> <p>1 作業原価システムとインターフェイスする</p>
活動コードの設定	活動コードの入力を任意にするにはこのフラグをオンにします。

プロジェクト元帳クラス・コード	予算やコミットメント、実際の金額をプロジェクトの勘定科目に振り分ける際にシステムが使用する、元帳の相手科目を指示するユーザー定義コード(41/9)。
補助科目	主科目の下の科目区分。補助科目は、取引レコードを主科目の下でさらに細分化します。
品目 No.	システムが品目に割り当てる番号。通常の品目番号のほか、略式品目番号、第3品目番号などのフォーマットがあります。
オーダー数量	このトランザクションの影響を受ける数量
計量単位	在庫品目の表示数量を示すユーザー定義コード(00/UM)。 たとえば、CS(ケース)やBX(箱)などです。
作業オーダー・タイプ	作業オーダーまたは設計変更オーダーの分類を示すユーザー定義コード(00/TY)。作業オーダータイプは、作業オーダーを承認する際のデータ選択基準として使用できます。
優先順位	他のオーダーと比較した場合の、作業オーダーおよびECO(設計変更オーダー)の優先順位を指示するユーザー定義コード(00/PR)。フォームによっては、処理オプションを使用してこのフィールドのデフォルト値を入力できます。デフォルト値は、これらのフォームおよびプロジェクトのセットアップ・フォームで作成する作業オーダーの該当フィールドに自動的に表示されます。この値をそのまま使用するか、一時変更して使用します。
凍結コード	オーダー行が凍結されるかどうかを示すコード。MPS/MRPは、凍結オーダーへの変更を提示しません。有効な値は次のとおりです。 Y オーダーを凍結する N オーダーを凍結しない(デフォルト)
このフェーズを出荷	プロジェクトのタスクについて受注オーダー行の自動生成を許可するかどうかを指定します。プロジェクト所要量計画では、この値を使用してプロジェクトに固有の所要量を展開します。プロジェクトのタスクは、最上位レベルの製造作業オーダーである必要があります。半組立品やサービス、集計作業オーダーからは受注オーダー行は生成できません。有効な値は次のとおりです。 Blank 受注オーダー行を生成しない 1 受注オーダー行を生成する
フェーズ	作業オーダーの現在の段階またはフェーズを示すユーザー定義コード(00/W1)。割り当てできる作業オーダーは、各フェーズコードに対して1度に1つのみです。 注: フォームによっては、処理オプションを使用してフィールドのデフォルト値を指定できますが、ここでそのフィールドのデフォルト値を入力すると、作成する作業オーダーの該当フィールドにはここで指定したデフォルト値が表示されます。この値は、〈プロジェクト設定〉フォームにも表示されます。デフォルト値はそのまま使用することも、一時変更することもできます。

カテゴリ・コード 02	作業オーダーのタイプまたはカテゴリを示すユーザー定義コード(00/W2)。 注: フォームによっては、処理オプションでこのフィールドのデフォルト値を入力できます。これにより該当するフォームおよびセットアップフォームで作成した作業オーダーの該当フィールドにデフォルト値が自動的に入力されます。このデフォルト値はそのまま使用することも、一時変更することもできます。
カテゴリ・コード 03	作業オーダーのタイプまたはカテゴリを示すユーザー定義コード(00/W3)。 注: フォームによっては、このフィールドのデフォルト値を処理オプションで指定できます。これにより該当フォームおよび〈プロジェクト設定〉フォームで作成する作業オーダーの該当フィールドにデフォルト値が自動入力されます。デフォルト値はそのまま使用することも、一時変更することもできます。
カテゴリ・コード 04	作業オーダーのタイプまたはカテゴリを示すユーザー定義コード(00/W4)
カテゴリ・コード 05	作業オーダーのタイプまたはカテゴリを示すユーザー定義コード(00/W5)
状況	作業オーダーの状況を示すユーザー定義コード(00/W6)
サービス・タイプ	作業オーダーのサービス・タイプを示すユーザー定義コード(00/W7)
スキル・タイプ	作業オーダーのタイプまたはカテゴリを示すユーザー定義コード(00/W8)
経験レベル	作業オーダーのタイプまたはカテゴリを示すユーザー定義コード(00/W9)
カテゴリ・コード 10	作業オーダーのタイプまたはカテゴリを示すユーザー定義コード(00/W0)

▶ 既存のプロジェクトをコピーするには

〈プロジェクト・ワークベンチ〉メニュー(G31P12)から〈EPM プロジェクト・ワークベンチ〉を選択します。

1. 〈プロジェクトの処理〉で、次のフィールドに値を入力して[検索]をクリックします。
 - プロジェクト No.
 - 事業所
2. プロジェクトを選んで[コピー]をクリックします。
3. 〈プロジェクトの追加/改訂〉で、新しいプロジェクトについて次の見出しフィールドに情報を入力します。
 - 記述
4. [プロジェクト情報]タブを選択して、新しいプロジェクトについて次の必須フィールドに情報を入力します。
 - 事業所
 - 状況
 - オーダー・タイプ
5. [日付]タブをクリックして、次の必須フィールドに値を入力します。
 - 計画開始
 - 計画終了

6. 元のプロジェクトからコピーした情報を検討し、必要に応じて改訂したり新しい情報を入力します。

注:

既存のプロジェクトから情報をコピーする際、計画開始や計画終了などのキー・フィールドは空白のままになります。これらのフィールドには、新しいプロジェクトに固有の情報を入力してください。

以前のプロジェクトのタスク従属情報はコピーされません。

7. [OK]をクリックします。
〈プロジェクト・ワークベンチ〉フォームが表示されます。
8. 〈プロジェクト・ワークベンチ〉で、[OK]をクリックして新しいプロジェクトを保存します。

▶ **プロジェクトを改訂するには**

〈プロジェクト・ワークベンチ〉メニュー(G31P12)から〈EPM プロジェクト・ワークベンチ〉を選択します。

1. 〈プロジェクトの処理〉で、次のフィールドに値を入力して[検索]をクリックします。
 - プロジェクト No.
 - 事業所
2. プロジェクト改訂するには、プロジェクトを選択して[ロー]メニューから[属性]を選びます。
3. 〈プロジェクトの追加/改訂〉で情報を改訂します。
4. [OK]をクリックします。

▶ **プロジェクトを検討するには**

〈プロジェクト・ワークベンチ〉メニュー(G31P12)から〈EPM プロジェクト・ワークベンチ〉を選択します。

1. 〈プロジェクトの処理〉で、次のフィールドに値を入力して[検索]をクリックします。
 - プロジェクト No.
 - 事業所
2. プロジェクトを選んで[ロー]メニューから[プロジェクト照会]を選択します。
3. 〈プロジェクト照会〉で、プロジェクトの作業階層構造(WBS)を検討します。

プロジェクトは、そのプロジェクトに入力された全タスクを含むツリー階層構造として表示されます。ツリー構造でプロジェクトのタスクを選択すると、グリッドの対応するレコードがハイライトされます。

ここで表示される情報は、主に検討用です。ただし、処理オプションを設定していればタスクを移動することもできます。[ロー]メニューから[リソース]を選択すると、〈リソース割当て〉プログラム(P48331)にアクセスできます。このプログラムを使用して、リソース(資源)の情報を改訂できます。

4. [閉じる]をクリックします。

処理オプション：EPM プロジェクト・ワークベンチ (P31P001)

デフォルト・タブ

これらの処理オプションで、オーダー・タイプやタスク、プロジェクト状況のデフォルト値を制御します。

1. デフォルトのオーダー・タイプを入力してください。

EPM ワークベンチで新しいタスクを作成する際の、デフォルトのオーダー・タイプを指定します。

2. 新規タスクの開始状況を入力してください。

非コンフィギュレーション品目用に新規タスクを作成する際の、デフォルトの開始状況を指定します。

3. コンフィギュレーション・タスクの開始状況を入力してください。

コンフィギュレーション品目用オーダーに新しいタスクを作成する際の、デフォルトの開始状況を指定します。

4. 表示するデフォルトのプロジェクト開始状況を入力してください。

プロジェクトの処理フォームの[開始状況フィルター]フィールドのデフォルト値を指定します。

5. 表示するデフォルトのプロジェクト終了状況を入力してください。

プロジェクトの処理フォームの[終了状況フィルター]フィールドのデフォルト値を指定します。

バージョン・タブ

これらの処理オプションで、EPM プロジェクト・ワークベンチ・プログラムから次のプログラムを呼び出したときに使用するバージョンを制御します。

1. 製造作業オーダー入力(P48013)

blank = ZJDE0001

システムが呼び出す製造作業オーダー処理プログラム(P48013)のバージョンを指定します。blankの場合、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

2. サービス作業オーダー入力(P17714)

blank = ZJDE0003

作業オーダーの改訂プログラム (P17714) のバージョンを指定します。ブランクの場合、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

3. サービス作業オーダー入力(P17714)

ブランク = ZJDE0001

作業オーダーの改訂プログラム (P17714) のバージョンを指定します。ブランクの場合、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

4. コンフィギュレータ(P32942)

ブランク = ZJDE0001

呼び出すコンフィギュレーション品目仕様プログラム(P32942)のバージョンを指定します。ブランクの場合、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

5. 作業オーダー部品リスト(P3111)

ブランク = ZJDE0001

呼び出す作業オーダー部品リストプログラム(P3111)のバージョンを指定します。ブランクの場合、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

6. 製造作業オーダーの作業工程(P3112)

ブランク = ZJDE0001

呼び出す作業オーダー作業工程プログラム(P3112)のバージョンを指定します。ブランクの場合、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

7. 設備作業オーダー部品リスト(P17730)

ブランク = ZJDE0002

作業オーダーの改訂プログラム (P17714) のバージョンを指定します。ブランクにした場合、ZJDE0002 が使用されます。

8. 設備作業オーダーの作業工程(P17732)

ブランク = ZJDE0002

作業オーダーの作業工程プログラム(P17732)のバージョンを指定します。ブランクにした場合、ZJDE0002 が使用されます。

9. サービス作業オーダーの部品リスト(R17730)

ブランク = ZJDE0001

呼び出す作業オーダー部品リストプログラム(P17730)のバージョンを指定します。blankの場合、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

10. サービス作業オーダーの作業工程(P17732)

blank = ZJDE0001

作業オーダーの作業工程プログラム(P17732)のバージョンを指定します。blankの場合、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

11. 原価要素(P30026)

blank = XJDE0001

呼び出す原価要素プログラム(P30026)のバージョンを指定します。blankの場合、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

12. EPM プロジェクト見積り(P31P00)

blank = ZJDE0001

呼び出す EPM プロジェクト見積りプログラム(P31P100)のバージョンを指定します。blankの場合、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

13. 作業原価マスターの改訂(P51006)

blank = ZJDE0002

呼び出す作業原価マスター・プログラム(P51006)のバージョンを指定します。blankの場合、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

14. 作業原価予算のアップロード(R31P800)

blank = ZJDE0001

呼び出す作業原価予算のアップロード・プログラム(R31P800)のバージョンを指定します。blankの場合、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

15. 受注オーダー入力(P4210)

blank = ZJDE0001

呼び出す受注オーダー入力プログラム(P4210)のバージョンを指定します。blankの場合、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

16. 作業オーダー処理(R31410)

blank = XJDE0001

呼び出すオーダー処理プログラム(R31410)のバージョンを指定します。ブランクの場合、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

17. プロジェクト締切りアナライザ(R31P403)

ブランク = ZJDE0001

呼び出すプロジェクト締切りアナライザ・プログラム(R31P403)のバージョンを指定します。ブランクの場合、ZJDE0001 が使用されます。

18. 在庫出庫(P31113)

ブランク = ZJDE0001

呼び出す在庫出庫プログラム(P31113)のバージョンを指定します。ブランクの場合、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

19. 作業時間/作業量の入力/変更(P311221)

ブランク = ZJDE0001

呼び出す作業時間/作業量の入力プログラム(P311221)のバージョンを指定します。ブランクの場合、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

20. 作業オーダーの完了(P31114)

ブランク = ZJDE0001

呼び出すオーダーの完了プログラム(P31114)のバージョンを指定します。ブランクの場合、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

21. リソースの割当て(P48331)

ブランク = ZJDE0001

呼び出すリソース割当てプログラム(P48331)のバージョンを指定します。ブランクの場合、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

22. プロジェクト情報のエクスポート(R31P404)

ブランク = ZJDE0001

呼び出すプロジェクトのエクスポート・プログラム(R31P404)のバージョンを指定します。ブランクの場合、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

23. プロジェクト情報のインポート(R31P801)

ブランク = ZJDE0001

呼び出すプロジェクトのインポート・プログラム(R31P801)のバージョンを指定します。ブランクの場合、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

24. 正味変更(R31430)

ブランク = XJDE0001

呼び出す正味変更プログラム(R31430)のバージョンを指定します。ブランクにすると、XJDE0001 が使用されます。

25. EPM 関連オーダー(P31P204)

ブランク = ZJDE0001

処理タブ

これらの処理オプションで、〈プログラム照会〉フォームでのタスクの移動やタスクの取消しおよび締切り状況など、EPM プロジェクト・ワークベンチ・プログラムの処理に影響する設定を制御します。

1. プロジェクト照会でのタスクの移動

1 = 移動を許可する

ブランク = 移動を許可しない

プロジェクト照会フォームで、ドラッグ&ドロップによりユーザーがタスクを異なる親タスクに移動可能にするかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク

タスクは移動不可

1

タスクは移動可能

2. タスクの取消状況を入力してください。

ブランク = 91

取り消されたタスクの状況を入力します。[ロー]メニューから[タスクの取消し]を選択すると、選択したタスクがこの状況になります。この状況コードを持つタスクは上に横線が入ります。

3. タスクの締切り状況を入力してください。

ブランク = 99

締め切ったタスクの状況を入力します。[ロー]メニューから[タスクの締切り]を選択すると、選択したタスクがこの状況になります。この状況コードを持つタスクは上に横線が入ります。

4. 正味変更

1 = ワークベンチ終了時に正味変更処理を実行する

blank = 正味変更処理を実行しない

既存のプロジェクトの場合、ユーザーは作業オーダーの日付や数量、計量単位を修正できます。この作業に部品リストや作業工程のステップが付随することがあります。[OK]をクリックすると、正味変更処理を実行することができます。

このオプションは、〈製造作業オーダーの入力〉プログラム(P48013)の指定バージョンの[数量および日付]の処理オプションと共に使用してください。

1 = ワークベンチを終了する際に正味変更処理を実行する

blank = 正味変更処理を実行しない

コピー・タブ

これらの処理オプションで、EPM プロジェクト・ワークベンチのコピー機能を制御します。たとえば、プロジェクトを設定する際に作業マスター・レコードを作成するかどうかや、勘定科目を非表示でコピーするかどうか、情報をコピーする元の勘定科目または作業を指定できます。

1. 作業マスターの作成

1 = 作業マスターを作成する

blank = 作業マスターを作成しない

プロジェクトを追加またはコピーする際に、作業マスターにレコードを作成するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

1

作業マスターにレコードを作成する

blank

作業マスターにレコードを作成しない

2. 金額元帳タイプ

blank = JA

更新する金額元帳タイプを指定します。blankの場合、元帳タイプ JA が更新されます。予算数量元帳タイプは、金額元帳タイプによって自動的に決まります。たとえば、金額元帳タイプ JA に対応する予算数量元帳タイプは JU となります。

3. 非表示モードでのコピー

1 = 非表示で勘定科目表をコピーする

ブランク = 対話形式でコピーする

勘定科目表を自動的にコピーするか、対話形式でコピーするかを指定します。対話形式によるコピーは、フォーム・エグジットから選択します。勘定科目表を自動的にコピーする場合、作業マスターにレコードが作成された後に処理が実行されます。作業にコピーする元のデータを定義する必要があります。

ブランク

自動的にコピーしない

1

自動的にコピーする

4. 作業のソースのコピー

1 = 勘定科目表を作業にコピーする

ブランク = 既存の作業からコピーする

コピーする作業のデータ・ソースを指定します。既存の勘定科目表からデータをコピーする場合、[コピー元勘定科目表]の処理オプションに勘定科目表名を入力してください。既存の作業からデータをコピーする場合、[コピー元の作業]の処理オプションに作業名を入力してください。有効な値は次のとおりです。

1

既存の勘定科目表から作業データをコピーする

ブランク

既存の作業から作業データをコピーする

5. コピー元の作業

コピーする作業のデータ・ソースを指定します。既存の勘定科目表からデータをコピーする場合、[コピー元勘定科目表]の処理オプションに勘定科目表名を入力してください。既存の作業からデータをコピーする場合、[コピー元の作業]の処理オプションに作業名を入力してください。有効な値は次のとおりです。

1

既存の勘定科目表から作業データをコピーする

ブランク

既存の作業から作業データをコピーする

6. コピー元の勘定科目表

コピーする作業のデータ・ソースを指定します。既存の勘定科目表からデータをコピーする場合、[コピー元勘定科目表]の処理オプションに勘定科目表名を入力してください。既存の作業からデータをコピーする場合、[コピー元の作業]の処理オプションに作業名を入力してください。有効な値は次のとおりです。

1

既存の勘定科目表から作業データをコピーする

Blank

既存の作業から作業データをコピーする

7. 予算のコピー

1 = 改訂予算をコピー

2 = 当初予算をコピー

3 = 改訂予算をコピーを当初予算にコピー

Blank = 予算をコピーしない

勘定科目表を非表示でコピーすると同時に、予算をコピーするかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

Blank

予算をコピーしない

1

改訂予算をコピーする

2

当初予算をコピーする

3

改訂予算を当初予算にコピーする

8. 当初予算のアップロード

1 = 予算をアップロードする

Blank = 予算をアップロードしない

[作業原価予算のロック]オプションを選択した場合に、当初予算を自動的にアップロードするかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク

当初予算を手作業でアップロードする。

1

当初予算を自動的にアップロードする。

9. 補助科目の割当て

1 = 補助科目を割り当てる

ブランク = 補助科目を割り当てない

親タスクの補助科目をすべての子タスクに自動的に割り当てるかどうかを指定します。子タスクの補助科目フィールドがブランクの場合にのみ自動割当てが使用できます。有効な値は次のとおりです。

ブランク

補助科目を自動的に割り当てない

1

補助科目を自動的に割り当てる

10. 新規プロジェクトの原価のコピー

1 = 実績を見積りにコピーする

ブランク = 見積を実績にコピーする

費用のコピー元を指定します。既存をプロジェクトを新しいプロジェクトにコピーする際、費用は実績または見積りのどちらからでもコピーできます。コピーした費用は、新規のプロジェクトの見積りとして自動的に入力されます。

スケジュール・タブ

これらの処理オプションでは、プロジェクトのスケジュールを制御し、凍結作業オーダーの日付を修正可能にするかどうかを指定します。

1. リアルタイム・スケジュールのモードを入力します。

0 = リアルタイム・スケジュールを実行しない

1 = リアルタイムでプロジェクトをスケジュールする

2 = リアルタイムでプロジェクトを逆算スケジュールする

プロジェクト内で追加または移動するタスク/サブタスクに、リアルタイム・スケジュール機能を使用するかどうかを指定します。後続タスクが先行タスクのスケジュールに依存している場合は、時系列のスケジューリングが使用できます。先行タスクが後続タスクのスケジュールに依存している場合は、逆算スケジューリングが使用できます。有効な値は次のとおりです。

0

リアルタイム・スケジュール機能を使用しない

1

時系列のスケジュール機能を使用する

2

逆算スケジュール機能を使用する

2. 凍結した作業オーダー日付の修正

0 = 修正しない

1 = 修正する

凍結作業オーダーのすべての日付を修正可能にするかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

Blank

スケジュール機能によって作業オーダーの日付を調整しない

1

適切な場合にスケジュール機能によって凍結作業オーダーの日付を調整する

プロジェクトの処理

プロジェクトを設定し終わったら作業階層構造(WBS)を作成します。WBS はプロジェクトで完了するタスクおよびサブタスクの階層構造を示します。また、プロジェクト・スケジュールなど、プロジェクトの計画および実行を可能にするすべての明細情報を追加できます。処理には使用しない参照用のリソース情報も入力できます。最後に、顧客への見積りを生成するための費用の見積りを追加できます。

プロジェクト・タスクの追加

プロジェクト記述や事業所、計画開始日付および計画終了日付などプロジェクトの見出しレコードの設定が終わったら、プロジェクトを完了するために必要なステップとなる個々のタスクをプロジェクトに追加できます。プロジェクトを構成するタスクのグループを、作業階層構造(WBS)といいます。WBS がロックされていなければタスクを追加できます。WBS をロックすると、〈プロジェクトの追加/改訂〉プログラム(P31P011)の[プロジェクト状況]タブの[WBS のロック]オプションがオンになります。

顧客への見積りを準備する目的でプロジェクトを設定する際、概略または集計タスクのみを追加すると、プロジェクトの完了に必要なステップを識別できると同時にタスクに関連する費用も入力できます。この方法を使用すると、顧客から実際に受注する前に必要以上に労力を使うことなく見積金額を確定できます。ただし、ビジネスの要件や慣行によって、タスクを追加する段階やタスク構造の詳細

細レベルが決まります。プロジェクトへのタスクの追加方法は、追加のタイミングに関わらず同じです。作業階層構造(WBS)には、必要なだけ下位レベルを追加できます。タスクの入力時には、作業オーダー・マスター(F4801)に各タスクのレコードが作成され、親の作業オーダー番号としてプロジェクト番号が割り当てられます。新規のタスクは、既存のプロジェクトからコピーするか、新しいタスク情報を入力して作成できます。タスクは WBS の中で移動したり、取り消すことも可能です。

ワークベンチのグリッドにタスクを追加する際は、オーダー・タイプを指定してください。設備保全管理またはサービス・オーダーのタスクをプロジェクトに追加すると、このタスクがモデル作業オーダーとなります。モデル作業オーダーからは割り当てられた設備保全管理オーダーまたはサービス・オーダーが生成され、それらが EPM プロジェクト・ワークベンチ・プログラム(P31P011)に読み込まれます。コンフィギュレーション作業オーダー(在庫タイプ C)を含むタスクを追加すると、EPM プロジェクト・ワークベンチ・プログラムは、コンフィギュレーション品目仕様プログラム(P32942)を呼び出して品目のコンフィギュレーションを完了します。続いて、コンフィギュレーションに必要な新規の作業オーダーがすべて作成され、子タスクとしてコンフィギュレーション品目に追加されます。

処理オプションを使用して、WBS に追加するタスクのデフォルト値を設定することもできます。たとえば、処理オプションにより、新しいタスクのオーダー・タイプと開始状況のデフォルト値を設定できます。また、プロジェクトのツリーを自動的に展開して、タスクの階層を表示させるよう指定できます。

▶ 新しいプロジェクト・タスクを追加するには

〈プロジェクト・ワークベンチ〉メニュー(G31P12)から〈EPM プロジェクト・ワークベンチ〉を選択します。

1. 〈プロジェクトの処理〉で、次のフィールドに値を入力して[検索]をクリックします。
 - プロジェクト No.
 - 事業所
2. プロジェクトを選んで[選択]をクリックします。
〈プロジェクト・ワークベンチ〉で、プロジェクト番号と記述が見出しとグリッドの 1 行目に表示されます。
3. 〈プロジェクト・ワークベンチ〉で、グリッドのブランクのレコードをクリックして次のフィールドに情報を入力します。
 - 記述
 - オーダータイプ

レコードを追加してクリックすると、追加したレコードがグリッド左側の WBS に追加されます。

注:

これらの 2 つのフィールドは、プロジェクト・タスクの作成に必要な最小限の情報です。さらに詳細なタスク情報を入力するには、残りのステップを完了します。

4. 作業原価を使用するには、次のフィールドに値を入力します。
 - 補助科目

注:

作業原価システムを使用する場合、EPM プロジェクト・ワークベンチから作業原価システムに費用を正しくマッピングするには、[補助科目]フィールドの情報を 사용합니다。WBS に入力する補助科目の情報は、作業原価システムの勘定科目表の原価コードに一致します。

5. 各タスクについて次の任意フィールドに値を入力します。

- 事業所
- ビジネスユニット
- 顧客 No.
- 期間
- 管理者
- 監督者
- 担当者

注:

プロジェクト見出しにこれらのフィールドの情報が含まれる場合、見出しの情報がデフォルト値になります。作業オーダーのタスクについては、品目の標準リードタイムを使用して期間が計算されます。集計タスクの場合、期間を手入力してください。

作業原価システムを使用する場合、ビジネスユニットのデフォルト値は作業マスター・レコードの作業になります。

6. タスクに製造作業オーダーが含まれる場合、次のフィールドに値を入力します。

- 品目 No.
- オーダー数量
- 計量単位

7. 必要に応じて次の任意フィールドにも値を入力します。

- 見積資材
- 見積労務
- その他見積
- 見積特殊数量
- 見積特殊金額

注:

作業オーダーについて〈オーダー処理〉プログラム(R31410)を実行すると、計画原価の情報が得られます。

8. カテゴリ・コード情報を追加するには、[ロー]メニューから[その他] - [追加情報]を選択します。
 9. <タスク追加情報>で、必要に応じて次のフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。
 - フェーズ
 - カテゴリ・コード 02
 - カテゴリ・コード 03
 - カテゴリ・コード 04
 - カテゴリ・コード 05
 - 状況
 - サービス・タイプ
 - スキル・タイプ
 - 経験レベル
 - カテゴリ・コード 10
 10. <プロジェクト・ワークベンチ>で、[OK]をクリックします。
- <プロジェクトの処理>フォームが表示されます。[OK]をクリックしたときに、システムによりタスクの作業オーダー番号が生成されました。<プロジェクト・ワークベンチ>フォームに戻ると、自動作成された各タスクの作業オーダー番号を検討できます。

フィールド記述

記述 記述	用語解説 ユーザー定義名称または備考。
オーダータイプ	<p>伝票タイプを識別するユーザー定義コード(00/DT)。また、このコードは取引(トランザクション)のタイプも示します。伝票、請求書、領収書、およびタイム・カード用に伝票タイプ・コードを予約しており、これらのタイプ・コードにより転記プログラムの実行時に自動仕訳が作成されます。これらの仕訳は、当初入力の際には残高自動計算は行われません。事前定義されている次の伝票タイプは、変更しないでください。</p> <p>P 買掛金伝票 R 売掛金伝票 T 給与計算伝票 I 在庫伝票 O 購買伝票 J 一般会計／共有請求伝票 S 受注伝票</p>
事業所	<p>上位レベルのビジネスユニットを表すコード。下位レベルのビジネスユニットを表す部署または職務のある事業所を参照する際に使用します。たとえば、次のように設定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 事業所 (MMCU) ○ 部署 A (MCU) ○ 部署 B (MCU) ○ 職務 123 (MCU) <p>ビジネスユニットセキュリティは上位レベルのビジネスユニットに基づきます。</p>

ビジネスユニット	会社の中で費用をトラッキングする単位を表す英数字のコード。組織の部署や課などの部門の他にも、倉庫、作業、プロジェクト、作業場、事業所、工場などをビジネスユニットとして設定できます。ビジネスユニットを伝票、会社、個人などに割り当てることにより、さまざまなレポートを作成できます。たとえば、ビジネスユニット別に未決済買掛金/売掛金レポートを作成して、管轄部門ごとの支払/入金予定を把握することができます。ビジネスユニットにセキュリティを設定することにより、ビジネスユニットに関する情報を、特定のユーザーからしか照会できないようにできます。
顧客 No.	住所番号は、住所録システムのエントリを識別する番号です。従業員、応募者、参加者、顧客、仕入先、テナント、保管場所などを識別するために使用します。
期間	<p>割り当てられた生産プロセスレベルでの品目のリードタイム値。事業所製造データに定義されています。この値は、作業オーダーの開始日付を固定リードタイムを使用して計算する際に使用されます。標準リードタイムは、購買品目と製造品目とで異なります。</p> <p>購買品目 - 仕入先が購買オーダーを受け取ってから、その品目が事業所に届くまでにかかるカレンダー日数</p> <p>製造品目 - すべての構成品が揃ったあと、その品目の組立てが完了するまでにかかる作業日数</p> <p>標準リードタイムは、〈製造値の入力〉で入力するか、〈リードタイム積上げ〉プログラムを使用して計算できます。〈リードタイム積上げ〉プログラムで標準リードタイムを計算するには、まず事業所品目テーブル(F4102)の[製造リードタイム数量]フィールドに数量を入力します。</p>
管理者	<p>管理者または計画担当者の住所番号。</p> <p>注: フォームによっては、カテゴリコード 1 (フェーズ)、2、3 の値に基づいてこのフィールドにデフォルト値を入力できます。デフォルト値は〈デフォルト監督者/管理者〉フォームで設定します。デフォルト値と処理オプションを設定すると、作成する作業オーダーのうちカテゴリコード基準が一致するものにはデフォルトの情報が自動表示されます。デフォルトの値を使用するか、デフォルト値を一時変更します。</p>
監督者	監督者の住所番号。
担当者	作業を割り当てられた担当者の住所番号
品目 No.	システムが品目に割り当てる番号。通常の品目番号のほか、略式品目番号、第 3 品目番号などのフォーマットがあります。
オーダー数量	このトランザクションの影響を受ける数量
計量単位	<p>在庫品目の表示数量を示すユーザー定義コード(00/UM)。</p> <p>たとえば、CS(ケース)や BX(箱)などです。</p>
見積資材	タスクの見積り資材費。
見積労務	タスクの見積り労務費。

その他見積	EPM の見積り原価カテゴリのその他の原価を指定する値。EPM では次の 4 つのカテゴリを使用します: 見積り、計画、予算、実績。「見積りその他」は見積り原価のうちの 4 つのカテゴリの中の 1 つです。見積り原価のその他の追加カテゴリには次のものがあります: 見積り資材費、見積り労務費、見積り特別費用。「見積りその他」の原価は、作業オーダー・マスター・タグ・テーブル (F4801T) に保存されます。
見積特殊数量	見積りが承認される前にこのタスクについて見積もられる特殊数量。
見積特殊金額	見積りが承認される前にタスクについて見積もられる特別な金額。

参照

- WBS への費用情報の入力については、『エンジニアリング・プロジェクト管理』ガイドの「見積費用の割当て」
- WBS へのコンフィギュレーション作業オーダーの追加については、『Base Configurator (ベース・コンフィギュレータ)』の「Working with Orders for Configured Items in Engineering Project Management (エンジニアリング・プロジェクト管理でのコンフィギュレーション品目のオーダー処理)」

▶ プロジェクトのタスクをコピーするには

〈プロジェクト・ワークベンチ〉メニュー(G31P12)から〈EPM プロジェクト・ワークベンチ〉を選択します。

1. 〈プロジェクトの処理〉で、[検索]をクリックします。
2. 処理するプロジェクトをハイライトして[選択]をクリックします。
3. 〈プロジェクト・ワークベンチ〉で、グリッドのブランクのレコードをクリックして[フォーム]メニューから[タスクのコピー]を選択します。

〈タスクの検索/選択〉プログラム(P31P202)の〈検索/選択〉フォームが表示されます。

4. 〈検索/選択〉で、次のフィールドに値を入力して[検索]をクリックします。
 - プロジェクト No.
 選択したプロジェクトのツリー構造が表示されます。
5. 新しいプロジェクトにコピーするタスクを選んで[選択]をクリックします。
6. 選択した WBS 上のブランクのレコードにタスクがコピーされます。
7. [OK]をクリックします。

▶ プロジェクトのタスクを移動するには

〈プロジェクト・ワークベンチ〉メニュー(G31P12)から〈EPM プロジェクト・ワークベンチ〉を選択します。

1. 〈プロジェクトの処理〉で、次のフィールドに値を入力して[検索]をクリックします。
 - プロジェクト No.
 - 事業所
2. グリッド行からレコードを選択し、[選択]をクリックします。

3. 〈プロジェクト・ワークベンチ〉で、移動するグリッドのタスクを選んで[フォーム]メニューから[タスクの移動]を選択します。

〈タスクの検索/選択〉プログラム(P31P202)の〈検索/選択〉フォームが表示されます。このフォームのプロジェクト番号は、処理中のプロジェクト番号です。

注:

製造半組立品タスクを新しい親作業オーダーに移動できるのは、半組立品のタスク品目が親作業オーダーの部品リストの一部である場合のみです。

4. 〈検索/選択〉で、移動するタスクの新しい親タスクを選んで[選択]をクリックします。
5. 〈プロジェクト・ワークベンチ〉で、グリッドの変更内容を検討します。

注:

〈プロジェクト照会〉フォームでは、ドラッグ&ドロップによりプロジェクトのタスクを移動できます。変更を保存するには、[フォーム]メニューから[保存]を選択します。

▶ **プロジェクトのタスクを削除するには**

〈プロジェクト・ワークベンチ〉メニュー(G31P12)から〈EPM プロジェクト・ワークベンチ〉を選択します。

1. 〈プロジェクトの処理〉で、次のフィールドに値を入力して[検索]をクリックします。
 - プロジェクト No.
 - 事業所
2. プロジェクトを選んで[選択]をクリックします。
3. 〈プロジェクト・ワークベンチ〉で、グリッドから削除するタスクを選択します。
4. [削除]をクリックします。
5. 〈削除の確認〉で[OK]をクリックします。
6. 〈プロジェクト・ワークベンチ〉で、[検索]をクリックします。

タスクの行がブランクになりました。
7. [OK]をクリックします。

プロジェクト・タスクのスケジューリング

特定の期間でプロジェクトを問題なく管理するには、プロジェクト管理者はプロジェクトを完了するのに必要な製品を購入または製造する時間を正確に反映したプロジェクトのスケジュールを作成する必要があります。また、スケジュールには、不可欠なスキルを持つリソースの利用状況からくる制限も反映させることが大切です。今日のビジネス環境では、効率的な時間とリソースの管理が非常に重要です。したがって、エンジニアリング・プロジェクト管理では次の内容を支援します。

- タスク従属関係やクリティカル・パス、リソースの利用状況など、標準的なプロジェクトの制約を使用して、プロジェクトのスケジュールを作成する。

- 既存のタスクについて、Microsoft Project を使用して、期間や従属タスクなどのプロジェクトのタスク情報への変更を管理する。

プロジェクトの WBS にタスクを追加する際には、各タスクを完了するのに必要な時間を指定する必要があります。集計タスクの場合、期間を手入力してください。作業オーダーの場合、事業所品目プログラム(P41026)で品目に定義した標準リードタイムから期間が読み込まれ、自動的に 1 日が追加されます。この期間とシステムのスケジュール機能を使用して、タスクの開始および終了日付が計算されます。スケジュール機能を使用すると、サブタスクの期間が親の期間に積み上げられます。処理オプションを設定して、タスク入力時に自動的にスケジュールを前進または逆算したり、フォーム・メニューのオプションを使用して前進や逆算処理ができます。タスクの日付や期間を変更すると、そのタスクの従属タスクがすべて再度スケジュールされます。

注:

別のタスクの開始または終了と同じ日にタスクを開始する必要がある場合、〈タスクの従属関係〉フォームの[遅延時間]フィールドに“-1”と入力します。この値によって、タイム・フレームが 1 日より細かい単位では計算できないという点を補うことができます。

タスクの従属関係を使用して、プロジェクト・タスクの実行順序を指定します。使用できるタスクの従属関係タイプによって、重複するタスクをスケジュールすることができます。つまり、先に始まったタスク(先行タスク)が完了する前に、次のタスク(後続タスク)を開始できます。従属関係の他にも、遅延時間を使用してタスクの順序を構成できます。次の 4 タイプのタスク従属関係を使用できます。

- 完了 - 開始(FS)後続タスクを開始する前に、先行タスクを完了する必要があります。たとえば、先行タスクにより生産される資材が後続タスクの製造プロセスに必要な場合、この従属タイプを使用できます。
- 完了 - 完了(FF)後続タスクを完了する前に、先行タスクを先に完了する必要があります。たとえば、先行タスクにより生産される資材が、後続タスクの製造プロセスの最終段階でのみ必要な場合、この従属タイプを使用できます。
- 開始 - 開始(SS)先行タスクは、後続タスクの開始より先に開始する必要があります。たとえば、設計および製造プロセスに常に変更を加えなければならない場合、この従属タイプを使用できます。この場合、先行タスクの設計仕様に最近加えた変更によって、後続タスクにも変更が発生します。
- 開始 - 完了(SF)後続タスクを完了する前に、先行タスクを開始する必要があります。

エンジニアリング・プロジェクト管理でタスクの従属関係を定義する際は、次の規則に従ってください。

- 親タスク間には従属関係のリンクを設定できますが、親と関連する子タスクの間には設定できません。
- 親タスクとその親タスクに関連を持たない子タスクの間には、従属関係を作成できます。
- すでにリンクの付いているタスク同士に、逆方向のリンクを作成することはできません。この規則によって、再帰的な関係を防ぐことができます。

同じレベルのサブタスクについてタスク従属関係を定義します。この場合、計画開始日付および計画終了日付は、定義したタスク従属関係にのみ依存します。

EPM プロジェクト・ワークベンチ・プログラム(P31P001)でプロジェクトの情報を設定したら、Microsoft Project などサードパーティのソフトウェアに WBS をエクスポートできます。タスクの期間および従属関係を、Microsoft Project を使用して処理できます。タスクの改訂は、プロジェクト・ワークベンチ・プ

プログラムにインポートできます。Microsoft Project でタスクを追加したり削除すると、これらの変更はプロジェクト・ワークベンチ・プログラムにはインポートできません。

参照

- 逆算スケジュールに使用する規則については、『製造現場管理』ガイドの「作業オーダーの逆算スケジュール」
- Microsoft Project へのプロジェクトのエクスポートと EPM プロジェクト・ワークベンチ・プログラム(P31P001)への変更のインポートについては、『エンジニアリング・プロジェクト管理』ガイドの「Microsoft Project とのインテグレーション」

はじめる前に

- スケジュールする全タスクが WBS に含まれており、すべてのタスクに期間が割当済みであることを確認してください。
- 処理オプションを自動的に計算されるスケジュールのタイプに設定してください。この処理オプションを設定しない場合、EPM プロジェクト・ワークベンチ・プログラム(P31P001)のスケジューリング機能を使用する必要があります。

▶ タスクの従属関係を定義するには

〈プロジェクト・ワークベンチ〉メニュー(G31P12)から〈EPM プロジェクト・ワークベンチ〉を選択します。

1. 〈プロジェクトの処理〉で、[検索]をクリックします。
2. グリッド行からレコードを選び、[選択]をクリックします。
3. 〈プロジェクト・ワークベンチ〉で、[フォーム]メニューから[依存関係]を選択します。
4. 〈タスクの従属関係〉で、次のフィールドに値を入力します。
 - 先行タスク No.
 - 先行タスク記述
 - 後続タスク No.
 - 後続タスク記述
 - 依存タイプ
 - 遅延時間
5. [OK]をクリックします。
6. 〈プロジェクト・ワークベンチ〉で、各タスクについて次のフィールドの内容を検討して[OK]をクリックします。
 - 後続

このフィールドには後続タスクの作業オーダー番号が含まれます。

フィールド記述

記述	用語解説
先行タスク No.	後続タスクのスケジュール作成の基準とするタスクを識別する番号。先行タスクと後続タスクの関係は、従属タイプによって定義します。
先行タスク記述	ユーザー定義名称または備考。
後続タスク記述	ユーザー定義名称または備考。
依存タイプ	<p>タスク従属タイプの検索に使用するユーザー定義コード(31P/DT)。有効な値は次のとおりです。</p> <p>FF(完了 - 完了)</p> <p>後続タスクを完了する前に、先行タスクを先に完了する必要があります。</p> <p>FS(完了 - 開始)</p> <p>後続タスクを開始する前に、先行タスクを完了する必要があります。</p> <p>SF(開始 - 完了)</p> <p>後続タスクを完了する前に、先行タスクを開始する必要があります。</p> <p>SS(開始 - 開始)</p> <p>先行タスクは、後続タスクの開始より先に開始する必要があります。</p>
遅延時間	従属タスク間の計画された時間。遅延時間の計算方法に応じて、入力した値が先行または後続タスクの時間、あるいはパーセンテージの絶対値となることがあります。

▶ タスクをスケジュールするには

〈プロジェクト・ワークベンチ〉メニュー(G31P12)から〈EPM プロジェクト・ワークベンチ〉を選択します。

1. 〈プロジェクトの処理〉で、[検索]をクリックします。
2. グリッド行からプロジェクトを選び、[選択]をクリックします。

注:

WBS のタスクを前進させたり逆算してスケジュールを作成できます。

3. 〈プロジェクト・ワークベンチ〉で、[フォーム]メニューから[スケジュール]を選び、[スケジュール]または[逆算スケジュール]を選択します。

グリッドで、調整済みの計画開始日付および計画終了日付を検討できます。日付の調整は定義した従属関係と各タスクの期間によって異なります。

注意:

前進スケジューリングを使用すると、タスクの期間を考慮するために当初の計画終了日付が変更されることがあります。逆算スケジュールに切り替える場合は、当初の計画終了日付をリセットする必要があります。こうしないと、新しい計画終了日付を使用してタスクのスケジュールが逆算されます。

タスクへのリソースの割当て

〈EPM プロジェクト・ワークベンチ〉プログラム(P31P001)を使用して、プロジェクト管理者は WBS のタスクにリソースを入力できます。この機能を使用すると、プロジェクト管理者は製造タスクおよびプロジェクトに割り当てられたリソースと、リソースの利用状況をトラッキングできます。一方、従業員は自分に割り当てられたタスクや、タスクの開始日付および終了日付を参照できます。必要に応じてタスクに複数のリソースを割り当て、タスクを完了するのに必要な時間をカバーすることもできます。

リソースの割当情報と割当ては〈リソース割当て〉プログラム(P48331)で設定します。リソースを割り当てた後、〈プロジェクト・ワークベンチ〉フォームで[ロー]メニューからオプションを選択すると、プロジェクトまたはタスクのレベルでリソースを検討できます。製造作業オーダーの場合は、作業オーダーの作業工程からリソース割当てプログラムにアクセスします。

参照

- リソースの割当てについては『保有資産管理』ガイドの「リソースの割当て」

見積費用および計画費用の割当て

プロジェクトの WBS を作成する上で重要な点は、プロジェクトの合計費用を計算できるように、各プロジェクト・タスクに見積費用を割り当てることです。正確な費用の情報を入手することは、精度の高いプロジェクト予算を作成し、顧客に価格見積りを提供するための必要条件です。

エンジニアリング・プロジェクト管理システムでは、見積り、計画、予算、実績の 4 タイプの費用をトラッキングします。これらの費用はすべてプロジェクト・タスクの作業オーダー・マスター(F4801)に保存されます。EPM ワークベンチ・フォームでは実績費用の入力や変更はできません。〈作業時間/作業量の入力〉プログラム(P311221)で入力する労務費など、プロジェクトの進行と同時に入力する費用のデータから実際の費用が更新されます。予算費用は[予算費用]フィールドに示されます。〈EPM プロジェクト・ワークベンチ〉プログラム(P31P001)で見積りを受け入れると、合計見積費用がこのフィールドにコピーされます。プロジェクトの立ち上げフェーズで、見積費用と計画費用を設定して、プロジェクトの予算と見積りを確定します。

見積費用

WBS への見積費用の入力には、さまざまな方法を使用できます。見積費用を入力する際は、記述タスクと製造作業オーダー・タスクのどちらについて入力するのか知っておく必要があります。見積費用を入手するには、次の方法を使用します。

- EPM プロジェクト・ワークベンチ・プログラムで費用を手入力する。この方法はプロジェクトのどのタスクにも使用できますが、このタスク・タイプには製造費用がないため、集計タスクに費用を割り当てるのに最適です。

- 標準的な費用をシステムにより自動入力する。この方法は、タスクが標準原価品目（原価計算方式 07）の作業オーダーで、この品目に標準原価が存在する場合にのみ使用できます。作業オーダーを WBS に入力すると、標準原価がグリッドの該当するフィールドに自動的に入力されます。プロジェクトに定義した費用の分類体系に応じて、費用のフィールドに費用が割り当てられます。

タスクが実際原価品目の作業オーダーである場合、見積費用のフィールドは更新されません。この品目がまだ製造されておらず、作業オーダーに対して費用が報告されていないためです。

親レベルに入力した費用は、フォーム下部の集計原価見出しの下にある[見積]フィールドに集計されます。

計画費用

製造タスクの計画費用を入手するには、作業オーダーに部品リストと作業工程指示を添付する必要があります。この時点ではプロジェクトに在庫を割り当てずに、このプロセスを実行すれば費用情報が得られるようプロジェクト属性で指定できます。最新の費用情報を入手するために、以前に入力した見積費用を計画費用で一時変更することも可能です。計画費用カラムでなく、見積費用カラムの情報から見積りを作成するにはこのステップが必要です。見積費用を計画費用で一時変更するには、プロジェクト属性の設定を使用するか、〈プロジェクト・ワークベンチ〉フォームのロー・メニューからオプションを選択できます。計画費用を入手するには、次の方法を使用します。

- 〈プロジェクト・ワークベンチ〉フォームで費用を手入力する。部品リストと作業工程を作業オーダーに添付すると、その結果の費用情報によって〈プロジェクト・ワークベンチ〉フォームで入力した計画費用の情報が一時変更されます。
- 部品リストと作業工程を作業オーダーに添付して、最新の単位あたりの費用や労務、段取、機械稼働レートを読み込み、〈プロジェクト・ワークベンチ〉フォームの計画費用のフィールドに積み上げる。単位あたりの費用とレートを、作業オーダー部品リスト(P3111)と作業オーダーの作業工程プログラム(P3112)で手入力できます。費用を変更すると計画費用が更新されます。
- 見積りを承認する段階で計画費用のフィールドがblankの場合、見積費用のフィールドを基に計画費用のフィールドを更新する。

さまざまなソースから入力または読み込んだ費用は、親オーダーのレベルに積み上げられます。これは、親が製造作業オーダーでも記述タスクの場合でも同じです。親レベルで入力した費用は、集計原価見出しの下の[計画]フィールドに集計されます。

はじめる前に

- プロジェクトの費用分類情報を設定して、入力した費用が正しい費用のフィールドに保管されるようにしてください。
- プロジェクト属性の[見積承認後に引当て]のオプションをオンにして、在庫を引き当てずに〈オーダー処理〉プログラム(R31410)を実行できるようにします。
- 見積費用の情報を見積りの基準として使用するには、プロジェクト属性の[見積フラグ]オプションをオンにして、作業オーダーに部品リストと作業工程指示を添付することにより生成された計画費用が、自動的に見積費用を一時変更するようにします。

▶ 見積費用を入力するには

〈プロジェクト・ワークベンチ〉メニュー(G31P12)から〈EPM プロジェクト・ワークベンチ〉を選択します。

1. 〈プロジェクトの処理〉で、[検索]をクリックします。
2. プロジェクトを選んで[選択]をクリックします。
3. 〈プロジェクト・ワークベンチ〉で、各タスクについて次のフィールドに値を入力します。
 - 見積資材
 - 見積労務
 - その他見積
 - 見積特殊数量
 - 見積特殊金額

各レコードに入力した見積金額の合計が計算され、[見積合計]フィールドに表示されます。

注:

標準の費用情報を持つ品目の作業オーダーを入力すると、これらの標準費用がタスクに追加されます。

4. [OK]をクリックします。

▶ タスクのオーダーを処理するには

〈プロジェクト・ワークベンチ〉メニュー(G31P12)から〈EPM プロジェクト・ワークベンチ〉を選択します。

1. 〈プロジェクトの処理〉で、[検索]をクリックします。
2. グリッドからプロジェクトを選択し、[選択]をクリックします。
3. 〈プロジェクト・ワークベンチ〉で、グリッドから〈オーダー処理〉プログラム(R31410)を実行する作業オーダーを選択します。
4. [ロー]メニューから[タスクの処理]を選択します。

オーダー処理プログラムを実行し終わると、計画費用のフィールドに更新された計画費用が入力されます。この品目はまだ製造されていないため、生産する品目に購買部品が含まれない限り、実際原価が計算済みの品目の[計画資材]フィールドはブランクになります。

注:

プロジェクト全体のオーダーを一度に処理するには、[フォーム]メニューから[プロジェクトを処理]を選択してオーダー処理プログラムを実行できます。

5. [OK]をクリックします。

▶ 見積費用を計画費用で一時変更するには

〈プロジェクト・ワークベンチ〉メニュー(G31P12)から〈EPM プロジェクト・ワークベンチ〉を選択します。

1. 〈プロジェクトの処理〉で、[検索]をクリックします。
2. グリッドからプロジェクトを選択し、[選択]をクリックします。
3. WBS で、見積費用を計画費用により一時変更するタスクを選択します。
4. [ロー]メニューから[その他]-[見積りの一時変更]を選びます。

見積費用のフィールドの当初の値が、計画費用のフィールドの値に置き換えられます。

5. [OK]をクリックします。

見積りおよび提案の生成

〈EPM プロジェクト・ワークベンチ〉プログラム(P31P001)でプロジェクトを作成してタスクと費用の情報を追加したら、〈プロジェクト見積り〉プログラム(P31P100)を使用して詳細かつ体系化された見積りを作成できます。この見積りは顧客の承認用に提示できます。顧客が見積りを承認したら、プロジェクトの作業を開始できます。顧客が変更を要求した場合、必要な回数だけ見積りの情報を改訂できます。たとえば、費用の金額を改訂したり、特定の行を計算に含めるかどうかを指定することができます。要件が満たされて顧客からプロジェクトを続行する最終的な承認が得られるまで、見積りを顧客に繰り返し提出できます。要求された変更がプロジェクトへのタスクの追加や削除を含む場合、〈プロジェクト・ワークベンチ〉フォームで変更して、WBS から新しい見積りを作成する必要があります。

EPM 見積生成用のプログラムを使用すれば、プロジェクトの WBS の各タスクに関連付けられた見積費用を基準にして、見積りを作成できます。EPM プロジェクト・ワークベンチ・プログラムから見積プログラムへ、WBS をインポートできます。この目的は、十分な情報を持つ見積りを作成し、顧客がそれに基づいて決定を下せるようにすることです。通常は、EPM プロジェクト・ワークベンチ・プログラムの費用情報は詳細レベルに応じて変わります。詳細な情報が多すぎることや、有効な見積りとして十分な詳細情報が含まれていない場合もあります。顧客への提示に表示させるタスク情報を、WBS から選択することができます。費用の見積りではなく実際の作業にふさわしいような明細情報を省略すると、見積りを簡略化できます。一方、詳しい製造原価の内訳や各行の項目に適用するマージン、運賃などの追加費用情報が必要な場合もあります。見積プログラムでは、個々のタスクの見積金額を小計と合計にまとめることもできます。こうすることにより、顧客がプロジェクトの費用をより良く理解できるようになります。

見積プロセスでは顧客とのやりとりを繰り返すこともあります。設計や価格の変更に関係なく、見積りに変更を加える際は、変更のトラッキングが可能なように新しい見積りのバージョンを作成します。最後に、見積情報を使用して、顧客に送付する見積文書を生成します。E ビジネスのプロセスを使用する場合は、〈オンライン提案〉プログラム(P31P101)を使用すれば顧客と Web を通してやりとりができます。

顧客が見積りを承認したら、EPM プロジェクト・ワークベンチ・プログラムでもその旨を記録する必要があります。このプログラムとプロジェクト見積プログラムは別の 2 つのテーブルを更新するためです。一方のテーブルを変更しても、もう片方のテーブルは自動的に変更されません。EPM プロジェクト・ワークベンチ・プログラムには、フォーム・メニューに見積承認のためのオプションがあります。EPM プロジェクト・ワークベンチ・プログラムで見積りを承認したら、プロジェクトのプランニング・フェーズを開始できます。

見積りの処理

〈プロジェクト見積り〉プログラム(P31P100)には、EPM プロジェクト・ワークベンチ・フォームの[フォーム]メニュー、または〈見積り&提案〉メニュー(G31P11)から直接アクセスできます。このプログラムを使用して、必要に応じて特定のプロジェクトに対して複数バージョンの見積りを作成します。これらの見積りバージョンは、プロジェクト見積り明細テーブル(F31P11)に保存されます。J.D. Edwards では様々な見積りのバージョンの状況をトラッキングできるように、次のプロジェクト状況コード(UDC 31P/QP)を用意しています。

保留	見積りを生成したときのデフォルト状況。この段階では、見積りは顧客に送られていないため、たとえば営業担当者は見積りを何回でも変更したり調整できます。この段階で営業担当者は新しい見積りのバージョンを作成できます。1つのプロジェクトで複数の見積りバージョンを保留の状況にできます。営業担当者が見積りから提案を作成して見込み客に送ると、見積りは「アクティブ」の状況になり、顧客は提案文書にアクセスできるようになります。
アクティブ	見積りが検討のために顧客に送られたことを示します。当初の見積りへの変更を区別するために、見積りの複数のバージョンにこの状況を割り当てることができます。新しいバージョンを作成しないでアクティブな見積りに変更を加えると、変更のトラッキングが困難になります。顧客が区別できるように、同じ状況を持つ見積りの各バージョンに違う名前を付けてください。この状況は、顧客が見積りを検討中で交渉がまだ続いていることを意味します。顧客が見積りを却下すると、作成者は見積りの状況を「非アクティブ」に変更できます。
非アクティブ	見積りが無効なことを示す状況。非アクティブな見積りは変更できません。これらは保存用です。見積りを非アクティブにする理由を入力することもあります。
最新	顧客が見積りを承認したことを示す状況。1件のプロジェクトにつき1つの見積りにだけこの状況を割り当てられます。見積りがこの状況にあるときは、プロジェクトを再度協議する必要がある場合は、新しい見積りを作成できます。この場合、「最新」の見積りの状況を「非アクティブ」に変更し、その理由を記録して新しい見積りを生成してからアクティブにする必要があります。
完了	プロジェクトが完了または中止になり、締め切られたことを示す状況。見積りがこの状況の場合、プロジェクトに新しい見積りを作成したり、見積りを変更することはできません。1件のプロジェクトにつき1つの見積りにだけこの状況を割り当てられます。

見積りが顧客への販売提案を準備するのに十分であると判断したなら、見積りの状況を「アクティブ」に変更できます。この状況では、顧客送付用の販売見積りを生成できます。

見積り状況の情報については、2つの通知方法があります。処理オプションを設定すると、見積りの状況が変わったときに管理者に自動的に通知できます。また、プロジェクト用に電子メールの配布リストを定義して、見積りについて顧客に連絡がいくようにすることもできます。

はじめる前に

- WBS に必須タスク、見積り、スケジュール情報を入力したことを確認してください。
- プロジェクト見積りプログラム(P31P100)の通知機能を利用する場合は、住所録システムの〈構造の改訂〉プログラム(P0150)を使用して電子メールの配布リストを設定します。J.D. Edwards ソフトウェアの電子メールの配布リストの設定については、『住所録』ガイドの「親子関係の処理」を参照してください。

▶ プロジェクトの見積りを作成するには

〈見積り&提案〉メニュー(G31P11)から〈プロジェクト見積り〉を選択します。

1. 〈EPM プロジェクト見積りの処理〉で、次のフィールドに値を入力します。
 - プロジェクト No.
2. [追加]をクリックします。
3. 〈EPM 見積りの追加〉で、次のいずれかのオプションをクリックして見積りの基準とする費用のタイプを指定します。
 - 見積
 - 計画
4. 〈EPM プロジェクト見積りの改訂〉で、[見積情報]タブを選択して次のフィールドに値を入力します。
 - 見積バージョン
 - オーダー記述
 - 見積有効開始
 - 見積有効終了

5. [担当者]タブを選択して次のフィールドの値を検討します。

- 顧客 No.
- 管理者
- 入力担当者

通常は見積りには顧客番号を使用します。プロジェクトの見出し情報を定義する際に顧客を入力します。

6. グリッドの情報を検討し、次のフィールドの情報などを必要に応じて入力または変更します。
 - 一時変更用見積金額
 - マージン%

当初の見積りとは異なる見積金額を入力するには、[一時変更用見積金額]フィールドを使用します。この場合、システムは当初の見積りではなくこの情報を計算に使用します。入力したマージンのパーセントを使用して、見積金額の割増しが計算されます。

7. それぞれの見積レコードについて、レコードを見積りの計算に含めるかどうかを次のフィールドを使用して指定します。
 - 見積計算用
8. それぞれの見積レコードについて、このレコードから販売見積レコードを作成するかどうかを次のフィールドを使用して指定します。
 - ロー表示

9. 見積りの情報に納得がいったら、[見積情報]タブを選択して見積合計を計算する次のオプションをクリックします。
 - 合計計算の表示

プロジェクト見出しの[合計見積金額]フィールドには、計算された見積合計が表示されます。
10. 見積りの状況を更新するには、[見積情報]タブを選択して次のフィールドの値を更新します。
 - 見積状況

注:

見積りに「非アクティブ」を割り当てる場合、[理由コード]タブがアクティブとなり、見積りを非アクティブにする理由を入力できます。

11. [OK]をクリックします。

フィールド記述

記述	用語解説
見積	<p>既存のプロジェクトの見積り原価と計画原価のどちらに基づいて新規の見積りを作成するかを指定します。有効な値は次のとおりです。</p> <p>1</p> <p>見積り原価に基づいて見積りを作成する</p> <p>2</p> <p>計画原価に基づいて見積りを作成する。</p>
計画	<p>既存のプロジェクトの見積り原価と計画原価のどちらに基づいて新規の見積りを作成するかを指定します。有効な値は次のとおりです。</p> <p>1</p> <p>見積り原価に基づいて見積りを作成する</p> <p>2</p> <p>計画原価に基づいて見積りを作成する。</p>
見積バージョン	<p>このフィールドには、見積プログラムのバージョンを識別する数値を入力します。見積の計算時には多くのバージョンがシステムにより作成されますが、受け入れられるのは1バージョンのみです。</p>
見積記述	<p>ユーザー定義名称または備考。</p>
見積有効開始	<p>見積りが有効となる日付。デフォルトは現行のシステム日付です。</p>
見積有効終了	<p>見積りが有効でなくなる日付。デフォルトは現行のシステム日付です。</p>

顧客 No.	住所番号は、住所録システムのエントリを識別する番号です。従業員、応募者、参加者、顧客、仕入先、テナント、保管場所などを識別するために使用します。
管理者	管理者または計画担当者の住所番号。 注: フォームによっては、カテゴリコード 1 (フェーズ)、2、3 の値に基づいてこのフィールドにデフォルト値を入力できます。デフォルト値は〈デフォルト監督者/管理者〉フォームで設定します。デフォルト値と処理オプションを設定すると、作成する作業オーダーのうちカテゴリコード基準が一致するものにはデフォルトの情報が自動表示されます。デフォルトの値を使用するか、デフォルト値を一時変更します。
一時変更用見積金額	プロジェクトのフェーズまたはタスクの予算金額。見積り金額の一時変更を使用する場合に、このフィールドに値を入力してください。
マージン%	利益率は見積金額の計算に使用されます。見積金額は、予測金額に利益率を掛けた値です。
見積計算用	見積生成プログラムの価格計算にローを含めるかどうかを指定するコード。 有効な値は次のとおりです。 <div style="margin-left: 40px;"> ブランク 見積計算のプログラムに原価を含めない 1 見積計算のプログラムに原価を含める </div>
ロー表示	オンライン提案プログラム(P31P101)で計算した価格のローを表示して、そのローについて販売見積りの行を作成するかどうかを指示するコード。含める各ローに 1 を入力してください。
合計計算の表示	計算された見積合計をグリッドに表示するかどうかを指定するコード。このオプションをオンにすると、選択した各タスクの見積合計金額が表示されます。
見積状況	プロジェクト見積りの状況を示すユーザー定義コード(31P/QP)。

▶ 販売見積りを生成するには

〈見積り&提案〉メニュー(G31P11)から〈プロジェクト見積り〉を選択します。

1. 〈EPM プロジェクト見積りの処理〉で、次のフィールドに値を入力します。
 - プロジェクト No.
2. [検索]をクリックします。
3. 処理する見積りのバージョンを選んで[選択]をクリックします。

注:

選択した見積りのバージョンがアクティブであることを確認してください。状況が保留であると販売見積りを生成できません。

4. 〈EPM プロジェクト見積りの改訂〉で、[フォーム]メニューから[見積の生成]を選択します。
販売見積番号が生成されます。
5. [OK]をクリックします。

6. [フォーム]メニューから[販売見積]を選びます。

7. <受注残および完了オーダー照会>で、[検索]をクリックします。

<プロジェクト見積り>プログラム(P31P100)から生成した販売見積りは、<受注オーダー入力>プログラム(P4210)のグリッドに、EPM 見積りからのすべてのレコードと共に表示されます。販売見積りは、<プロジェクト見積り>プログラムで割り当てた行タイプに基づいて生成されます。

注意:

<受注オーダー入力>プログラムで見積りを変更することも可能ですが、J.D. Edwards ではお勧めしません。両方のプログラムで見積りの情報が一致するように、変更には<プロジェクト見積り>プログラムのみを使用してください。<プロジェクト見積り>プログラムからの見積金額は、常に販売見積りの明細レコードの見積価格を一時変更します。

8. [閉じる]をクリックします。

参照

- 販売見積りの処理については『受注管理』ガイドの「見積オーダーの処理」
- <生成文書メディア・オブジェクトの定義>プログラム(P0039)の使用については、『受注管理』ガイドの「提案書の生成」

処理オプション:EPM プロジェクト見積り(P31P100)

表示タブ

これらの処理オプションでは、見積りの計算に見積レコードを自動的に含めるかどうかや表示方法、親タスクの見積金額を一時変更可能にするかどうかを指定します。

1. 改訂フォームへの自動入力

blank = 明細行を選択しない

1 = 選択値 1 をすべての見積明細行に入力する

グリッドのすべての見積り明細行について、EPM プロジェクト見積りの改訂フォームの[見積計算用]カラムに自動的に 1 を入力するかどうかを指定します。見積りに含めない行は後から選択を解除できます。この処理オプションをblankにすると、見積りに表示する明細行は自動的に選択されません。

2. ローの選択および販売見積行の作成

blank = 明細行を選択しない

1 = すべての見積明細行のデフォルト値を 1 とする

<EPM プロジェクト見積りの改訂>フォームのグリッドのすべての見積明細行の[選択表示]カラムに 1 を入力するかどうかを指定します。含めない行は後で選択を解除できます。<EPM オンライン提案>プログラム(P31P101)に計算された価格が存在する選択行が表示され、各行について販売見積行が作成されます。[計算合計の表示]オプションを有効にした場合、見積合計金額が

計算されます。

注: 親タスク行の価格は一時変更できません。

この処理オプションをブランクにすると、含める各行に値を選択して入力する必要があります。この場合、すべてのレベルの全タスクの価格を一時変更できますが、合計金額は計算されないの
で注意してください。

3. 親の見積金額の一時変更

ブランク = 見積金額の一時変更を許可しない

1 = 見積金額の一時変更を許可する

親タスク・レベルの見積金額を一時変更可能にするかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク

見積金額を一時変更しない

1

見積金額を一時変更できる

デフォルト・タブ

基本通貨として使用する通貨を指定します。

1. 基本通貨

ビジネスユニットに関連付けられていないプロジェクトに使用する、デフォルトの基本通貨を指定
します。

処理タブ

見積りの状況について通知を送る先を制御します。

1. 見積状況が「アクティブ」となった場合に管理者に通知する

見積りの状況が変わったときに、管理者に通知を送るかどうかを指定します。有効な値は次のと
おりです。

ブランク

管理者に通知を送らない

1

管理者に通知を送る

2. 見積状況が「非アクティブ」となった場合に管理者に通知する

見積りの状況が変わったときに、管理者に通知を送るかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク

管理者に通知を送らない

1

管理者に通知を送る

3. 見積状況が「最新」となった場合に管理者に通知する

見積りの状況が変わったときに、管理者に通知を送るかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク

管理者に通知を送らない

1

管理者に通知を送る

4. 見積状況が「アクティブ」となった場合に管理者に通知する

見積りの状況が「有効」が変わったときに、顧客に通知を送るかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

0

顧客に通知を送らない

1

顧客に通知を送る

5. 電子メール配布リスト

プロジェクトの警告の配布リストを指定します。

6. 組織構造タイプ

プロジェクトの警告の配布リストを指定します。

バージョン・タブ

〈プロジェクト見積り〉プログラム(P31P100)から次のプログラムを呼び出す際に、使用するバージョンを指定します。

1. 販売見積の入力(P4210)

ブランク = ZJDE0018

販売見積の作成に使用する〈受注オーダー入力〉プログラム(P4210)のバージョンを指定します。ブランクの場合、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

2. 生成伝票(P00391)

ブランク = ZJDE0001

生成済み文書プログラム(P00391)のどのバージョンを使用して提案を生成するかを指定します。ブランクの場合、バージョン ZJDE0001 が使用されます。

オンライン提案の処理

EPM 見積システムでは、見積りをオンラインで顧客に直接送ることもできます。これにより、紙で提案を作成するステップを省略できます。状況がアクティブの見積りを送付できます。J.D. Edwards のポータルで〈オンライン提案〉プログラム(P31P101)にアクセスできるよう、顧客に一定のセキュリティを設定する必要があります。

顧客がプログラムを呼び出すとすべての見積りが表示されますが、各レコードのすべてのフィールドは表示されません。たとえば、EPM プロジェクト・ワークベンチ・プログラム(P31P001)からの当初の見積りは非表示です。顧客は、見積りを受け入れるか却下するかにより返答できます。顧客の返答をプロジェクト管理者など指定の担当者に伝えるには、ワークフロー・システムが使用されます。また、回答を受け取った旨も顧客に通知されます。このプロセスは繰り返します。顧客が納得して見積りを承認するまで、必要なすべての変更を入力できます。顧客から見積承認の連絡を受けたら、見積りの状況を「最新」に変更します。

プロジェクト・プランニング

一般的に、プロジェクトのプランニング・フェーズは、顧客がプロジェクトの見積りを承認して見積承認のプロセスを実行してから始まります。見積承認プロセスを実行するには、〈プロジェクト・ワークベンチ〉フォームで[フォーム]メニューから[見積承認]を選択します。結果として、〈プロジェクトの追加/改訂〉フォームで[プロジェクト状況]タブの[見積りが承認済み]オプションがオンになります。

プロジェクト・プランニング・フェーズは、顧客への見積りの基準として収集および定義したプロジェクト情報を、プロジェクト実行および統制フェーズで実行可能な計画に変換するために必要なすべてのアクティビティを含みます。プロジェクトの立上げフェーズでは、タスクや作業オーダー、スケジュール、リソース、予算の詳細な情報を準備できない場合もあります。プロジェクトのプランニング・フェーズでは、プロジェクト管理者はプロジェクトの情報を詳細に定義できます。見積承認プロセスを実行する前後どちらでも、プロジェクト・タスクの取引を入力して会計および在庫管理上のコミットメントを実行できます。[コミットメントのタイミング]オプションをオンにした場合、見積承認プロセスを実行するまではコミットメントは実行できません。

注:

購買品目については、行タイプが設定されていて伝票タイプが UDC テーブル(40/CT)に含まれていれば、会計上のコミットメントが自動作成されます。

製造作業オーダーについて会計上のコミットメントを実行するには、プロジェクトの[作業原価インターフェイス]オプションをオンにしてください。

プロジェクト属性で[作業原価インターフェイス]オプションをオンにすると、〈プロジェクト・ワークベンチ〉フォームからのプロジェクトの計画費用が、見積承認プロセス中に作業原価の当初予算にアップロードされます。

WBS のタスク情報に応じて、〈プログラム所要量計画〉プログラム(R3482)を実行して、詳細メッセージを生成できます。このメッセージは、補充用の購買オーダーと作業オーダーを生成する際に使用します。部品リストの品目については購買オーダーを手入力できます。また、プロジェクトの製造作業オーダーによって消費されず、プロジェクトの一環として顧客に販売する品目の場合、購買オーダーも作成できます。

プロジェクト属性で[作業原価インターフェイス]オプションをオンにして見積承認プロセスを実行すると、プロジェクト情報を続けて定義および計画できます。[フォーム]メニューから[作業原価予算の凍結]を選択することにより、プロジェクトの次のステージに進めます。その結果、WBS からの計画費用が最終的に当初予算に読み込まれ、予算合計が凍結されます。

注:

プロジェクトのアクティビティは繰り返しが非常に多いため、ここで説明した通りの順序で進むとは限りません。

はじめる前に

- 作業原価システムの機能を使用して製造作業オーダーに会計のコミットメントを作成するには、プロジェクトの[作業原価インターフェイス]のオプションをオンにしてください。

プロジェクト見積りの作業原価予算へのアップロード

〈定期処理〉メニュー(G31P20)から〈作業原価予算のアップロード〉を選択します。

このプログラムは、当初予算と予算の改訂を〈EPM プロジェクト・ワークベンチ〉プログラム(P31P001)から作業原価システムにアップロードする際に使用します。見積承認後にメニューからこのプログラムを起動して、作業原価予算のデータをプロジェクトの費用情報と同期させることができます。プロジェクトの2つのフェーズ中に、EPM プロジェクト・ワークベンチ・プログラムによって、このプログラムが自動的に実行されます。見積承認のフェーズで、プロジェクトの計画費用が当初予算としてアップロードされます。原価予算の凍結フェーズでは、当初予算が最終的にアップロードされます(処理オプションで設定した場合)。作業原価予算をロックすると、〈作業原価予算のアップロード〉プログラム(R31P800)は改訂のアップロードにしか使用できません。

作業原価予算をアップロードして更新するには、AAI 3130(半組立品/完成品)を使用します。このAAIはEPM プロジェクト・ワークベンチ・プログラムからの計画費用を、作業原価システムにマッピングします。

注:

処理オプションで指定した伝票タイプは、AAIの伝票タイプと一致する必要があります。

このバッチ・プログラムを実行するには、プロジェクト属性の[作業原価インターフェイス]フラグをオンにしてください。こうしないとエラー・メッセージが表示されます。このプログラムをテスト・モードで実行して、作業原価予算とEPM プロジェクトに適用した変更とを比較することもできます。最終モードでこのプログラムを実行すると、作業原価テーブルが予算変更により更新されます。

処理オプション：作業原価予算のアップロード(R31P800)

表示

1. 使用していない勘定科目の表示

blank = 使用していない勘定科目を非表示にする

1 = 使用していない勘定科目を表示する

編集

1. デフォルトの原価コード範囲

開始原価コード

終了原価コード

2. デフォルトの原価タイプ範囲

開始原価タイプ

終了原価タイプ

3. 勘定科目詳細レベル(3-9)の最小値を指定してください。

プロセス

1. モード

1 = 最終

ブランク = テスト

2. 予算金額元帳タイプ

ブランク = JA

3. 作業原価の改訂で元帳日付の編集をバイパスする

4. 作業原価当初予算の更新

1 = 現行年度のみ更新

2 = すべての年度を更新

ブランク = 現行年度と将来の年度を更新

5. 伝票タイプ

監査証跡

このタブのオプションは、改訂予算をアップロードする際にのみ使用できます。

1. 伝票タイプ

2. 作業原価予算の監査証跡の作成

3. 参照番号

4. 一時変更の説明

プロジェクト所要量計画(PRP)

プロジェクト所要量計画(PRP)は、MRP/MPS 所要量計画プログラム(R3482)のオプションで、プロジェクトに使用する最終品目の生産オーダーおよび構成品の補充スケジュールを生成する際に使用します。

PRP では最終品目の供給として出荷可能なプロジェクトの品目を認識し、この供給を構成品の需要に反映させるために使用します。このようにして、プロジェクトの需要が自ら満たされます。

従属需要は、部品表または最終品目に関連付けられた部品リストによって生成されます。入荷確認または作業オーダー完了によって入庫したこれらのプロジェクトに固有の在庫は、プロジェクトの需要を満たす目的にのみ使用します。

プロジェクトの需要/供給は独立したものとして見なします。これにより、最終品目の予測や受注オーダー、作業オーダー、購買オーダーからの需要/供給が、プロジェクトの所要量に影響しません。

プロジェクト所要量のセットアップの考慮事項

MRP/MPS 所要量計画プログラム(R3482)のプロジェクト所要量計画(PRP)オプションを使用してプロジェクトを計画するには、システムの設定を確認する必要があります。

〈品目マスター〉プログラム(P4101)で、プロジェクト固有の品目の在庫タイプを特殊取扱コード P(プロジェクト)と定義します。PRP ではこの在庫タイプを使用して、品目がプロジェクトに固有であることを指定します。

注意:

同じ事業所内で、1 つの品目をプロジェクト固有と標準の両方として識別することはできません。

複数レベル部品表の場合、品目をプロジェクト固有として識別すると、最終品目も含む階層ツリーのすべての親品目をプロジェクト固有にする必要があります。このように設定しないと、当初のオーダー所要量(ペギング・レコード)がリンクされません。

PRP ではロー・レベル・コードを使用して、部品表構造での品目の最下位レベルを識別します。ロー・レベル・コードを製造部品表に追加すると、品目に割り当てられます。品目は製造部品表とプロジェクトの作業階層構造(WBS)のどちらか、または両方に存在することができます。WBS は部品表の構造に似ていますが部品表ではないため、プロジェクトで使用する際に品目のロー・レベル・コードを割り当てるには何らかの方法が必要です。正しいロー・レベル・コードを割り当てるには、処理オプションでプロジェクトの品目を考慮するよう設定して、〈部品表構造の分析〉プログラム(R30601)を実行してください。

PRP では[出荷]フィールドの値が 1 の場合に、WBS でプロジェクト固有の最終品目の供給を識別します。

注:

最初に WBS に最終品目を追加するときには、半組立品を WBS に追加しないようにしてください。PRP では親の最終品目の供給作業オーダーを使用して、需要を半組立品および構成品に展開します。作業オーダー・メッセージを処理すると、プロジェクトに固有の半組立品が WBS 上で更新されます。

PRP に使用する需要/供給組込規則を設定することもできます。PRP で需要/供給組込規則を使用する際は、WBS の製造作業オーダーの状況を考慮してください。

プロジェクト所要量計画の生成

MRP/MPS 所要量計画プログラム(R3482)のプロジェクト所要量計画オプションを使用すると、プロジェクトの補充スケジュールが生成されます。

システムが手持在庫を分配する際に、プロジェクトの需要には優先情報が加味されます。プロジェクト引当明細テーブル(F410211)には、プロジェクトに固有の在庫品目の明細レコードが保存されます。PRP ではこのテーブルを使用して、プロジェクトに割り当てるプロジェクト固有の在庫を確定します。

プロジェクトの供給または最終品目の在庫状況は、作業オーダー・マスター・タグ・テーブル(F4801T)に保存されます。一般的な作業オーダーの場合と同じですが、プロジェクト番号が自動的に入力されます。

プロジェクト所要量計画の出力データ

MRP/MPS 所要量計画プログラム(R3482)のプロジェクト所要量計画オプションを実行すると、システムで出力データを検討することができます。

ユーザー定義コード(34/QT)には、プロジェクトの需要/供給に固有の次の数量タイプがあります。

数量タイプ	記述	未調整/調整済み
+BAPU	プロジェクト開始残数(未調整)	未調整
+POPU	プロジェクト購買オーダー	未調整
+WOPU	プロジェクト作業オーダー	未調整
-FWOPU	プロジェクト確定作業オーダー	未調整
+BAP	プロジェクト開始残数	調整済み
+IRP	プロジェクト入荷工程	調整済み
+POP	プロジェクト購買オーダー	調整済み
+WOP	プロジェクト作業オーダー	調整済み
-PWD	プロジェクト作業オーダーの需要	調整済み
-FWOP	プロジェクト確定作業オーダー	調整済み
-PWOP	プロジェクト計画作業オーダー	調整済み
-SOP	プロジェクト受注オーダー	調整済み

プロジェクトに固有の半組立品と構成品の計画メッセージには、プロジェクト番号および親の作業オーダー情報が含まれます。プロジェクト番号は、メッセージ集計(P3401)および MRP/MPS 詳細メッセージの検討(P3411)で、プロジェクトに固有の計画メッセージをフィルタする際に使用できます。計画メッセージから作成された作業オーダーおよび購買オーダーには、プロジェクト番号が含まれます。

ペギング・レコードを作成する際、PRP では MPS/MRP/DRP 需要テーブル(F3412)にプロジェクト番号が保存されます。これにより、プロジェクトからの所要量のソースを識別します。プロジェクトに対してペギングしたオーダーは、そのプロジェクトでのみ使用します。

MPS/MRP/DRP 集計テーブル(F3413)にはプロジェクト番号は含まれませんが、プロジェクトに固有の数量タイプが RPR により使用されます。これにより、プロジェクト固有の数量が計算および表示されます。

需要/供給照会(P4021)には、プロジェクトの需要/供給を表示するための追加のカラムがあります。PRP を表示するには処理オプションを設定してください。

計画およびスケジューリング

タスクとタスクの従属タスクを設定したら、〈EPM プロジェクト・ワークベンチ〉プログラム(P31P001)を使用して、WBS 上のタスクを逆算または前進することでスケジューリングできます。

前進スケジューリングにより、プロジェクト・マネージャはある開始日付からタスクをスケジュールすることができます。前進スケジューリングでは、期間と従属タスクに応じてタスクをスケジュールします。これにより、各タスクは最も早い開始日付にスタートします。各タスクが最も早い開始日付に始まるため、「プロジェクト・フロート(余裕日)」という状況が発生します。プロジェクト・フロートが発生すると、プロジェクト・マネージャがプロジェクトの条件に応じて、タスクの開始日付を決定する権限を持ちます。

逆算スケジューリングにより作業オーダーの推奨開始日付のメッセージを生成する所要量計画は通常、〈EPM プロジェクト・ワークベンチ〉プログラムの逆算スケジューリング機能により作成された日付と一致します。逆算スケジューリングでは、プロジェクト・マネージャがプロジェクトの完了日付を入力し、逆算して開始日付を決定します。

前進および逆算スケジューリングのどちらの場合も、〈EPM プロジェクト・ワークベンチ〉プログラムでは、各タスクに設定したタスク従属性を使用して正しい開始/終了日付を提示します。

プロジェクトのオーダーの作成

計画メッセージに対する回答で、プロジェクト固有の品目について補充オーダー(購買オーダーと作業オーダー)を生成できます。プロジェクトに固有の品目用に作成された半組立品の作業オーダーは、自動的に作業階層構造(WBS)に組み込まれます。既存の作業オーダーをプロジェクトのタスクに添付することもできます。

ビジネス・プロセスに応じて、特定の品目についてプロジェクトに固有の購買オーダーを部品リストから作成できます。〈購買オーダーの入力〉プログラム(P4310)で購買オーダーを作成してから、〈作業オーダー部品リスト〉プログラム(P31P201)で購買オーダーを必要とする品目を検索することもできます。

プロジェクトの作業オーダーの資材購入に加えて、作業オーダーによって消費はされないがプロジェクトの成果物の一部として顧客に直接再販する品目を調達できます。

プロジェクトの資材の購買

製造プロセスの一環として、最終品目の生産に使用する原材料を購入する必要があります。エンジニアリング・プロジェクト管理では、原材料の購買オーダーの作成方法をいくつか用意しています。計画メッセージから作業オーダーを生成する方法の他に、作業オーダーの部品リストから購買オーダーを手入力するか、または〈購買オーダーの入力〉プログラム(P4310)で直接入力することができます。

プロジェクトに固有の在庫品目の購買オーダーを入力すると、勘定残高テーブル(F0902)のコミットメント金額を更新することにより、購買オーダーに対して会計上のコミットメントが作成されます。同時に、購買オーダー入力時に製造の債務があれば、その債務は削除されます。プロジェクトについて作業原価インターフェイスのオプションをオンにしていれば、製造の債務のみが作成されます。最後に、購買オーダーの取引が購買明細履歴テーブル(F43199)に記録されます。

見積りが承認済みであれば、特定の作業オーダーについて〈プロジェクト・ワークベンチ〉フォームから〈作業オーダー部品リスト〉プログラム(P3111)を呼び出し、〈購買オーダーの入力〉プログラムにア

クセスすることができます。見積承認のプロセスを実行する前に、〈購買オーダーの入力〉プログラムで購買オーダーを直接入力し、〈作業オーダー部品リスト〉プログラム(P31P201)にアクセスして購買オーダーの品目を選択できます。

▶ **プロジェクトの資材の購買オーダーを入力するには**

〈購買オーダー処理〉メニュー(G43A11)から〈購買オーダーの入力〉を選択します。

1. 〈オーダー見出しの処理〉フォームで、[追加]をクリックします。
2. 〈オーダー見出し〉で、次のフィールドに値を入力します。
 - 仕入先
 - 事業所
 - オーダー日付
 - 要求日付
 - 納入約束日
3. [OK]をクリックします。
4. 〈オーダー明細〉で、グリッドにある次のフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。
 - 品目 No.
 - オーダー数量
 - 行タイプ
5. 作成したレコードを選び、[ロー]メニューから[部品リスト]を選択します。
6. 〈作業オーダー部品リストの処理〉で、次のフィールドに値を入力して[検索]をクリックします。
 - プロジェクト No.
 - オーダーNo.
 - オーダータイプ

注:

品目と事業所による検索も可能です。

7. 親品目の作業オーダーを含むレコードを選択し、[選択]をクリックします。
〈オーダー明細〉で、作業オーダーからのプロジェクト番号が購買明細行の[プロジェクト番号]フィールドに表示されます。
8. [OK]をクリックします。

▶ プロジェクト・ワークベンチからプロジェクトの資材の購買オーダーを入力するには

〈プロジェクト・ワークベンチ〉メニュー(G31P12)から〈EPM プロジェクト・ワークベンチ〉を選択します。

1. 〈プロジェクトの処理〉で、次のフィールドに値を入力して[検索]をクリックします。
 - プロジェクト No.
 - 事業所
2. プロジェクトを選んで[選択]をクリックします。
3. 〈プロジェクト・ワークベンチ〉で、作業オーダーを選択して[ロー]メニューから[製造部品リスト]を選びます。
4. 〈作業オーダー部品リスト〉で購買オーダーを作成する部品を選択し、[ロー]メニューから[購買オーダーの作成]を選びます。

注:

購買オーダーを作成する前に仕入先レコードが存在する必要があります。

5. 〈作業オーダー明細の処理〉で[追加]をクリックします。
6. 〈オーダー見出し〉で、次のフィールドに値を入力して[OK]をクリックします。
 - 事業所
 - オーダー日付
 - 要求日付
 - 納入約束日
7. 〈オーダー明細〉で次のフィールドに値を入力します。
 - 品目 No.
 - オーダー数量
 - 行タイプ
8. [OK]をクリックしてから、〈作業オーダー部品リスト〉フォームが表示されるまで[閉じる]をクリックします。

購買オーダー情報(オーダー番号、オーダー・タイプ、行番号)が品目の部品リストの行に表示されます。

再販するプロジェクト品目の購買

プロジェクトの成果物には自社で製造しない品目を含めることもできます。この場合、その他のソースから品目を購入してプロジェクトの顧客に再販することになります。購入する品目は、製造作業オーダーが消費する構成品ではありません。一般的に、これらは仕入先から顧客に直接出荷します。これらを別の事業所から購買して、プロジェクトの事業所に移動させることも可能です。その他の方法として、プロジェクトのその他の成果物と共に顧客に送るまで、これらの品目を購入してプロジェクトに固有の在庫として保管しておくこともできます。

〈EPM プロジェクト・ワークベンチ〉プログラム(P31P001)では、記述(または集計タスク)を使用してプロジェクトに固有の購買品目を作成およびトラッキングします。直送オーダーや転送オーダー、受注オーダー、返品オーダー、購買オーダーなどの関連オーダーをすべてトラッキングできます。

プロジェクトの記述タスクを関連オーダーに関連付けるために、オーダー情報が関連オーダー相互参照テーブル(F4080)に保存されます。このテーブルには、関連オーダーからの記述タスクのオーダー番号およびオーダー・タイプ、伝票タイプや合計原価、オーダー状況(参照のみ)などの明細情報が含まれます。

〈EPM 関連オーダー〉プログラム(P31P204)を使用して、プロジェクトの記述タスクの関連オーダーを作成およびトラッキングします。このプログラムには、EPM プロジェクト・ワークベンチ・プログラムから、またはメニューから選択してアクセスできます。

関連オーダーを作成するには、〈関連オーダーの処理〉フォームの見出しに、有効なプロジェクト番号、記述タスク・オーダー番号、オーダー・タイプが入力されている必要があります。直送や転送オーダー、受注オーダーの作成、返品オーダーの作成、購買オーダーの作成で使用するオーダー入力プログラムのバージョンにアクセスするには、フォーム・メニューを使用します。プロジェクト番号は、受注オーダーや購買オーダー・プログラムに渡されます。

関連オーダーを検討および改訂する際は、[ロー]メニューからオーダー入力プログラムを選択するとオーダーの情報にアクセスできます。〈関連オーダー処理〉フォームでは、特定の記述タスクに関連付けられたすべての関連オーダーはツリー構造で表示されます。直送や転送オーダーの場合、対応する受注オーダー取引のみがツリー構造に表示されます。個別に作成された受注オーダーまたは購買オーダーは個々に表示されます。このフォームのグリッドには、各関連オーダーのすべての行が表示されます。

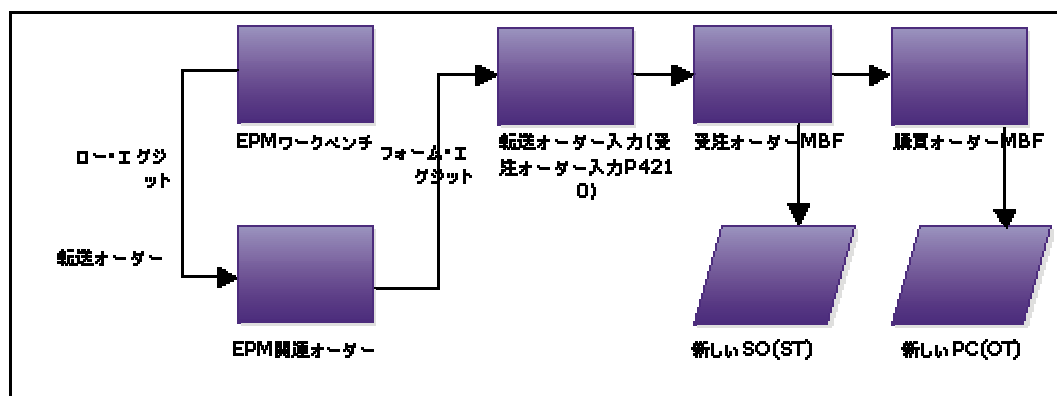
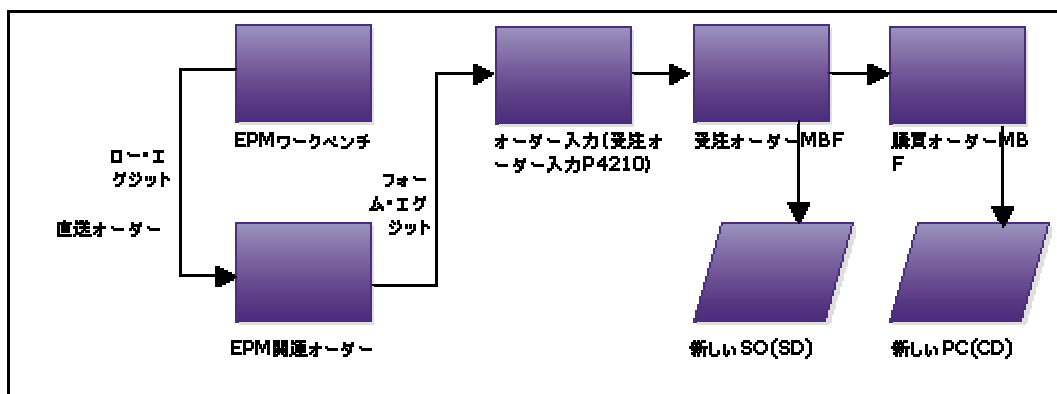
注:

再販する品目の購買オーダーを入力する際は、システムで需要の均衡を保つために、この品目の受注オーダーを入力する必要があります。こうしないと、計画システムは購買オーダーのキャンセルを要求するメッセージを生成します。

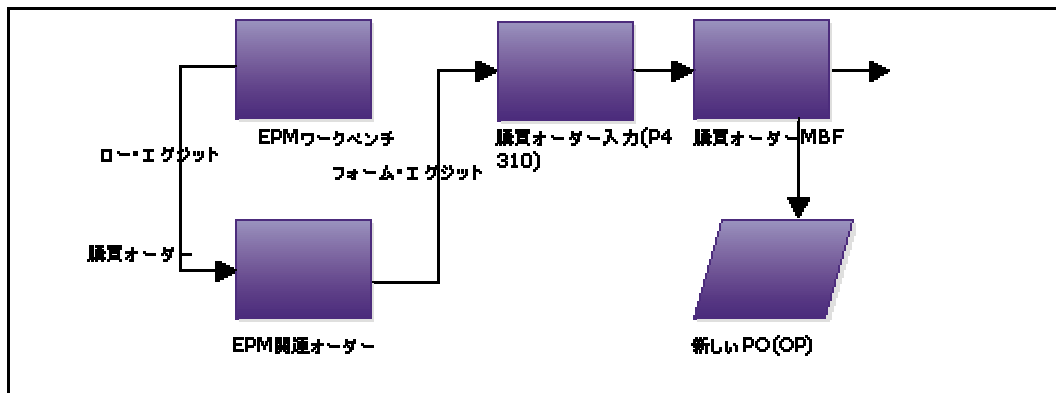
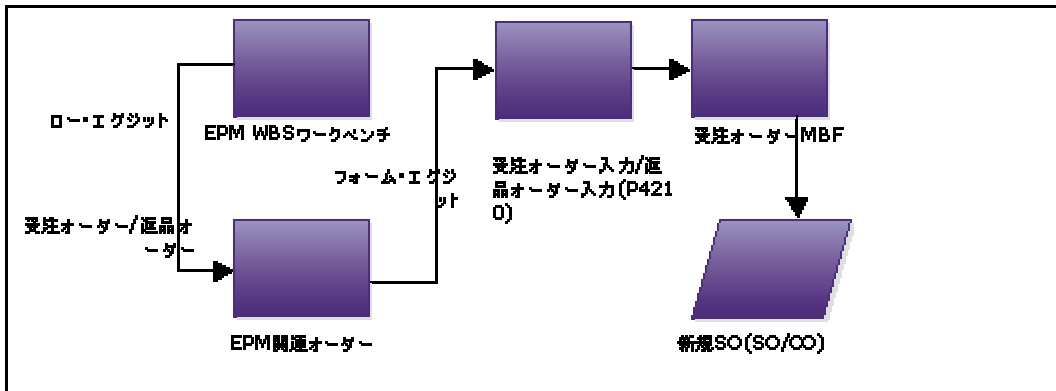
非在庫購買オーダーはプロジェクトの関連オーダーとしては入力できません。

次の図は、〈EPM 関連オーダー〉プログラムで作成されるさまざまなオーダー・タイプのサイクルを示します。

エンジニアリング・プロジェクト管理の関連オーダー



エンジニアリング・プロジェクト管理の関連オーダー



注:

関連オーダーが添付されている記述タスクは、すべての関連オーダーのオーダー活動状況が 999 (締切済み)でない限り、取り消したり締め切ることはできません。関連オーダー相互参照テーブル (F4080)は、受注明細(F4211)と購買明細(F4311)から作業オーダー状況を読み込みます。

▶ プロジェクトの関連オーダーを作成するには

〈プロジェクト・ワークベンチ〉メニュー(G31P12)から〈EPM プロジェクト・ワークベンチ〉を選択します。

1. 〈プロジェクトの処理〉で、次のフィールドに値を入力して[検索]をクリックします。

- プロジェクト No.
- 事業所

2. プロジェクトを選んで[選択]をクリックします。

3. 〈プロジェクト・ワークベンチ〉で、関連オーダーを作成する記述タスクを選び、[ロー]メニューから[その他] - [関連オーダー]を選択します。
4. 〈関連オーダーの処理〉で、作成するオーダーのタイプを[フォーム]メニューから選択します。
5. 選択したオーダー入力プログラムで、オーダー情報のフィールドに値を入力します。
6. [OK]をクリックしてオーダー情報を保存します。
7. [キャンセル]をクリックして〈関連オーダーの処理〉フォームに戻ります。
8. 〈関連オーダーの処理〉で、[検索]をクリックして追加したオーダーを表示します。
9. [キャンセル]をクリックして〈プロジェクト・ワークベンチ〉に戻ります。
10. [OK]をクリックします。

▶ プロジェクトの関連オーダーを改訂するには

〈プロジェクト・ワークベンチ〉メニュー(G31P12)から〈EPM プロジェクト・ワークベンチ〉を選択します。

1. 〈プロジェクトの処理〉で、次のフィールドに値を入力して[検索]をクリックします。
 - プロジェクト No.
 - 事業所
2. プロジェクトを選んで[選択]をクリックします。
3. 〈プロジェクト・ワークベンチ〉で、関連オーダーを改訂する記述タスクを選び、[ロー]メニューから[その他] - [関連オーダー]を選択します。
4. 〈関連オーダーの処理〉で、改訂するオーダー行を選択し、[ロー]メニューからオーダー入力プログラムを選びます。
5. 選択したオーダー入力プログラムで、オーダー情報のフィールドの値を改訂します。
6. [OK]をクリックしてオーダー情報を保存します。
7. [キャンセル]をクリックして〈関連オーダーの処理〉フォームに戻ります。
8. 〈関連オーダーの処理〉で、[検索]をクリックして変更したオーダーを表示します。
9. [キャンセル]をクリックして〈プロジェクト・ワークベンチ〉に戻ります。
10. [OK]をクリックします。

処理オプション: EPM 関連オーダー(P31P204)

バージョン・タブ

〈関連オーダーの処理〉フォームから呼び出したときに使用する、次のオーダー入力プログラムのバージョンを指定します。

1. 直送オーダー (P4210)

ブランク = ZJDE0005

関連オーダーの処理フォームで[ロー]メニューから[直送]を選択した場合に、使用する受注オーダー入力プログラム(P4210)のバージョンを指定します。ブランクの場合、ZJDE0005 が使用されます。バージョンによって、プログラムでの情報の表示形式を制御します。

2. 転送オーダー (P4210)

ブランク = ZJDE0007

関連オーダーの処理フォームで[ロー]メニューから[直送]を選択した場合に、使用する受注オーダー入力プログラム(P4210)のバージョンを指定します。ブランクの場合、ZJDE0007 が使用されます。バージョンによって、プログラムでのデータの表示形式を制御します。

3. 受注オーダー (P4210)

ブランク = ZJDE0001

関連オーダーの処理フォームで[ロー]メニューから[受注オーダー]を選択した場合に、使用する受注オーダー入力プログラム(P4210)のバージョンを指定します。ブランクの場合、ZJDE0001 が使用されます。バージョンによって、プログラムでの情報の表示形式を制御します。

4. 購買オーダー (P4310)

ブランク = ZJDE0030

関連オーダーの処理フォームで[ロー]メニューから[購買オーダー]を選択した場合に、使用する購買オーダー・プログラム(P4310)のバージョンを指定します。ブランクの場合、ZJDE0030 が使用されます。バージョンによって、プログラムでの情報の表示形式を制御します。

5. 返品オーダー (P4210)

ブランク = ZJDE0002

関連オーダーの処理フォームで[ロー]メニューから[返品オーダー]を選択した場合に、使用する

受注オーダー入力プログラム(P4210)のバージョンを指定します。ブランクの場合、ZJDE0002 が使用されます。バージョンによって、プログラムでの情報の表示形式を制御します。

累計した関連オーダーの費用の更新

〈プロジェクト・ワークベンチ〉メニュー(G31P12)から〈EPM 関連オーダー費用の更新〉を選択します。

このバッチ・プログラムを使用して、プロジェクトの関連オーダーの計画費用と実際費用を更新し、それらを作業オーダー・マスター・タグ・テーブル(F4801T)に記録できます。

このレポートには EPM プロジェクト属性テーブル(F31P01)からのプロジェクト情報と、タスク情報、WBS にアップロードする計画費用と実際費用が含まれます。記述タスクの計画費用と実際費用が累計されていれば、タスクと費用の情報のみを印刷します。

特定の記述タスクの計画費用と実際費用を累計するには、〈関連オーダーの処理〉フォームで[フォーム]メニューから[原価の累計]オプションを使用します。関連オーダー相互参照テーブル(F4080)を使用して、次のテーブルおよび計算によりオーダーの費用(原価)が選択されます。

	テーブル	フィールド
計画費用	購買明細(F4311)	購買明細行の合計金額(AEXP)
実績費用	入荷確認(F43121)	突合せタイプ 2(伝票突合せ後)の購買明細行の累計支払金額(APTD)

計算された計画費用および実績費用は、購買品目の資材費として作業オーダー・マスター・タグ・テーブルに保存されます。

既存の作業オーダーのプロジェクトへの添付

エンジニアリング・プロジェクト管理システムでは、既存の作業オーダーをプロジェクトに添付できます。既存の作業オーダーは、〈EPM プロジェクト・ワークベンチ〉プログラム(P31P001)の〈プロジェクト・ワークベンチ〉フォームから検索できます。プロジェクトに添付する作業オーダーは、次の条件を満たしている必要があります。

- 別のプロジェクトに含まれない。
- 作業オーダー部品リストの品目について出庫が実行されていない。
- 作業オーダーに作業時間や作業量が報告されていない。
- 作業オーダーがコンフィギュレーション作業オーダーの場合、最上位の作業オーダーである。作業オーダーの子もすべて添付されます。

▶ 既存の作業オーダーをプロジェクトに添付するには

〈プロジェクト・ワークベンチ〉メニュー(G31P12)から〈EPM プロジェクト・ワークベンチ〉を選択します。

1. 〈プロジェクトの処理〉で、次のフィールドに値を入力して[検索]をクリックします。

- プロジェクト No.
- 事業所

2. プロジェクトを選んで[選択]をクリックします。
3. 〈プロジェクト・ワークベンチ〉で、既存の作業オーダーを添付する親タスクを選択し、親タスクの下にある最初の空白のレコードをクリックします。
4. [ロー]メニューから[作業オーダー] - [作業オーダーの添付]を選択します。
5. 〈作業オーダーの検索〉で、次のフィールドに値を入力してプロジェクトに添付する作業オーダーを検索します。
 - オーダーNo.
6. 作業オーダーを選んで[選択]をクリックします。
選択した作業オーダーが〈プロジェクト・ワークベンチ〉フォームのグリッドに表示されます。
7. 作業オーダーを WBS に保存するには[OK]をクリックします。

参照

- コンフィギュレーション作業オーダーの添付については、『Base Configurator (コンフィギュレータ)』の「Working with Orders for Configured Items in Engineering Project Management (エンジニアリング・プロジェクト管理でのコンフィギュレーション品目のオーダーの処理)」

プロジェクトのコミットメント

コミットメントが以前に作成されていない場合、プランニング・フェーズでは、プロセスを実行して作業オーダーや購買オーダーについて在庫管理や会計のコミットメントを実行します。エンジニアリング・プロジェクト管理システムでは、顧客が見積りを承認するまでコミットメントの作成を遅らせることができます。プロジェクト属性の[コミットメントのタイミング]オプションをオンにすれば、在庫管理や会計のコミットメントを作成せずに、〈オーダー処理〉プログラム(R31410)を実行して見積費用を入手できます。見積承認プロセスの前にコミットメントをバイパスすると、見積承認プロセスの一環としてオーダー処理プログラムを自動的に実行するときにコミットメントが作成されます。

在庫管理コミットメントの作成

〈オーダー処理〉プログラム(R31410)を実行すると、処理する作業オーダーに部品リストが添付され、〈製造固定情報〉プログラム(P3009)のコミット制御の設定に従って、部品リストの部品に対して在庫がコミットされます。特定のプログラム用に構成品やその他資材を予約するには、特殊取扱コードをPにしてプロジェクト固有の在庫タイプを割り当てれば、品目をプロジェクト固有の資材として設定できます。品目がプロジェクトと関連付けられている場合、プロジェクトのハードコミットがクリアされていなければ、プロジェクトに含まれない作業オーダーにはこの資材を出庫できません。

見積承認プロセスを実行する際に WBS の作業オーダーに対してオーダー処理が実行されると、事業所品目(F4102)のレコードで指定したコミットメント方式に基づいて、すべての構成品数量がハードコミットされます。プログラムは WBS の全作業オーダーを降順に処理して、プロジェクト・コミットメント明細テーブル(F410211)にプロジェクト固有のコミットメントを作成します。

購買オーダーのプロジェクト固有品目については、〈入荷確認〉プログラム(P4312)を使用して購入品を入荷する際に、特定の保管場所およびロットにハードコミットが作成されます。資材を出庫すると在庫のコミットメントはリリースされます。処理オプションを設定して、行タイプ固定情報の[資材出庫の呼出し]オプションをオンにした品目について、〈在庫出庫〉プログラム(P4112)を自動的に呼び出すことができます。

注:

入荷の戻しを行うと、ほとんどのテーブルは自動的に更新されますが、作業オーダー部品リスト・テーブル(F3111)は手作業により更新してください。戻しを行う場合、警告が表示されます。これは、製造作業オーダーの在庫構成品に対して作成されたハードコミットが、戻し処理によってキャンセルされないためです。

〈プロジェクトのコミットメント明細照会〉プログラム(P410211)を使用すれば、プロジェクト固有の在庫コミットメントを検討できます。このプログラムは、保管場所とロット、シリアル番号の他に、プロジェクトの作業オーダーにハードコミットされた構成品数量を基本計量単位で表示します。プロジェクトにコミットされた在庫の合計数量は、保管場所品目テーブル(F41021)の[プロジェクトにハードコミットされた数量]カラムに集計されます。この情報は、〈在庫状況〉プログラム(P41202)で検討できます。

参照

- コミットメントの処理については『製造現場管理』ガイドの「コミットメント」

▶ プロジェクトの作業オーダーの在庫コミットメントを検討するには

〈在庫照会〉メニュー(G41112)から〈プロジェクトのコミットメント明細照会〉を選択します。

1. 〈プロジェクト・コミットメント明細の処理〉で、次のフィールドに値を入力して[検索]をクリックします。
 - プロジェクト No.
2. 次のフィールドの値を検討してプロジェクトのコミットメントを検証します。
 - 事業所
 - 作業オーダーNo.
 - 品目 No.
 - 保管場所
 - ロット/シリアル No.
 - プロジェクトハード・コミット数量

フィールド記述

記述	用語解説
プロジェクト No.	システムにある EPM プロジェクトを識別する番号。プロジェクトがプロジェクトの追加/改訂プログラム(P31P011)で設定されている必要があります。
事業所	会社の中で費用をトラッキングする単位を表す英数字のコード。組織の部署や課などの部門の他にも、倉庫、作業、プロジェクト、作業場、事業所、工場などをビジネスユニットとして設定できます。
作業オーダーNo.	購買オーダー、請求書、受注オーダーなどの伝票を識別する番号
品目 No.	システムが品目に割り当てる番号。通常の品目番号のほか、略式品目番号、第 3 品目番号などのフォーマットがあります。

保管場所	品目を入庫する倉庫内の区域。保管場所フォーマットは事業所別にユーザーが定義します。
ロット/シリアル No.	ロットまたはシリアル番号を識別する番号。ロットは、類似の特性をもつ品目グループです。
プロジェクトハード・コミット数量	プロジェクト用に特定の保管場所およびロットに引き当てられた数量。

会計のコミットメントの作成

作業原価システムを使用している場合、プロジェクト・タスクに会計のコミットメントを作成できます。会計のコミットメントとは、将来の支払義務を認識することです。会計のコミットメントを作成すると、次の処理が実行できます。

- 予算と残りの金額を検討する。計画上の最終費用と実績累計を比較することにより、完了率を計算できます。実績費用の差異および期間による収益差異が発生するのを防げるため、完了率は利益認識につながります。
- 最終のプロジェクト費用を計算する。
- 変更オーダーの実行を容易にする。
- プロジェクトがキャンセルされた場合に、コミットした在庫に関連付けられた損失を差し引く際の基準となる情報を提供する。

購買の債務を作成するだけでなく、製造作業オーダーの在庫構成成品に会計上のコミットメントを作成することもできます。会計のコミットメントは、資材がハードコミットされたときに発生します。作業オーダーに関連付けられた労務費にはコミットメントは作成しません。

注:

製造作業オーダーに会計のコミットメントを実行するには、次の情報を設定する必要があります。

- EPM プロジェクト会計の UDC テーブル(31P/AI)に、プロジェクトで使用する AAI 3120(仕掛品)を作成してください。
- コミットメント伝票タイプの UDC(40/CT)に製造作業オーダーを含める必要があります。

対話形式で、または〈オーダー処理〉プログラム(R31410)を実行して作業オーダーに部品リストと作業工程を添付すると、コミットした在庫の合計金額を計算することにより、作業オーダーに対して会計のコミットメントが作成されます。勘定残高テーブル(F0902)の関連レコードの PA/PU 元帳金額が更新され、購買明細履歴テーブル(F43199)に取引が入力されます。また、作業オーダー・マスター・タグ・テーブル(F4801T)に、当初および残りのコミット済み金額が記録されます。

注:

半組立品について会計のコミットメントが重複しないようにするために、半組立品の作業オーダーに部品リストを添付すると、親作業オーダーからコミットした金額が差し引かれます。親作業オーダーに構成成品を添付すると、システムはその構成成品に半組立品の作業オーダーが存在するかどうかチェックします。この場合、会計のコミットメントの合計金額の計算にはそれらの費用も含まれます。

製造作業オーダーの在庫構成品に対する会計コミットメントは、作業オーダー在庫完了を実行するとリリースされます。プロジェクト関連の作業オーダーに対する出庫取引が転記されると、会計のコミットメントは解除されます。次に作業オーダー・マスター・タグ・テーブル、勘定残高テーブル、購買明細履歴テーブルのコミット済み金額が更新されます。続いて、元帳タイプ AA の実績金額が転記されます。

〈コミットメント整合性レポート〉プログラム(R40910)を実行して、未決済オーダー金額がコミット済み金額および勘定残高テーブルの金額と一致するかどうか判断します。金額が一致しなければ、それらを除去してから〈EPM コミットメント再作成〉プログラム(R31P993)を実行して監査証跡を作成できます。

必要な場合には、〈作業へのコミット済み原価の転記〉プログラム(R00932)を実行して、購買明細履歴の製造関連レコードの値など PA 元帳のコミットメントを勘定残高テーブルに再転記できます。

製造作業オーダーの構成品の購買オーダーを作成すると、その作業オーダーの会計コミットメントはリリースされます。この時点から会計のコミットメントは、調達管理システムで作成および管理されます。

〈総勘定元帳への転記〉プログラム(R09801)を実行して資材取引を元帳に転記すると、関連の会計コミットメントはリリースされます。取引明細(F0911)の[補助元帳]フィールドの作業オーダー番号がプロジェクト作業オーダーを示す場合、その作業オーダーの会計コミットメントはリリースされます。会計コミットメントがリリースされると、次のテーブルが更新されます。

- 作業オーダー・マスター・タグ・テーブル
- 勘定残高テーブル
- 購買明細履歴テーブル

会計期間の末に残っている会計コミットメントを繰り越す場合、〈債務繰越〉プログラム(R4317)を使用して前年の購買オーダーおよび作業オーダーのコミット済み行をリリースし、現行年度の元帳日付で再度コミットすることができます。製造作業オーダーの会計コミットメントを含めるには、処理オプションを設定する必要があります。

会計コミットメントの監査証跡の再作成

〈定期処理〉メニュー(G31P20)から〈EPM コミットメント再作成〉を選択します。

会計コミットメントを手作業で除去している場合、〈EPM コミットメント再作成〉プログラム(R31P993)を使用して、製造作業オーダーや購買オーダーに関連するプロジェクトの会計コミットメントの監査証跡を再作成できます。このプログラムは、作業オーダー・マスター(F4801)、作業オーダー部品リスト(F3111)、購買明細(F4311)からの情報を基準にします。

このプログラムでは、アクティブなプロジェクトの未処理の購買オーダーおよび作業オーダーがすべて処理されます。このプログラムは、各オーダーの部品リストにコミットされた金額の合計レコードを購買明細履歴(F43199)に作成します。次に〈コミットメント監査証跡の作成〉プログラム(R00993)を呼び出して、特定のプロジェクトまたは勘定科目に関連する購買オーダーの各行のレコードを購買明細履歴テーブルに作成します。

処理オプション：EPM コミットメント再作成(R31P993)

処理タブ

これらの処理オプションで、レポートに含めるレコードを制御します。

1. 作業オーダーの締切状況

締め切った作業オーダーの状況コードを指定します。指定した締切り状況コードよりも値が小さい作業オーダーのみが処理されます。空白にした場合、締め切った作業オーダーの状況にはデフォルトとして 99 が使用されます。

2. 購買オーダー/外注契約の組み込み

空白 = 購買オーダー/外注契約を含めない

1 = プロジェクトに関連する購買オーダー/外注契約のみを含める

2 = 勘定科目に関連する購買オーダー/外注契約のみを含める

3 = すべての購買オーダー/外注契約を含める

プロジェクトに関連する購買オーダーおよび外注契約について購買明細履歴テーブル(F43199)にレコードを作成する際、コミットメント監査証跡の作成プログラム(R00993)を実行するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

空白

プログラムを実行しない

1

プログラムを実行する

プロジェクトの実行および統制

予算を凍結したら、プロジェクトの実行および統制フェーズを開始します。実行ステージでは、製造現場の作業オーダーを完了して、プロジェクトの最終品目の生産で発生した実績資材、労務、機械稼働費の情報を集めます。プロジェクト会計は、プロジェクトが作業原価システムとインターフェイスするかどうかによって変わります。

また、プロジェクトの実績費用を計算した仕掛在庫を再評価できます。〈実際原価のワークベンチへの積上げ〉プログラム(R31P301)を使用して、プロジェクトに設定した原価分類体型に基づき、報告済みの実際費用をワークベンチの対応する原価バケットに積み上げることができます。費用の積上げによって、〈EPM プロジェクト・ワークベンチ〉プログラム(P31P001)の費用情報が最新となり、予実差異をトラッキングできます。

構成品または再販品目として購入した品目を入荷して、それらの支払を処理します。プロジェクトについて作業原価システムと共にサービスおよび契約を使用している場合、サービス請求および契約請求システムとのインテグレーション機能を利用できます。

また、エンジニアリング・プロジェクト管理システムでは、プロジェクト・スケジュール・レポート(R31P400)やプロジェクト費用レポート(R31P401)など、プロジェクト管理に使用できる多くのレポートを作成できます。エンジニアリング・プロジェクト管理と作業原価の両システムを併用する場合、作業原価のレポートを使用して予算情報をトラッキングし、収益性を分析することもできます。

プロジェクト作業オーダーの出庫および完了

〈作業オーダー在庫出庫〉プログラム(P31113)を使用してプロジェクトに固有な作業オーダーの構成品を出庫すると、システムは在庫状況をチェックしてこの構成品が他のプロジェクトにより予約済みでないことを確認します。在庫が別のプロジェクトのものである場合、その資材は出庫できません。使用できる在庫のある他の保管場所を指定する必要があります。

当初割り当てたよりも多くの資材がプロジェクトに必要な場合、他のプロジェクトに割当済みでなければ、在庫を持つ保管場所から資材を出庫できます。特定の品目の需要合計が満たされると、関連レコードがプロジェクト・コミットメント明細テーブル(F410211)から消去されます。

プロジェクト固有の在庫を移動する場合、〈プロジェクト・コミットメント明細ウィンドウ〉プログラム(P410211W)が呼び出されるので、移動するプロジェクト番号と数量を選択してください。プロジェクトにハードコミットした数量は、同じビジネスユニットの保管場所間でのみ移動できます。ビジネスユニット間の移動はできません。

プロジェクトの作業オーダーの半組立品を完了すると、〈作業オーダー在庫完了〉プログラム(P31114)で指定した保管場所とロット/シリアル番号により、親作業オーダーの部品リストが更新されます。この更新により、親作業オーダーと作業オーダーが所属するプロジェクトに在庫が直接関連付けられます。

半組立品の作業オーダーが部分的に完了すると、親作業オーダーの部品リスト行が分割されます。当初の構成品行は残数を示し、完了情報を含む新しい行が挿入されます。

完了超過の場合、関連の部品リスト行が完了保管場所およびロット/シリアル番号により更新されます。ただし、関連のプロジェクト・コミットメント・レコードは、当初の構成品数量のみを示します。

完了せずにプロジェクトの作業オーダーを締め切ると、プロジェクト固有の構成品数量はコミットされたままになります。転記を実行すれば、この不一致を解決できます。〈未処理作業オーダーの再転記〉プログラム(R3190)を実行すると、未処理の製造作業オーダーの数量を、保管場所品目テーブル(F41021)とプロジェクト・コミットメント明細テーブル(F410211)にある、プロジェクト固有のコミットメント数量と同期させることができます。

参照

- 『製造現場管理』ガイドの次のトピックを参照してください。
 - 在庫の出庫については「出庫、資材の移動、かんばん」
 - 作業オーダーの完了とレート・スケジュールについては「完了」
 - 実労務費と実機械稼働費の入手については「作業時間と作業量」

正味変更

処理オプションを設定して、正味変更処理(オーダー数量、計量単位、作業オーダーの日付に変更があった場合に、製造作業オーダーの部品リスト/作業工程を更新する)を実行するかどうかを指定できます。〈正味変更処理〉プログラム(R31430)を呼び出して正味変更が処理されます。この処理オプションを設定した場合、〈プロジェクト・ワークベンチ〉フォームで[OK]をクリックすると正味変更処理が実行されます。

注:

サービス・オーダー、設備オーダー、コンフィギュレーション作業オーダーについては正味変更処理は実行されません。製造作業オーダーの構成部品のいずれかが「倉庫にあり」の状況の場合、正味変更処理は実行できません。

〈プロジェクト・ワークベンチ〉フォームで製造作業オーダーの数量や計量単位、日付を変更する場合、変更した作業オーダー・レコードは正味変更取引テーブル(F3115)に保存されます。部品リストや作業工程が製造作業オーダーに添付してある場合、システムは正味変更プログラムを呼び出して部品リストと作業工程を更新します。

正味変更処理には次のステップがあります。

- 単位あたり数量を使用して部品リストの構成品数量を再計算する。
- 在庫コミットメントを処理する。
- 単位あたり時間数を使用して各工程作業の労務費および機械稼働費を再計算する。
- 正味変更係数を使用して標準および最新の製造原価を再計算する。
- 見積費用を読み込んでから分類して積み上げる。
- 作業原価システムとインターフェイスするプロジェクトの作業オーダーについて会計のコミットメントを調整する。
- 出庫や時間入力取引などのアクティビティが作業オーダーに対して記録された場合に、警告を表示する。

はじめる前に

- オーダー入力/変更(P48013)およびレート・スケジュールの入力/変更(P3109)の処理オプションが、変更になった作業オーダーの部品リストと作業工程を再計算および更新するように設定されていることを確認してください。

プロジェクトの会計に関する考慮事項

特定のプロジェクトの財務分析や収益性を判断するには、次のタスクを行う必要があります。

- プロジェクト会計と一般会計を区別する
- EPM プロジェクトを原価、収益面で独立して管理する
- プロジェクト固有の勘定科目から一般勘定科目に勘定科目情報をスムーズに移行する
- 受注管理システムなどの他のシステムとプロジェクト固有勘定科目を統合する
- 作業原価システムを使用していない場合、プロジェクト専用のビジネスユニットを作成することも、デフォルトのビジネスユニットとしてプログラムの事業所を使用することもできます。プロジェクト用にビジネスユニットを作成した場合、レポートされる原価はそのプロジェクト全体としてのみ参照できます。勘定科目コードに基づいて、実際原価はタスク別にレポートされますが、タスク明細レベルでは表示されません。
- デフォルトのビジネスユニットとして事業所を使用した場合、作成したすべてのトランザクションの仕訳はプロジェクト固有ではありません。〈EPM プロジェクト・ワークベンチ〉プログラム(P31P001)で費用をレポートし、費用がプロジェクト固有のものであっても、プロジェクト固有の勘定科目構造ではプロジェクト原価は財務分析用に認識されません。
- 作業原価システムを使用しないプロジェクト固有の会計処理について、〈プロジェクトの追加/改訂〉フォームの[作業原価]タブにプロジェクトの元帳クラス・コードを定義できます。AAI は、この元帳クラス・コードを使用して特定のプロジェクトに使用される勘定科目を決定します。
- プロジェクトの[作業原価システムへのインターフェイス]オプションを有効にする場合、プロジェクトのビジネスユニットとして作業ビジネスユニットと関連する勘定科目表を使用します。この勘定科目構造はプロジェクト固有です。プロジェクト固有の半組立品や購入品などの部材の出庫の際、プロジェクト固有の仕掛勘定の借方と、プロジェクト固有の在庫勘定の貸方に項目を作成します。半組立品の場合、原価タイプ A1 または A2 にすべての原価をまとめてしまうのではなく、原価タイプ別に仕訳が作成されます。製造作業オーダーを完了する際、プロジェクト固有の仕掛勘定や在庫勘定も使用できます。
- 受注管理システムが在庫品目の販売が可能かどうか判断する際、一般の在庫勘定がまず検討されます。受注管理システムがプロジェクトで生産された在庫にアクセスできるようにするには、仕訳のコピーを作成して仕掛品勘定の貸方(AAI 3140)と一般在庫勘定の借方にそれぞれ項目を作成します。

注:

EPM プロジェクト会計 UDC テーブル(31P/AI)で、プロジェクト会計に対して仕掛品勘定 AAI(3140)をアクティブにする必要があります。

参照

- 仕訳作成と差異会計については『製造原価計算および製造会計』ガイドの「仕訳の作成」

仕掛品の再評価

〈製造原価計算〉メニュー(G3014)から〈仕掛品再評価〉を選択します。

標準原価計算方式または実際原価計算方式のどちらを使用しても、資材や労務の費用に変更が入った場合はいつでも仕掛品を再評価できるようにする必要があります。品目の費用が変更になる場合は、この品目の[原価変更済フラグ]フィールド(CCFL)は品目原価テーブル(F4105)において1に設定されます。こうした変更は、環境の変化に対応し、現実的な価格設定を維持していくための会社の方針として行われる場合があります。

〈仕掛品再評価〉プログラム(R30837)は、組立作業オーダー、プロセス製造作業オーダー、コンフィギュレーション作業オーダーで標準原価品目に対して実行できます。実際原価計算では、〈仕掛品の再評価〉プログラムは、組立作業オーダーの材料費の変更に対してのみ実行できます。

仕掛品再評価の目的は、製造原価テーブル(F3102)のすべての手配済み作業オーダーの製造原価を再評価することにあります。最新の品目原価に基づく標準原価、最新原価、計画原価、実際完了原価、仕損原価などが含まれます。レポートは、当初の仕掛品と最新の仕掛品の価値の差異を表示します。処理オプションを設定して、取引明細テーブル(F0911)に新旧仕掛品の価値の差異を示す仕訳を作成できます。取引明細テーブルの[補助元帳]フィールドにデフォルトの作業オーダー番号を適用することもできます。〈仕掛品再評価〉プログラムは、手持在庫の再評価はせず、終了した作業オーダーに対しては実行できません。終了した作業オーダーは、作業オーダー・マスター(F4801)で[差異フラグ]フィールド(PPFG)を示す値3によって識別されます。

標準原価計算を使用して自動仕掛品再評価を実行する場合、仕掛品在庫は常に構成品や労務費に対する更新を反映しており、作業オーダー・ライフサイクルの途中の費用変更で生成された人為的な差異が取り除かれます。これにより仕掛品再評価のための手作業による仕訳作成も不要になります。

実際原価計算では、仕掛品再評価により、実際原価の半組立品目がすでに親品目に出庫された後で、半組立品作業オーダー費用が報告されます。仕掛品再評価なしでは、半組立品作業オーダーの本当の原価は親作業オーダーに反映されません。

仕掛品を再評価する〈仕掛品再評価〉プログラムには、3つの方法でアクセスできます。標準原価計算では、処理オプションを設定して、プログラム・バージョンを指定することで〈凍結原価の更新〉プログラム(R30835)から〈仕掛品再評価〉プログラムを呼び出すことができます。この場合、〈凍結原価の更新〉プログラムを通して処理されたすべての品目に対して〈仕掛品再評価〉が実行されます。品目に費用変更のフラグが立った場合、この品目を含む手配済み作業オーダーは、すべて親品目の出庫先の作業オーダーに沿って再評価されます。このロジックは、最上位レベルの親品目まで当てはまります。製造原価テーブル(F3102)の原価タイプは、すべてデータ選択に含まれます。

実際原価計算では、適切な処理オプションを設定し、プログラム・バージョンを指定することで、〈在庫完了〉プログラム(P31114)または〈差異〉プログラム(R31804)のいずれからでも〈仕掛品再評価〉プログラムを呼び出すことができます。〈仕掛品再評価〉を実行することで、半組立品目の最新の製造原価に基づく親品目の製造原価が更新されます。〈在庫完了〉プログラムから〈仕掛品再評価〉プログラムを呼び出す場合、親品目の作業オーダー同様、完了品目の作業オーダーが再評価されます。製造原価テーブルの資材原価タイプのみがデータ選択に含まれます。

注:

実際原価の品目が原価レベル 3(品目、事業所、保管場所、ロット)として定義されている場合、この品目の原価は、原価の正確な算出、再評価のためにロットまたは保管場所レベルでトラッキングしなければなりません。作業オーダーを完了し、ロットまたは保管場所から出庫すると、完了時点のロットまたは保管場所に対して計算された品目の単価と品目の出庫先オーダーを関連付けることができます。

〈仕掛品再評価〉プログラムが〈差異〉プログラムから実行されると、親品目同様、品目原価テーブルで費用変更のフラグが立っている品目のあるすべての手配済み作業オーダーが再評価されます。仕掛品が再評価される際、費用変更フラグはクリアされます。製造原価テーブルの原価タイプは、すべてデータ選択に含まれます。

メニューから独立型バッチ・プログラムとしてこのプログラムを呼び出すこともできます。この呼出方法では、既存の処理を変更することなく〈仕掛品再評価〉を実行できます。他のプログラムの呼出しで再評価プロセスが異常終了した場合、〈仕掛品再評価〉を再実行することもできます。実際原価/標準原価品目についてこのプログラムを実行できます。製造原価テーブルの原価タイプは、すべてデータ選択に含まれます。

処理オプションを設定して、テスト/最終のいずれのモードでも〈仕掛品再評価〉プログラムを実行できます。ただし、他のプログラムから〈仕掛品再評価〉を呼び出す場合、呼出側のプログラムのモードによってこの設定が一時変更されます。

処理オプション: 〈仕掛品再評価〉 プログラム (R30837)

デフォルト・タブ

これらの処理オプションは、システムが使用する伝票タイプや原価を更新するかなどの、〈仕掛品再評価〉プログラム実行のためのデフォルト設定を制御します。

1. 伝票タイプ

blank = IB

見積りの伝票タイプ(ユーザー定義コード 00/DT)を指定します。この処理オプションをblankにすると、IB(品目の原価変更)が使われます。

2. 元帳取引

blank = 元帳取引を書き込まない

1 = 元帳取引の明細を書き込む

2 = 元帳取引の集計を書き込む

原価を変更するかどうかを指定します。この処理オプションをblankにすると、例外レポートおよびエラー・メッセージが作成されますが原価は更新されません。有効な値は次のとおりです。

ブランク

原価を更新しない

1

原価を更新する

3. 補助元帳フィールドのデフォルト値

ブランク = 補助元帳フィールドに製造伝票番号をデフォルト入力しない

1 = 補助元帳フィールドに製造伝票番号をデフォルト入力する

製造用の書類番号をデフォルトの補助元帳番号として使用するかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク

製造用の書類番号をデフォルトの補助元帳番号として使用する

1

製造用の書類番号をデフォルトの補助元帳番号として使用しない

4. テスト/最終モード

ブランク = テスト・モード

1 = 最終モード

仕掛品再評価プログラム(R30837)を最終モードとテスト・モードのどちらで実行するかを指定します。テスト・モードでは、すべての計算が実行されて結果がレポートに表示されます。最終モードでは、作業オーダー差異テーブル(F3102)が更新され、仕掛品の原価の変更に対して仕訳が取引明細(F0911)に作成されます。

注：仕掛品再評価プログラムを別のプログラムから実行すると、元のプログラムの実行モード（テストまたは最終）がこの処理オプションを一時変更します。

実際原価の EPM ワークベンチへの積上げ

〈原価分類〉メニュー(G31P31)から〈実際原価のワークベンチへの積上げ〉を選択します。

プログラム管理者は原価をプロジェクト・ワークベンチへ積み上げて、どの時点でもプロジェクトの個々のタスクについて報告された実際原価を検討できます。たとえば、ある製造タスクについて資材の出庫、労働、完了が報告され、こうしたアクティビティの実際原価が集計されます。また、実際原価の積上げにより、プロジェクト管理者は見積原価と実際原価を比較して差異がある場合にその差異を分析できます。

〈実際原価のワークベンチへの積上げ〉プログラム(R31P301)を使用して、製造プロセスの過程で作業オーダーについて収集する実際原価情報を〈EPM プロジェクト・ワークベンチ〉プログラム(P31P001)の次の原価フィールドに積み上げます。

- 実際資材費
- 実際労務費
- その他実費(その他費用)

どの詳細レベルからでも次の上位詳細レベルへ積上げできて、最終的にはプロジェクトの親レベルまで積上げが可能です。

プロジェクトは製造タスク、非製造タスクの2つのタスク・タイプから成り立っているので、2つの異なるソースから原価を集計する必要があります。製造タスクに関連した原価は、製造会計を通してトラッキングされます。原価は、製造原価テーブル(F3102)に保存されます。ただし、製造会計は非製造タスクには適用されません。非製造タスクに関連する原価は、取引明細テーブル(F0911)に保存されます。

注:

非製造タスクは、製造バッチ・タイプとは異なるバッチ・タイプで取引明細に転記されます。ただし、この原価をトラッキングするには、原価が発生したタスクまたは作業オーダー番号を[補助元帳]フィールドに入力する必要があります。

原価タイプの原価分類と〈原価分類〉プログラム(P31P301)で設定された勘定科目の原価分類に基づいてプロジェクトのすべてのタスクが評価され、タスク・タイプに応じて製造原価または取引明細から費用が取り込まれます。そして原価を積み上げるために選択した詳細レベルで[実際原価]フィールドに原価が表示されます。原価フィールドの情報は、作業オーダー・マスター・タグ・テーブル(F4801T)に保存されます。

はじめる前に

- 原価タイプと勘定科目を〈EPM プロジェクト・ワークベンチ〉プログラム(P31P001)の原価バケットにマッピングする原価分類テーブルを設定します。

プロジェクトのレポートとアラート

エンジニアリング・プロジェクト管理には、プロジェクトの実行/制御フェーズ中にプロジェクト情報を管理できるバッチ・プログラムとレポートが数多く用意されています。バッチ・プログラムとレポートによって、状況/例外情報が提供されます。〈EPM プロジェクト・ワークベンチ〉プログラムの〈プロジェクト・ワークベンチ〉フォームでアラート対象として設定されているタスクについては、各タスクの担当者にアラートが送られます。各タスクは、管理者、監督者、タスク担当者の3人を設定できます。各レポートは、各タスクの関係者のどの組み合わせにもアラートを送信するよう設定できます。

エンジニアリング・プロジェクト管理システムは、次のバッチ・プログラムを提供します。

- プロジェクト・スケジュール・レポート(R31P400)
- プロジェクト原価レポート(R31P401)
- プロジェクト在庫レポート(R31P402)

作業原価システムを使用している場合、次のような作業原価レポートも利用できます。

- マスター作業原価レポート(R51412)。このレポートは、予算データ、実際原価、プロジェクトの最終原価などの情報を提供します。
- 作業別詳細(R51420)。このレポートは、購買オーダー番号、仕入先名、補助元帳情報など、作業情報の詳しい内容を提供します。

作業原価システムはまた、〈予算改訂の詳細〉プログラム(R51540)または〈補助元帳別作業詳細〉プログラム(R51530)などの他のバッチ・プログラムも提供します。

一般会計システムには〈試算表〉レポート(R09410)があり、これを使用してビジネスユニット(この場合はプロジェクト・ビジネスユニット)内の勘定残高を確認できます。

参照

- 作業原価レポートについては、『作業原価』ガイドの「作業原価レポート」
- 〈試算表〉レポートについては、『一般会計』ガイドの「試算表レポートの印刷」

プロジェクト・スケジュール・レポート

〈プロジェクト・レポート〉メニュー(G31P14)から〈プロジェクト・スケジュール・レポート〉を選択します。

〈プロジェクト・スケジュール・レポート〉プログラム(R31P400)を使用して、計画の開始/終了日、実際の開始/終了日を印刷します。作業オーダー・マスター(F4801)を基に、1件または複数のプロジェクトのタスク情報を印刷できます。

タスクに購買オーダーまたは外注契約が添付されている場合、これらのオーダーの情報もレポートに含まれます。たとえば、約束納期と受領日、オーダー数量と受領数量を含むことができます。

さらに、作業オーダー・マスターの[実際の開始日付]フィールドがブランクの場合、〈在庫出庫〉プログラム(P31113)と〈作業時間および作業量〉プログラム(P311221)からの情報で作業オーダーの[実際の開始日付]フィールドが更新されます。作業オーダーが完了すると、[実際の終了日付]と[完了数量]フィールドが更新されます。

アラート対象のタスクでは、実際の終了日付が処理オプションで指定する日数以上に計画より遅い場合、スケジュール例外メッセージが送信されます。購買オーダーや外注契約が添付されているタスクでは、受領日付が指定した日数以上に約束日付より遅い場合にアラート・メッセージが送信されます。

またレポートでは、完了作業オーダー数量と入荷済購買オーダー数量がオーダー数量と比較されます。完了または入荷済数量が処理オプションで指定した規定値以上にオーダー数量より少ない場合、またオーダーが終了しているか取り消しになった場合、数量例外メッセージが送信されます。

例外メッセージは、アラート・メッセージを送信しないように設定した場合でもレポートに表示されます。

処理オプション:プロジェクト・スケジュール・レポート(R31P400)

処理タブ

これらの処理オプションは、アラートの送信先、レポート実行の際にアラートが送信される状況を制御します。

1. タスク管理者への警告の送信

ブランク = 警告を送信しない

1 = 警告を送信する

タスクに関連付けられた管理者に、プロジェクトの警告を送るかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク

警告を送信しない

1

警告を送信する

2. タスク監督者への警告の送信

ブランク = 警告を送信しない

1 = 警告を送信する

タスクに関連付けられた監督者に、プロジェクトの警告を送るかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク

警告を送信しない

1

警告を送信する

3. タスクの担当者への警告の送信

blank = 警告を送信しない

1 = 警告を送信する

タスクの[担当者]フィールドで指定した住所番号にプロジェクトの警告を送るかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

blank

警告を送信しない

1

警告を送信する

4. メーリング・リスト

プロジェクトの警告の配布リストを指定します。

5. 計画終了または約束日付を基準とした、入荷遅延やオーダー完了のしきい値(日数)

計画終了日付または約束日付の後で、オーダーに対して入荷処理や完了処理を実行できる日数を指定します。入荷や完了の遅延の規定値を超えると、作業オーダーの場合はスケジュール例外メッセージが作業オーダーの担当者に、購買オーダーの場合は適切な担当者に例外メッセージが送られます。

6. 作業オーダーや購買オーダーのオーダー数量を基準とした、不足分のしきい値(パーセント)

作業オーダーまたは購買オーダーの不足分の許容パーセンテージを指定します。この規定値を超えると、作業オーダーの場合は作業オーダー数量例外メッセージが担当者に、購買オーダー・タスクの場合は購買オーダー数量例外メッセージが送られます。

デフォルト・タブ

これらの処理オプションは、作業オーダーまたは購買オーダー行が終了していると考えられる状況を指定します。

1. 締切済みの作業オーダーの状況

blank = 99

締め切った作業オーダーの状況を指定します。blankにすると、状況コード 99 が使用されます。

2. 締切済みの購買オーダー行の状況

blank = 999

明細行を締め切るかすべての品目を入荷した後の、オーダーの「次の状況」を指定します。この処理オプションをblankにすると、締め切られた明細行または入荷がすべて終わった明細行には状況コード 999 が割り当てられます。

プロジェクト原価レポート

〈プロジェクト・レポート〉メニュー(G31P14)から〈プロジェクト原価レポート〉を選択します。

〈プロジェクト原価〉レポート(R31P401)を使用してタスク一覧を印刷し、仕掛品の金額、予定/見積した資材費、労務費、その他費用、累計実際原価、部品表や購買オーダーから引き当てられた金額を表示します。作業オーダー・マスター(F4801)を基に、1 件または複数のプロジェクトのタスク情報を印刷できます。

仕掛品の金額は、製造原価テーブルのすべての原価タイプの実績金額合計から、製造原価テーブル(F3102)のすべての原価タイプの未計上の完了/仕損金額合計を差し引いて算出されます。結果がゼロになった場合は、例外は存在せず、仕掛品金額は印刷されません。仕掛品金額が正の数の場合、完了金額のすべてのアクティビティが報告されないことがレポートに示されます。値が負の数になった場合は、例外レポートが完了超過の状況であることを示します。

作業オーダー・マスター(F4801)の対応する原価フィールドから、レポート用に見積、計画、実績金額が取り込まれます。作業オーダー部品リスト・テーブル(F3111)と購買明細履歴テーブル(F43199)のコミットメント未消化額からコミットメント金額が算出されます。

累計の実際原価の合計が処理オプションで指定したパーセント以上に予算を超過した場合、アラート対象タスクに対し予算例外メッセージが作成されます。

タスクに関連する購買オーダーまたは外注契約があり、入荷金額が処理オプションで指定したパーセント以上に合計金額を超過した場合、支払超過例外メッセージが送信されます。

例外メッセージは、アラート・メッセージを送信するよう設定していない場合でもレポートに表示されます。

処理オプション:プロジェクト原価レポート(R31P401)

処理タブ

これらの処理オプションは、このレポート印刷時にアラートが送信されるタイミング、状況を制御します。予算上の例外を算出する際、仕掛品の金額を含めるかどうかも指定できます。

1. レポートの予算原価

1 - 見積り原価

2 - 計画原価

blank = 見積り原価

レポートの予算原価のソースを指定します。blankにすると、見積り原価がソースとして使用されます。

有効な値は次のとおりです。

1

見積原価

2

計画原価

2. タスク管理者への警告の送信

ブランク = 警告を送信しない

1 = 警告を送信する

タスクに関連付けられた管理者に、プロジェクトの警告を送るかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク

警告を送信しない

1

警告を送信する

3. タスク監督者への警告の送信

ブランク = 警告を送信しない

1 = 警告を送信する

タスクに関連付けられた監督者に、プロジェクトの警告を送るかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク

警告を送信しない

1

警告を送信する

4. タスク担当者への警告の送信

ブランク = 警告を送信しない

1 = 警告を送信する

タスクの[担当者]フィールドで指定した住所番号にプロジェクトの警告を送るかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク

警告を送信しない

1

警告を送信する

5. メーリング・リスト

プロジェクトの警告を送信する配布リストを指定します。

6. 予算原価差異のしきい値(パーセント)

予算と実際原価の差異の許容パーセントを指定します。規定値を超えた場合、予算例外メッセージが担当者に送られます。

7. 購買オーダー原価に対する入荷超過のしきい値(パーセント)

購買オーダーの原価に関連する入荷超過の許容パーセントを指定します。規定値を超えた場合、支払超過例外メッセージが担当者に送られます。

8. 予算例外を計算するための実際原価の計算に仕掛品を含める

Blank = 仕掛品を含めない

1 = 仕掛品を含める

予算の例外を計算するときに、仕掛品の金額を実際原価に含めるかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

Blank

仕掛品の金額を含めない

1

仕掛品の金額を含める

プロジェクト在庫レポート

〈プロジェクト・レポート〉メニュー(G31P14)から〈プロジェクト在庫レポート〉を選択します。

〈プロジェクト在庫〉レポート(R31P402)を使用して、タスクの部品リストを印刷します。作業オーダー・マスター(F4801)とMPMプロジェクト属性テーブル(F31P01)を基に、1件または複数のプロジェクトのタスク情報を印刷できます。部品リストの各構成品については、発注残数が計算、印刷されます。つまりオーダー数量から在庫数量を差し引いていきます。各構成品については、保管場所品目テーブル(F41021)が検索され、引当可能数量が決定します。

タスクがアラート対象で引当可能数量が処理オプションで指定した規定値以上にゼロを下回り、未処理数量がゼロより大きい場合、品目数量例外メッセージが送信されます。

例外メッセージは、アラート・メッセージを送信するよう設定していない場合でもレポートに表示されます。

処理オプション:プロジェクト在庫レポート(R31P402)

処理タブ

これらの処理オプションは、このレポート印刷時にアラートが送信されるタイミングと状況を制御します。

1. タスク管理者への警告の送信

ブランク = 警告を送信しない

1 = 警告を送信する

タスクに関連付けられた管理者に、プロジェクトの警告を送るかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク

警告を送信しない

1

警告を送信する

2. タスク監督者への警告の送信

ブランク = 警告を送信しない

1 = 警告を送信する

タスクに関連付けられた監督者に、プロジェクトの警告を送るかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

ブランク

警告を送信しない

1

警告を送信する

3. タスク担当者への警告の送信

ブランク = 警告を送信しない

1 = 警告を送信する

タスクの[担当者]フィールドで指定した住所番号にプロジェクトの警告を送るかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

プランク

警告を送信しない

1

警告を送信する

4. メーリング・リスト

プロジェクトの警告を送信する配布リストを指定します。

5. マイナスの在庫数量のしきい値(絶対値)

使用可能数量がマイナスになる場合の規定値を指定します。この規定値を超えると、その状態を知らせるメッセージが担当者に送られます。

プロジェクト完了

プロジェクトがスケジュール上の完了日付に達したら、プロジェクト情報をチェックして、まだ遂行されていないアクティビティを確認します。すべての製造/購買アクティビティは完了しているか取り消されていること、また顧客に配達すべきすべての製品が出荷済みであることを確認します。

作業原価システムを使用している場合、〈作業原価〉レポートとバッチ・プログラムを使用して財務レポートを作成し、分析/収益を確認できます。

正式にプログラムを完了するには、〈プロジェクト・ワークベンチ〉フォームの[フォーム]メニューから[プロジェクト締切り]オプションを使用します。[プロジェクト締切り]オプションを選択すると自動的に〈プロジェクト締切りアナライザ〉プログラム(R31P403)が起動し、プロジェクトを終了するのに必要な情報がすべて揃っているかが確認されます。プロジェクトを完了したら、プロジェクト状況が完了に変わります。〈プロジェクトの追加/改訂〉プログラム(P31P011)の[プロジェクト状況]タブでこの情報を確認できます。

参照

- 財務レポートと収益性分析については、『作業原価』ガイドの「利益認識」

プロジェクト締切りアナライザ

〈プロジェクト・レポート〉メニュー(G31P14)から〈プロジェクト締切りアナライザ〉を選択します。

〈プロジェクト締切りアナライザ〉プログラム(R31P403)を使用して、WBS を分析しプロジェクトを完了できるか判断します。〈EPM プロジェクト・ワークベンチ〉プログラム(P31P001)の〈プログラム・ワークベンチ〉フォームからプロジェクトを完了させる場合もこのプログラムを呼び出せます。このバッチ・プログラムは、1 度に1つのプロジェクトに対してのみ実行できます。プログラムが終了したら、プロジェクトを終了できるかどうかを示す値が示されます。

プログラムはすべてのタスクを確認し、次の問題があるかどうか判断します。

- 終了/取消のいずれでもない製造作業オーダーがあるかどうか
- 未処理の在庫コミットメントを持つ部品リストがあるかどうか
- 未決済の購買オーダーがあるかどうか

こうした問題が、プロジェクトのタスクに存在する場合、その問題を解決するまでプロジェクトは完了できません。